內閣統計局編纂

第五十二回

日本帝國統計年鑑

略和八年刊有

### 統計表正誤

頁	表	欄	行	誤	Œ
59	36	欄外備考	1 行日	全部	削除
104	78	7	14	1,037	1,037(541)
124	28	6	64	685,843(鈍)	686(強)
"	"	7	"	55,883(砘)	56(砘)
234	198	9	8	10.2	10.20
252	218	欄外備考	1 字目	外地	内地以外
338	332	"	3 字目	處	受
356	340	2	50	100	-
"	11	"	51	38	100
359	341	3	56	97,204,295	97,240,295
383	358	欄外備考	30字目	貸	货
396	373	"	33字目	アリタルトキ、	アリタルト
401	379	6	10	1,937	1,872
402	"	"	27	3,911	3,975
"	"	"	37	2,137	2,197
"	"	"	39	1,532	1,536
"	"	2	27	5,167	5,231
"	11	"	37	2,919	2,979
"	"	"	39	1,916	1,920
403	"	"	27	105	144
"	"	6	"	36	75
405	384	11	59	459	651
"	"	"	60	730	591
"	"	"	61	651	459
"	"	"	62	591	730
453	437	欄外備考	18字目	小額紙幣引換準備及	削除

75-**寨753** D42 A 100 10ウ

# 內閣統計局編纂

-070C#2010

第五十二回

# 日本帝國統計年鑑

昭和八年刊行





本書は各官公署の統計報告に基き、其の主要事項の要數を摘錄轉載し、又は之に若干集計を加へて編纂したものである。而して其の比例平均等は右報告より轉載したものもあるが、多くは本局に於て算出したものである。

本書に於ける度量衡單位は第四十九囘年鑑以降若干の例外を除き悉く之をメートル法に改正した。

本書に於ては高級數位の計數は多くの場合一定單位未滿を四捨 五入したる略數を掲げ、四捨五入の結果數量一單位に達せざるも のあるときは之を「〇」を以つて示した。 尚該當數無きものは「一」、不 詳のものは「…」を以て示した。

本書に於て「外地」と稱するは朝鮮、臺灣及樺太を指し、尚「內地以 外」とは上記外地の外關東州、南滿洲鐵道附屬地及南洋委任統治區 域を併せたるものを指す。

本書に掲ぐる計數の出所は之を「計數出所目錄」として卷末に其の書目を掲げ、精密なる計數を知らむとする者の便に供した。



# 總目次

統	計 表	目次				
索		引				
度	量衡比轉	<b> </b>	<b></b> 数並	貨幣	<b></b>	
統	計					
略		說				
統	計					
	.,	摘	更		表	2—7
	1.				象	
	2.	人				
	3.		及		產	
	4.				業	
	5.				<b>融</b>	
	6.	回来	X		易	
					通······	
	7.	交				
	8.		了号		業	
	9.	勞			働	
	10.				教	
	11.				災害	
	12.	司			法	
	13.	財			政	340–394
	14.	選舉、	官位	公吏	豆、軍事及恩賞	395-423
		國際	統	計	表	430-459
計	數	出 所	目	金	錄	
內	閣統言	计局刊	行	書目		

## 統計表目次

		頁 2
	1. 土地及氣象	
表號		Q
2.	周圍及面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
3.	民有地	
4.	北海道地積	
5.	北海道年期地	
6.	氣象總寶	
7.	月別氣象	
	2. 人 口	
8.		
9.	帝國ノ人口	
	世帶棒成別普通世帶及人員 25	
10.		
11.	世帶主、家族、職業使用人及家事使用人——26 年齡及配偶關係別人口————————————————————————————————————	
12.	職業(中分類)及職業上ノ地位別人口 28	
13.	職業(中分類) 烈本業者、本業ナキ從屬者及家事使用人・20	
15.	職業(中分類)別本業者、本業テキ従屬者及家事使用人・30職業(大分類)別本業者、本業ナキ從屬者及家事使用人・30	
16.	無素(人力類)が全来省、全業プー作機関省及家事使用人・50 抽出調査=依ル職業別産業別人口(昭和五年國勢	}
10.	調査)	4
17.	抽出調査=依ル年齡及職業(中分類)別人口(昭和	Ł
11.	五年國勢調査)	
18.	推計人口 36	
19.	人口階級別市町村數及人口	
20.	市/世帶及人口	
21.	人口二萬以上町村/世帶及人口 40	
22.	民籍及國籍別人口 41	
23.	北海道アイヌ人口	*
24.	婚姻、離婚、出生、死產及死亡42	
25.	姆 如	
26.	離 婚	3
27.	夫婦關係繼續期間別離婚49	)
28.	出生、死產身分別	)
29.	死亡月别51	
30-	死亡年齡別51	
31.	乳兒死亡	
32.	死亡原因別	
33.	職業(中分類)及死因別死亡者54	
	死因月別57	
	死因年齡別58	
	死因地方别59	
	生命表62	
	北海道來住者及往住者64	
	渡航者及歸航者	
	國籍變更64	
	外國旅券下附入員 65	
	移 尺65	
	在外內地人 67	
	在外本邦人職業別(內地人)68	
	內地在留外國人國籍別70	
	內地在留外國人職業別	
Al.	本邦駐剳各國公館人員7	

	3. 農林及水産
表號 48	H
49.	
50.	
51.	10
52.	
53.	
54.	in he belief
55.	農産物價額79
56.	
57.	77.1.4
58.	24 PART 26/6
59.	01
60.	01
61.	屠 寄85
62.	搾 乳
63.	乳內製品87
64.	果 實88
65.	林野面積
66.	森林及林產額
67.	狩獵免狀下附數91
68-	保安林
69.	漁業者及漁船數 … 93
70.	漁獲物94
71.	水產製造物96
72.	遠洋漁業
73.	水產養殖
74.	製 鹽
75.	產業組合
76.	同業組合及聯合會
10.	
	4. 鑛業及工業
77.	鑛 區
78.	鍍 產
79.	製造場
80-	各種工業職工數 108
81.	工業生產高 110
82.	製絲業
83.	織物生產高 115
84.	織物生產高種類別 116
85-	朝鮮人蔘 116
86.	臺灣製糖及阿片116
87.	石炭產出高
88.	石油製產高 117
89.	特許及登錄
90-	發明特許及實用新案種類別 … 118
91.	電氣事業
92.	發電所
93.	電氣需用 120
94.	瓦 斯 121
95.	度量衡器及計量器 122
	5. 商業及金融
96-	商工會議所 123

发脱 07。	取引所	123	表號 151.	橋 梁	190
98.	清算取引	124		通信局所	
	米穀取引所(清算取引先物平均相場)			內國郵便及電信	
100-	物 價	126		外國郵便及電信	
	會 社			通常郵便線路	
	銀行總覽·····			電信及電話線路	
	日本銀行兌換券			電 話	
	日本銀行金利 ·····			鐵 道	
	横濱正金銀行為替諸手形			鐵道運輸	
	横湾正金銀行券			鐵道營業收支	
	正貨現在高			地方鐵道職員	
	通貨流通高			鐵道事故	
	日本勸業銀行债券		163.	電氣軌道	201
	日本勸業銀行貸付金			汽動車軌道	
	農工銀行債券			馬車軌道	
	農工銀行貸付金		166-	人車軌道	201
	北海道拓殖銀行债券		167.	諸車交通事故	202
114.	北海道拓殖銀行貸付金	146		諸 車	
115.	臺灣銀行券	147	169.	航 空(民間)	205
116.	朝鮮銀行券	147	170-	航路標識	206
117.	日本興業銀行債券	147	171	入港船舶	207
118-	普通銀行營業狀況	148	172.	船舶噸數別	208
119.	貯蓄銀行營業狀況	149		船質及船齡別	
120.	信託業	150	174.	船舶地方别	210
121.	擔保付社債信託業······· 無盡業·····	150		帆船石數別	
122.	手形交換高	151	-	小 船	
	金利高低・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			造船所及船渠	
	外國為替相場			海 員	
126.	郵便爲替	154			
150.			100		
127.	郵便貯金	155		海員審判所	
127.		155	181.	遭難船舶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	214
127. 128. 129.	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金	155 156 157	181.	遭難船舶	214
127- 128- 129- 130-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行	155 156 157 157	181.	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社 會 事 業	214 215
127- 128- 129- 130- 131-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況	155 156 157 157 158	181· 182· 183·	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社 會 事 業 社會事業施設類別	<ul><li>214</li><li>215</li><li>216</li></ul>
127. 128. 129. 130. 131. 132.	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險	155 156 157 157 158 162	181- 182- 183- 184-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業獎勵助成金	<ul><li>214</li><li>215</li><li>216</li><li>218</li></ul>
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險	155 156 157 157 158 162 164	181- 182- 183- 184- 185-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業獎勵助成金 社會事業事業費	214 215 216 218 220
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險	155 156 157 157 158 162 164	181- 182- 183- 184- 185- 186-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業獎勵助成金 社會事業事業費	214 215 216 218 220 220
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出	155 156 157 157 158 162 164	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學勵助成金 社會事業事業費 軍事救護	214 215 216 218 220 220 221
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出	155 156 157 157 158 162 164 165	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費 軍事救護 罹災救助基金 恤 救	214 215 216 218 220 220 221 222
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6- 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支	155 156 157 157 158 162 164 165	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費 軍事救護 罹災救助基金 恤 救	214 215 216 218 220 220 221 222 223
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額	155 156 157 157 158 162 164 165	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社 會 事 業  社會事業施設類別  社會事業獎勵助成金  社會事業專業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救・  養育棄兒	214 215 216 218 220 220 221 222 223 223
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社 會 事 業  社會事業施設類別  社會事業獎勵助成金  社會事業事業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救・  養育棄兒  釋放人保護  行族病人及行族死亡人	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣結造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 169	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業施設類別  社會事業獎勵助成金  社會事業專業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救・ 養育棄兒  釋放人保護 行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會	214 215 216 218 220 220 221 222 223 223 224 225
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 139-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 169 170	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費· 軍事救護 罹災救助基金 恤 救· 養育棄兒 釋放人保護· 行族病人及行族死亡人 勞務者共濟會 映畫檢閱	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 225
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 139- 140-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費 軍事救護 罹災救助基金 恤 救 養育棄兒 釋放人保護 行旅病人及行旅死亡人 勞務者共濟會 映畫檢閱 娛樂場	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 225
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 139- 140- 141-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 171	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費· 軍事救護 罹災救助基金 恤 救· 養育棄兒 釋放人保護· 行族病人及行族死亡人 勞務者共濟會 映畫檢閱	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 225
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣結造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入 質易船舶出入 輸出入國別 輸移出品々目別.	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社 會 事 業  社會事業施設類別  社會事業獎勵助成金  社會事業專業費  軍事救護  罹災救助基金 恤 救・  養育棄兒  釋放人保護  行旅病人及行旅死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 225 226
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 貿易船舶出入 續出入國別 輸移出品之目別。	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 169 170 170 170 171 173 177	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194-	遭難船舶 汽船會社營業狀況 8. 社會事業 社會事業施設類別 社會事業學闡助成金 社會事業事業費 軍事救護 罹災救助基金 恤 救 養育棄兒 釋放人保護 行旅病人及行旅死亡人 勞務者共濟會 映畫檢閱 娛樂場	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 225 226
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 139- 140- 141- 142- 143- 144-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6- 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入 輸出入國別 輸移出品之目別 輸移入品之目別 輸移入品之目別	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業施設類別  社會事業獎勵助成金  社會事業專業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救・  養育棄兒  釋放人保護 行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會 映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 225 226 227 230
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 139- 140- 141- 142- 143- 144- 145-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6- 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入 貿易船舶出入 輸出入國別 輸移出品之目別 輸移入品之目別 輸移入品之目別 輸出品國別	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業施設類別  社會事業學勵助成金  社會事業事業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救  養育棄兒  釋放人保護  行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果 工場及從業者 工場及職工數  收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支因內譯。	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 225 226 227 230 232 232 244 225
127- 128- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143- 144- 145- 146-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 輸出入品種類別價額 港別輸出入 貿易船舶出入 質易船舶出入 輸出入國別 輸移出品。目別 輸移入品。目別 輸移入品。目別 輸出品國別 ・輸入品國別 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186 188	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業施設類別  社會事業學職助成金  社會事業專業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救  養育棄兒  釋放人保護  行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果 工場及從業者 工場及職工數	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 225 226 227 230 232 232 244 225
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143- 144- 145- 146- 147-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣鑄造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 權別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入 質易船舶出入 輸出入國別 輸移出品。 轉移出品。  輸移入品。  輸移入品。  輸移入品。  輸出品國別  北海道移出入品價額  棒太移出入品價額	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186 188	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198- 199-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業施設類別  社會事業學勵助成金  社會事業事業費  軍事救護  罹災救助基金  恤 救  養育棄兒  釋放人保護  行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果 工場及從業者 工場及職工數  收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支因內譯。	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 225 226 227 230 232 234 232 234 236
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143- 144- 145- 146- 147- 148-	郵便貯金	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186 188 188	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198- 199- 200- 201-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業與別  社會事業學闡助成金  社會事業學學  軍事救護  罹災救助基金  恤 救-  養育薬兒  釋放人保護-  行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果  工場及機業者  工場及職工數  收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支出內譯-  公設職業紹介  日傭勞働紹介  家庭職業紹介	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 226 227 230 232 232 233 233 234 233 233 233 233 233
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143- 144- 145- 146- 147- 148-	郵便貯金 振替貯金 造幣局受入金銀銅地金 貨幣結造及發行 保險會社營業狀況 簡易生命保險 健康保險 郵便年金事業收入支出 6. 貿 易 輸移出入品總額及貿易外收支 內外國產別及特別輸出入品價額 體出入品種類別價額 港別輸出入 月別輸出入 貿易船舶出入 貿易船舶出入 輸出入國別 輸移出品。 輸移入品。有目別 輸移入品。有目別 輸移入品。有目別 輸水品。國別 北海道移出入品價額 構太移出入品價額 南洋輸移出入品價額 。	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186 188 188	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198- 199- 200- 201- 202-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業與別  社會事業與剛助成金  社會事業要業費  軍事救護  罹災救助基金 恤 救  養育棄兒  釋放人保護  行旅病人及行旅死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果  工場及職工數  收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支田內譯  公設職業紹介  目傭勞働紹介 家庭職業紹介	214 215 216 218 220 221 222 223 223 224 225 226 227 230 232 234 236 238 238 238 239
127- 128- 129- 130- 131- 132- 133- 134- 135- 136- 137- 138- 140- 141- 142- 143- 144- 145- 146- 147- 148- 149-	郵便貯金	155 156 157 157 158 162 164 165 167 169 170 170 170 171 173 177 183 186 188 188 188	181- 182- 183- 184- 185- 186- 187- 188- 189- 190- 191- 192- 193- 194- 195- 196- 197- 198- 199- 200- 201- 202- 203-	遭難船舶 汽船會社營業狀況  8. 社會事業  社會事業與別  社會事業學闡助成金  社會事業學學  軍事救護  罹災救助基金  恤 救-  養育薬兒  釋放人保護-  行族病人及行族死亡人  勞務者共濟會  映畫檢閱  娛樂場  9. 勞 働  勞働統計實地調查結果  工場及機業者  工場及職工數  收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支出內譯-  公設職業紹介  日傭勞働紹介  家庭職業紹介	214 215 216 218 220 221 222 223 224 225 226 227 230 232 234 236 238 238 238 239 240

	MINIXIX	-
51.	橋 梁	190
52.		191
53.		192
54.		193
55.		194
56.		194
57.		195
58.		196
59.		198
60.		200
61.		200
62.	鐵道事故	
63.	電氣軌道	
64.	汽動車軌道	
65.	馬車軌道	
66.	人車軌道	
67.	諸車交通事故	
68.	諸 車	
69.	航 空(民間)	
70.	航路標識	
71.	入港船舶	
72.	船舶噸數別····	
73.	船質及船齡別	
74.	船舶地方別	
75.	帆船石數別	
76.	小 船	
77.	港灣 造船所及船渠	212
78.	海 員	
79.	海員審判所	
80-	遭難船舶	
81.	汽船會社營業狀況	
02.		41.9
	8. 社會事業	
83.	社會事業施設類別	
84.	社會事業獎勵助成金	
85.	社會事業事業費	
86.	軍事救護	
87.	罹災救助基金	221
88-	恤 救	222
89.	養育棄兒	
90.	釋放人保護	
91.		
92.		
193.		
94.	娛樂場	226
	9. 勞 働	
195.	勞働統計實地調查結果	227
96.	工場及從業者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
97.	工場及職工數	
98.	收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支出內譯…	
99.		
	日傭勞働紹介	
		The second second

表號		T
261.	盗難其ノ他被害人員	296
262-	被殺害者	296
263.	災害其他/事故=テ死セシ人員	
264-	醫藥業	
	每	
265-		
266.	傳染病患者	
267.	精神病者	301
268-	水 道	302
269-	墓地及埋火葬	303
270.	水災、潮災及暴風雨被害	
271-	火 災	
272.	消防員及機械器具	
273.	貸座敷、料理屋及藝娼妓數	308
	12. 司 法	
274.	區裁判所取扱件數	310
275.	地方裁判所取扱件數	
276-	控訴院取扱件數	
	大審院取扱件數	
277.		
278-	區裁判所訴訟件數	
279.	區裁判所訴訟事件金額別	
280-	區裁判所訴訟終局件數	312
281.	區裁判所非訴訟事件	
282.	和解事件	
	督促事件	
283.		
284.	戸籍=闘スル抗告件數	
285.	强制執行事件	
286.	區裁判所取扱破產事件	314
287.	借地借家調停事件	314
288.	地方裁判所第一審訴訟件數	
289.	地方裁判所第一審訴訟事件金額別	214
	地方教刊所另一番訴訟事件虚領別	314
290-	地方裁判所第一審訴訟終局件數	315
291.	地方裁判所控訴件數	
292.	地方裁判所抗告件数	
293.	地方裁判所取扱破產事件	315
294.	小作調停事件	
295-	控訴院控訴件數	
	控訴院上告件數	
296-	公證事務	210
297.	供託事件	910
298-	執達吏事務	217
299-		
300-	外國人=闘スル訴訟件數・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
301.	朝鮮、臺灣、關東州民事事件	318
302-	刑事事件取扱件數	
303-	犯罪搜查終局事件及豫審終局被告人	319
304.	刑事第一審事件	319
305-	刑事控訴事件	
306.	刑事上告事件	
307.	朝鮮、臺灣、關東州刑事事件	
308.	第一審刑法犯罪名別	321
309.	第一審刑法犯原因別	
310-	第一審刑法犯年齡別	
311.	第一審刑法犯罪名及刑名別	
312-	第一審刑法犯受刑度數	
313.	刑法犯執行猶豫及取消	
314.	第一審刑法犯加重及滅輕	326
315.	第一審特別法犯罪名及刑名別	327
316.	特別法犯執行猶豫及取消	
	Add at 1 11 at 1	

				統計表目次	4
aderila.		т.	授機		A
318.	刑事略式事件	328	381 -	現役陸海軍人及俸給	404
210	違警罪即決事件·····	328	382	國有鐵道職員	404
319-	<b>建智非印闪事</b> 什	220	202	通信職員	404
320-	外國人=闘スル第一審刑事事件	529	383-	旭信城貝	105
321-	登 記	330	384.	警察官署及職員	400
322.	在監人員	332	385.	司法官署及職員	406
222	入監出監人員	333	386.	在外公館及官吏	407
323.	八島山塩八貝	221	207	宮內職員及俸給	407
324.	在監受刑者罪名及刑名別	204	301.	呂內城貝及降和	107
325-	懲役在監受刑者刑期別	334	388.	宮內官吏部局別	407
326.	新受刑者罪名別	334	389.	地方吏員及俸給	408
227	新受刑者犯數別	334	300-	<b></b>	410
321.	利文川省北级川	226	204	陸軍衞戍病院及職員	414
328-	新受刑者/年齡其他/關係	550	391.	<b>医</b> 早	115
329-	新受刑者刑名別	336	392.	憲兵隊人員	410
330.	體刑及財產刑執行被告人	336	393.	憲兵取扱犯罪人員	415
221	在監人罹病及轉歸	337	394	陡雷軍法命謎	416
221.	少年刑務所	999	205	陸軍衞戍刑務所	416
332.	少年刑務所	000	393.	陸軍諸學校	4177
<b>3</b> 33.	在監人作業	338	396.	陸軍諸學校	417
	13. 財 政		397.	艦船隻數及基準排水量	417
	TO AS AS	940	398.	海軍墓兵人員	418
334.	歲入歲出	540	200	航空(海軍)	419
335.	歲入款別	340	393.	加空(海里)	410
336.	歲出所管別	341	400.	海軍所轄別患者數	419
227	歲入經常部款項別	349	401.	海軍兵種別患者數	419
331 .	<b>威</b> 人腔节即队员加	010	102	海軍事来底夕別	420
338-	歲入臨時部款項別	342	400	法害面缘形	421
339-	歲出經常部款項別	343	101	海雷下上台及丘/费田	421
340-	传用随時就對項別	349	105	<b>煮雷敦风</b> 檬	421
2/11	<b>姓别</b> 合計	358	405	恩給、扶助料受領權人員及金額	422
2/12	朝鮮總督府特別會計款項別	360	400	恩給、扶助料受領權裁定人員及金額	423
242.	臺灣總督府特別會計款項別	361	407.	思給、扶助料受領權消滅	423
244	臺灣經貨的特別會計款項別	363	408-	总	120
344.	作入腮行列曾可以均加·····	264	409.	<b>警察</b> 自恩給及扶助村	191
345.	關東廳特別會計款項別	904	410.	年金、恩給拂渡高口數及金額	424
346.	南洋廳特別會計款項別	300	411.	有爵人員	425
347.	歲入歲出豫算純計額	366	412-	有位人員	425
348-	所得稅納稅人員	370	413.	勳章佩用人員	425
349-	所得稅稅額	371	111	从剧人 安华動人 昌	426
350.	<b>笆=</b> 種所得種類別	372	115	从剧動音即音個用人目	426
351.	昕得全額	374	416.	即音偏用人員及功學者賜杯	426
352	地租納稅人員	375	117	加日動音年全	427
252	地租地目別	376	110	金鵄勳章年金	428
333.	營業收益稅	377	410	勳章褫奪人員	428
354.	國赁現在高	270	419.	新早航寺八員 ・	420
355-	図	010	420.	褒狀、賞杯、金員表彰	190
<b>3</b> 56.	税關,收入	379	421.	波狀、負朴、金貝衣衫	145
357.	國有財產	380		國際統計表	
250	昭和五年國富推計額	382		四次小儿口文	
200.	大藏省預金部預金	384	422.	面積及人口	430
339.	人飛行 以玉即以玉	904	423.	主要都市人口	431
360-	貸付金	584	424	職業別人口	433
361.	道府縣歲入	335	100	婚姻及離婚	125
362	道府縣歲出	386			100
202	市歲入	387	426-	出 生	
303.	市蔵出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	200	427.	死 亡	
364.	巾威山	000	428-		438
365.	町村蔵入	. 389		移民	
366.	町村歳出	390	429.	19 K	400
267	道府縣有財產	391	430.	人口增加率	459
201.	市町村基本財産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 309	431.	主要農產物作付面積	440
308.	即門	200	432	主要生產品	444
369-	水利組合及水害豫防組合歲入歲出	. 393	102.	貿易	448
370.	地方债	394	100000	具 勿	450
	14. 選舉、官公吏、軍事及恩賞		434.		450
11.14	17 选学、日ム英、半事从尽具	207	435.	鐵 道	451
371.	貴族院議員	. 299	436.	正貨準備高	452
372.	貴族院多額納稅者議員及互選者	• 395	127	通貨流通高	453
372	衆議院議員選舉	. 396	431 .	THE SECTION AND ADDRESS OF THE SECTION ADDRESS OF THE SEC	454
074	衆議院議員年齡及職業別	. 397	438.	卸賣物價指數	101
3/4.	<b>承</b>	901	439.	生計費指數	454
375.	府縣會議員選舉	. 597	440.	<b>娄</b> 働組合員	455
376.	市町村會	- 398	441	歲入歲出總額	456
277	那市町村數及役所役場數	- 399	441.	國 债	457
270	<b>方</b> 古人 昌 及 <b>佐</b> 絵	• 400	442.	図 頂	101
370	文官部局別	. 401	443.	小學校及中等學校	458
300	文武官休職人員	. 403	444.	議員及選舉有權者數	459
300	APVE POWACE				

# 索 引

	210
7	* The state of the
1	本索引は主要項目を發音に依り五十音順に配列せり
Ľ	—(F)—
十	阿 片
*	-(1, #)-
か、	
+	造警罪即決事件····· 醫 師······
0	齒科醫師
部	移民
	內 國
	列 國 4
	飲食店
	-(I, I)-
	营業收益稅
	智業八貝
	營利職業紹介2
	衞 生
	醫藥業
	種痘人員
	傳染病
	水 道
	墓地及埋火葬 30
	映畫檢閱 25
	遠洋漁業
	一(オ、ラ)ー
	大藏省預金部
	預金 38
	貸付金     38       資金     38
	卸賣物價
	內 國
	列 國 45
	恩 給422—42
	<b>一(カ)</b> 一
	海軍
	軍 艦41
	現役軍人
	募兵人員41
	刑務所
	下士官及兵ノ費用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
	惠 者
	諸學校
	海 運
	海貝
	海技免款受有者 21
	船員手帳受有者······21: 海員審判所······21:
	件具番利別 21: 外國旅券下附入員 6
	外國人
	現在人口(國勢調査)
	現在人口(國勢調査)

70	
國籍別	
公館人員71	
<b>教</b> 員、學生、生徒······ 278	
民事訴訟	
第一審刑事々件 329	
新敍勳人員 426	
會歷	
資本企高別··········132	
養本金地方別・・・・・ 134 營業種類別(外地へ136頁)・・・・・ 135	
营業種類細別··········136	
商船會社 215	
商事會社登記	
會員組織取引所 123	
學 校	
學 生	
Mar & Mar &	
學齡兒童     252       學齡兒童中盲聾啞者     258	
Web commands	
學習院	
各種/學校276	
火 災	
火 菲	
貨 席	
貸座敷 308	
加重減輕	
瓦 斯	
家畜	
總 數82	
生產及斃死84	
傳染病84	
交 易84	
屠 寄85	
搾 乳86	
乳肉製品87	
家 禽82	
家庭(內職)職業紹介	
活動寫眞225—226	
貨幣	
官 吏	
官廳現業員共濟組合 248	
簡易生命保險	
觀物場	
-(+)-	
議員選舉395—398	
貴族院	
衆議院 396	
府縣會	
市町村會398	
列 國	
氣 象	
總 覽14	
月 別16	
累年平均16	
章	
佩 用	

外國徽章……426

汽船會社營業狀況	215	
汽動車軌道		数
軌 道		漁
電 氣	901	Uni
汽動車	201	
馬 車		
人 車		
救助220—	-225	
罹災救助基金	221	
恤救人員及金額		-
棄 兒	223	们
行旅病人及死亡人		伊
日傭勞働者共濟		伊
牛 車		共
橋梁····	190	
教 育251-	-288	
總 覽	251	協
幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		基
小學校(列國ハ 458頁)251		金
中學校(同 上)		19 19
高等女學校	263	
實科高等女學校·····	264	
盲啞學校	259	
和範學校	260	
高等師範學校	200	
青等即恥學校····································		
女士高等即範學校···· 臨時教員養成所·····	201	
臨時教員養成所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	201	
專門學校	200	
實業專門學校	275	
高等學校		
大 學		4
實業學校····		
實業補習學校	270	
各種ノ學校	276	
學習院		
學齡兒童		
學齡兒童中盲聾啞者		
<b>教</b> 員檢定·····	261	
入學志願者及入學者	269	
外國人敎員、學生、生徒		
文部省留學生		
博 士		
學生、生徒、兒童體格		
男女青年國		51
青年訓練所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		al
小學教員俸給		4
		لذ
公學養產		
公學收入		
公學費	286	
敦 員		
總 數	951	
		17
平均俸給(小學校)	285	
數員檢定合格者	Seway.	li
小學校教員	261	F
中等科教員		秉

п
高等科教員 261
敦 會
漁 業
漁業者數93
漁船數
漁獲物價額94
水產製造物價額96
遠洋漁業
水產養殖
製 鹽
行 刑
供託事務
供託局職員
共濟組合
官廳現業員 248
共濟團體 249
協調組合(地主、小作人) 247
基督教
銀 行
總 覽140
日本銀行142
横濱正金銀行142
日本勸業銀行 143
農工銀行 145
北海道拓殖銀行 146
臺灣銀行 147
朝鮮銀行
日本興業銀行147
普通銀行148
貯蓄銀行149
金融
銀 行
金 利
正貨及紙幣流通高(列國ハ452—453頁)143
信託業150
無盡業 150
無 新
113 34-110 01
外國為替相場
郵便為替
郵便貯金
郵便振替貯金 156
貨幣 157
金 利
日本銀行金利
金銀銅地金
產 額 104
造幣局受入 157
輸移出入189
<b>一(カ)</b> 一
宮內官吏
區裁判所取扱事件310-314
區役所
at the

	軍 艦	417
	勳 章	
4	佩用數	425
'	褫 奪	428
Lyw	外國勳章年金	426
5	旭日勳章年金	
3	金鵄勳章年金	
0	軍事救護	
F		
	-( <i>†</i> )-	
	刑事裁判	
	總件數	
	第一審事件	
	控訴事件	
	上告事件	
	植民地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	刑事略式事件	328
	刑法犯第一審	
	罪名別	
	原因别	
	年齡別	
	刑名別	
	罪名刑名別	
	受刑度數	
	加重減輕	326
	外國人=闘スル事件	329
	刑法犯執行猶豫	
	刑/執行	
	刑務所	
	少年刑務所	
	警 祭	
	犯罪檢舉件數	
	盗難其,他被害人員	
	被殺害者・・・・・・	
	警察署	
	計量器	
	藝 妓	
	置 場	
	劇 場	
	現住人口(植民地)	19
	現在人口(國勢調査)	
	總 數	
	世帶別	
	世帶構成別普通世帶及人員	
	世帶主、家族、職業使用人及家事使用人	
	年齡配偶關係別	
	職業及職業上ノ地位別28-	
	市 別	
	町村別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	民籍國籍別	
	健康保險164	165
	憲兵隊	
		415
	取扱犯罪人員	415
	—(J)—	
	耕地	

3 索 引

	I
面 積	72
所有者戶數	73
<b>鍍 業</b>	117
<b>鑛 區····································</b>	
<b>鑛 產</b> ·····	
石 油	117
鍍 夫	
勞役人員	
傷病扶助	246
<b>鑛山變災死傷人員</b> ·····	246
工業106	-116
製造場	106
各種工業職工數	
生 產	100
内 國	110
列 國	
蠶絲生產高	
織物生產高	
同 種類細別	116
製 糖	116
樟腦產出	116
阿 片	116
工 場	
工場數·····	
從業者數	
職工數	
	230
傷害扶助·····	
交 道190-	
道 路	
橋 梁	190
港 灣	212
通 信	191
鐵 道(列國ハ 451頁)	
軌 道	
諸 車	
事 故	
汽船會社營業狀況	
港 灣	
航 空205.	
航路標識	206
行旅者救濟	
病 人	224
死亡人	
高等女學校	
高等學校	
高等科教員檢定	
高等師範學校	
公設職業紹介	
公學資產	
公學收入	
公學費	
公 吏	-409
公 證	100
公證人····································	406
561 N. C.	SIN

公館人員 カルナヤスタ	
At 7 ( A 7 ) X 8 8	
本邦駐剳各國公館71	
控訴院取扱件數	
民 事311—316	
刑 事 320	
小賣物價 129	
小包郵便物192. 193	
小 船	在
小作爭議 242	在
小作人組合	在
小作人、地主協調組合 247	3%
國籍及民籍別人口41	拊
國籍變更64	產
國有財產	產
國富推計額	Ц
國 債 內 國	
157	商
列 國	
婚姻、離婚、出生、死產、死亡	
總數	
市 别	
内地外ノモノ	
婚姻	
種類別	
年齡別	T I
列 國	The state of the s
	70
	1
<b>一(サ)</b> 一	
財 政340—393	
財 政 340-393 歳入歳出(列國へ 456頁) 340-349	
財 政·	
財 政·     340—393       歲入歲出(列國ハ 456頁)     340—349       特別會計     358—365       豫算純計額     366—369	3
財 政···     340—393       歲入歲出(列國へ 456頁)···     340—349       特別會計···     358—365       豫算純計額···     366—369       租 稅···     370—378	3
財 政・・・・ 340—393 歳入歳田(列國ハ 456頁)・・・ 340—349 特別會計・・・ 358—365 豫算純計額・・・ 366—369 租 税・・・・ 370—378 國 賃(列國ハ 457頁)・・・ 379	3
財 政・・・・ 340-393 歳入歳出(列國ハ 456頁)・・・ 340-349 特別會計・・・・ 358-365 豫算純計額・・・ 366-369 租 税・・・・ 370-378 國 賃(列國ハ 457頁)・・・ 379 稅閣收入・・・ 379	3
財 政・・・・ 340-393 歳入歳出(列國ハ 456頁)・・・ 340-349 特別會計・・・・ 358-365 豫算純計額・・・ 366-369 租 税・・・・ 370-378 國 債(列國ハ 457頁)・・・ 379 稅關收入・・・ 379 國有財産・・・ 380-381	3
財 政・・・・ 340-393 歳入歳出(列國ハ 456頁)・・・ 340-349 特別會計・・・・ 358-365 豫算純計額・・・ 366-369 租 税・・・・ 370-378 國 債(列國ハ 457頁)・・・ 379 稅關收入・・・ 379 國有財産・・・ 380-381	3
財 政・ 340—393 歳入歳出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 税・ 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財産・ 380—381 國富推計額 382	3
財 政· 340—393	
財 政······ 340—393	
財 政······ 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁)···· 340—349 特別會計···· 358—365 豫算純計額···· 366—369 租 稅···· 370—378 國 債(列國ハ 457頁)··· 379 稅關收入···· 379 國有財產···· 380—381 國富推計額··· 382 預金部預金及貸付···· 384 地方財政···· 385—394 歲入歲出總額··· 340	
財 政···· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅··· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產·· 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常、臨時部別總額 340	
財 政···· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅··· 370—378 國 賃(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及賃付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、臨時部別總額 342	
財 政···· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅··· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常亦款項別 342 歲入應時部款項別 342	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常部款項別· 342 歲入臨時部款項別· 342 歲出所管別總額 342 歲	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、臨時部別總額 342 歲出所管別總額 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 342 歲出所管別總額 341	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 較關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入歲出總額 340 歲入經常部款項別 342 歲入臨時部款項別 342 歲出無常款項別 342 歲出無常款項別 342 歲出無常款項別 343 歲出臨時部款項別 343	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入凝胃、臨時部別總額 340 歲入經常、蘇時部別總額 340 歲入經常亦款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 343 歲出臨時部款項別 343	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產· 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入經常常款項別 340 歲入經常部款項別 342 歲出經常款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343	
財 政···· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計··· 358—365 豫算純計額··· 366—369 租 稅··· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入··· 379 國有財產·· 380—381 國富推計額··· 382 預金部預金及賃付 384 地方財政··· 385—394 歲入經常部款項別··· 340 歲入經常部款項別··· 342 歲出所管別總額··· 343 歲出臨時部款項別··· 343 歲出臨時部款項別··· 343 歲出臨時部款項別··· 348 裁 判	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產· 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入經常常款項別 340 歲入經常部款項別 342 歲出經常款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 342 歲出經常部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343 歲出經時部款項別 343	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計· 358—365 豫算純計額· 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入· 379 國有財產· 380—381 國富推計額· 382 預金部預金及賃付 384 地方財政· 385—394 歲入經常部款項別· 345 歲入經常部款項別· 342 歲入經常部款項別· 342 歲出經額· 341 歲出經濟部款項別· 342 歲出經濟部款項別· 342 歲出經濟部款項別· 343 歲出經濟部款項別· 348 歲則	
財 政・ 340—393 歳入歳田(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歳入經常常款項別 340 歲入經常部款項別 342 歲人經常部款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 343 歲出原時部款項別 345 歲到所及職員 406 民事本件 310—319 刑事本件 319—329 在監人	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、蘇時部別總額 340 歲入經常亦款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經濟部款項別 343 歲出臨時部款項別 343 歲出臨時部款項別 343 歲出臨時部款項別 348 表 判	
財 政・ 340—393 歳入歳田(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 經有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歳入歲田總額 340 歳入經常、臨時部別總額 340 歳入經常、臨時部別總額 340 歳入經常、臨時部別總額 341 歲出經常部款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經常部款項別 342 歲出臨時部款項別 343 343 343 343 343 343 343 343 343 34	
財 政· 340—393 歲入歲出(列國ハ 456頁) 340—349 特別會計 358—365 豫算純計額 366—369 租 稅· 370—378 國 債(列國ハ 457頁) 379 稅關收入 379 國有財產 380—381 國富推計額 382 預金部預金及貸付 384 地方財政 385—394 歲入經常、臨時部別總額 340 歲入經常、蘇時部別總額 340 歲入經常亦款項別 342 歲出所管別總額 341 歲出經濟部款項別 343 歲出臨時部款項別 343 歲出臨時部款項別 343 歲出臨時部款項別 348 表 判	

	π
	新受刑者犯數別 334
	新受刑者刑名別 336
	新受刑者年齡別 336
	新受刑者飲酒關係
	新受刑者教育程度 337
	新受刑者身分別
	新受刑者職業別
	新受刑者養育者別
	在外公館官吏
	在外本邦人
	在本邦外國公館人員7
	災 害
	產 婆 297 產業組合 100
	00 00
	<b>一(シ)</b> 一
	商 業
	商工會議所
	取引所
	清算取引124
	** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **
	卸賣物價(列國へ 454頁)
	小賣物價
1	商事會社
	齒科醫師
	事故
-	鐵 道
1	207
	011
-	死 傷 災害事故(警察)
-	
	904
-	001
	AKAM NO
	其他(鐵道、諸車、航空、船舶ハ事故ノ項参照)
	死亡
	月 別51
-	年齡別
1	乳兒死亡
-	原因別53
	職業及死因別54
	死因月別57
	死因年齡別·····58
	死因地方別59
1	(列國ノ死亡へ 437頁)
1	死 產
	內 國(列國八 438頁)50
	市歲入歲出 387
	市基本財産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	市町村敷 399
	市町村人口階級別38
	市町村會數
	市町村曾數一市町村役場數一一 399
	印明 村仅 参数

	市町村吏員408—409	稅 額…
	市别現在人口及世帶數39	金 額…
	支 廳	第三種所
-	恤 救	傷害
5	實業補習學校 270	工場=於
3	實業學校	鍍山 = 於
	實業專門學校	職業紹介
	實科高等女學校 264	公 設…
	執達吏	營 利…
	執達吏事務	
	del design at	日 傭…
	到行指線 刑法犯······ 325	家庭(內里
		消費組合…
	特別法犯	消 防
	自轉車	樟 腦
	自動車	諸 車
	兒童數	車 數…
	兒童體格	事 故…
	師範學校 260	小學校
	賜 杯	校 數…
	司法	學 級…
	裁 判 310-329	教 員…
	登 記 330-331	兒 童…
	行 刑	教員檢定
	司法官署及職員	
	借地、借家調停··········314	教員俸給
	臂 位····································	列 國…
		女子高等師治
	社會事業	女子青年團·
	施設類別	少年刑務所·
	獎勵助成金 218	人口
	事業費	現在人口.
	罹災救助基金221	列國人口.
	恤 救	列國主要和
	養育棄兒	現在人口(
	行旅病人及死亡人	本籍人口.
	<b>勞務者救濟</b>	職業別(列
	收入階級別一世帶一箇月平均實收入及實支出內譯 234	推計人口・
	宗 教	人口階級是
	神 社	動態…
	神宫神職 291	生命表…
		北海道移住
	寺院及住職 292 佛道教會說教所 293	
		渡航及歸
	神 道	國籍變更.
	基督教	移 民
	<b>狩獵</b> 免狀下附數······ 291	在外本邦)
	出版圖書 289	在留外國)
	衆議院	列國人口地
	議員選舉	人車軌道
	議員職業別	森林面積
		神 社
	種 痘	神官神職
	出生	神 道
	身分別49	信託
	地方別	會社數
	列 國	種類別
		契約高
	所得稅	擔保附社侵
	納稅人員	新聞、雜誌…

	_	4
稅 額	371	
金 額	374	
第三種所得稅種類別	372	
傷害		
工場=於ケル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	915	
職業紹介	410	
	20.0	
	236	
營 利		
日 储		
家庭(內職)		
消費組合	250	
	307	
樟 腦	116	
諸 車		
車 數	204	
事 故	202	
小學校		
校 數	959	
學 級		
教 員		
die als		
off to IA de	256	
St. D H-At	261	
	285	
	158	
	261	
女子青年團	284	
少年刑務所	338	
人口		
現在人口18. 20-39-		
列國人口	130	
列國主要都市人口	131	
現在人口(植民地)	19	
本籍人口	18	
職業別(列國ハ 433頁)28-	-35	
推計人口	36	
人口階級別市町村數及人口		
動 態		
生命表		
北海道移住者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
渡航及歸航者		
國籍變更		
移民		
在外本邦人		
在留外國人	67	
列國人口增加率······ 4	20	
人力車	04	
人車軌道	21	
森林面積	90	
神 社	91	
神官神職	91	
神 道	93	
信託		
	50	
	50	
契約高 46.78 48		
擔保附社債信託····································	50	

<b>-(\(\bar{\mathbb{Z}}\)</b>	造物
推計人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	夏 遺類
	209
	大名
水 產	04
產 額····································	
養 殖	98 大
水利組合	meter su
普通水利組合	293
水害豫防組合	393
葉兒(養育)	223
-(t)-	
生命表	62 地
製 鹽	
製 糖	110
製藥者	
精神病	
清算取引	124
正貨現在高(列國ハ 452頁)	143
生計費指數(列國)	454
件 徒	Ī
生徒數	251 7
體 格	280 ±
青年團	
青年訓練所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
税關收入	379 耳
石 炭	117 地方
石 油	
船 舶 入港船舶······	907 月
貿易船出入	170 中县
順數別	
	200
	200
船 簡	400
地方別	nd -
帆 船	211
小 船	211
造船所	212
船 渠	ALL .
遭 難	211
列 國	
船員手帳受有者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
海技免狀受有者	
專門學校	265
選 舉	395—398 通1
貴族院互選	395 P
衆議院	396
府縣會····································	900
(11)	手刑
和 税	蚁
租 稅	378 3
地 租	········ 370 月 ······ 375
營業收益稅	377
争 議	240—243
勞 働	
小 作	
相 場	¥.
外國為養	
米 縠	
壯 丁·····	
身 長	
體 格····································	
AV II TELY	, 4

造船所	312
遭難船舶及死傷人員	214
-(9)-	
- Latin the rest AT Death.	
	318
	329
大使館	
大 學	
臺灣銀行140.	147
體 格	
學生、生徒、兒童	280
壯 丁	110
<b>-(F</b> )-	
地和	
納稅人員	
地目別	
地方財政	
道府縣歲入歲出	385
市歲入歲出	387
町村歳入歳出	389
市町村基本財産	
水利組合	
地方債	
	94
地方鐵道	
運 輸196—]	
職 員	
地方海員審判所	213
地方裁判取扱件數	
民事310	318
刑事	
中學校	
內 國(列國ハ 458頁)	000
內 國(列國八 498頁)	102
中等科教員檢定	261
朝鮮銀行	
朝鮮人蔘	
貯蓄銀行140. ]	
徵兵檢查 410-4	14
町村別現在人口及世帶	
町村歲入歲出	
町村基本財産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	200
	094
P W	
職工平均賃銀手當賞與額	244
鑛夫平均賃銀手當賞與額	245.
<b>一(ビ)</b>	
通貨流通高	
The state of the s	43
13 (2) (2) (2)	10
<b>一(テ)</b> 一	
停車場	196
	51
鐵 道	
	98
	300
事 故	200
事 故	200
事 故	200
事 故	19
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1	19
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1       發電所     1	19 19 19
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數     1       發電力     1       競電所     1       需用     1	19 19 19 20
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數     1       發電力     1       競電所     1       需用     1       軌道     2	19 19 19
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1       發電所     1       需用     1       軌道     2       電信	19 19 19 20 20
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1       發電所     1       需用     1       軌道     2       電信     月所	19 19 19 19 20 20
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1       發電所     1       需用     1       軌道     2       電信     6       局所     1       通数     192-1	19 19 19 19 20 20 20 20 20
事故     5       營業收支     5       電氣     事業數       發電力     1       發電所     1       需用     1       軌道     2       電信     6       局所     1	19 19 19 19 20 20 20 20 20 20

	電話	A
	局 所	191
-	加入者通話	195
,	線 路	
-	職 員	104
,	傳染病(法定)	300
,	-( <b>h</b> )-	
		190
,	道 路————————————————————————————————————	102
	東洋拓殖會社經營土地	73
1		206
,		200
-	遺府縣	285
7		207
)		
B	登 記 件 數	220
	作 數····································	91
	查錄稅及手數科·····	550
		100
		100
	登錄 實用新案	10
		18
	意 匠	1.8
	商 標	18
	登記登錄稅	
	<b>盗難其ノ他被害人員</b> 2	396
	特許	
		18
	阿片吸飲特許者	16
	特別會計358-3	
		558
		360
	臺灣總督府所管款項別	561
	樺太廳所管款項別	663
	關東廳所管款項別	564
	南洋廳所管款項別	565
	道府縣有財產	
	特別法犯 罪名及刑名別······	
	罪名及刑名別	327
	執行猶豫	327
	渡航者及歸航者	.64
	屠 寄	
	圖書出版	289
	圖書館	290
	土 地	73
	位 置	
		8
	周 園	0
	面 積	8
	民有地	10
	耕地面積	
	耕地所有者戶數	73
	東拓經營土地	.73
	度量衡	
	取引所	
		23
		23
	清貧取引所」	
	清阜取引所····································	
	ドッケ(船渠)	112
	<b>-(=)</b> -	
		204
	日本銀行140. ]	42.

日本勸業銀行 140. 143—144
日本興業銀行
日本與菜銀行120.147
乳兒死亡
乳肉製品87
入港船舶
總 數 207
貿易船
入學志願者及入學者 269
入監出監人員
<b>一(ネ)</b> 一
年 金
受給人員
受領權裁定人員
警察官
排渡高
旭日勳章年金
金鵄勳章年金
郵便年金 165
-(1)-
農 業
耕地面積······72
耕地所有者戶數73
農家戶數73
農產物 74
東拓經營土地73
養 蠶80
果 實
農家戶數
農產物 74—79
作付面積(列國ハ 440頁)74—75
收穫高76
アール當收穫高78
價 額79
農工銀行140. 145
-(n)-
-ta atta
賣 藥 方 數······ 297
方 數 207
請賣人 297
行商人
博士
馬 車
馬車軌道 201
發電所
發電力
發明特許
犯罪檢舉件數
犯罪搜查終局事件
判決確定被告人
-(K)-
-( <b>ヒ</b> )
被殺害者
日備勞働者紹介
表 彰
病 院
-(7)-
府 縣
歲入歲出
<b>耐寒會選舉</b> 396
武官人員及年俸····································
表目人員及平序 404 扶助科 420—422 佛 教 292. 293

物價		_
细 豆	ý 1	26
		29
Ale coe vit a		48
	1	10
文官		100
人員2	及年俸	100
官廳別	到4004	103
休耳	<b>識</b>	FU3
	-(^)-	
米穀取	]	25
	4	106
And there are	一(木)—	
智 易.	167-1	189
如如何(	(輸移出入)及貿易外收支	67
形态包具(	國產別(輸出入)」	160
PIFE	別(輸出入)」	160
種類为	別(輸出人)」	100
港別(	輸出入)1	
月別(	Hin LL/	170
船舶	4/	170
國別(		171
品目为	のは、年間でありはノート	173
品目为		183
移出:		188
龄秋!	出入(南洋)	188
A A A A A	<b>輸移出入</b>	189
列		148
	×3	
	4	
褒 狀	來住者往住者	69
	拓殖銀行140. 1	
保安林		.92
保險		
官者	營	162
民	誉 1	158
	保險	
郵便车	年金	165
墓 地·	3	303
本籍人	П	-18
本邦駐	<b>剳各國公館人員</b>	.71
	-(7)-	7
埋葬(火	(葬、墓地)	303
待合茶	屋	309
	-( <b>\(\xi\)</b> -	
民有地		
有租地	地	-10
<b>死租</b> 地	抽,	-11
年期	地	.12
	<b>免租地······</b>	
民籍及	國籍別人口	.41
民事裁:	判······310—3	319
	—(A)—	
無盡業.		150
	-(x)-	
面 積		
内口	國·	. 8
利	國	130
免狀受7	有者	
海技	免狀	213
航空	乘員免狀	205
教員	檢定合格者	261
-	—( <b>E</b> )—	THE REAL PROPERTY.
The shift were		
盲聾啞	者 兒童中·······	258
学師	数	250
		200
S-IX.	ー(ヤ)ー	

- 薬劑師	297
栗劑師	
藥種商	297
—( <b>ユ</b> )—	
郵便	
局 所	
	404
郵便物	192
	194
	154
	155
	156
年金郵便	165
	423
有位者	
有位者	423
遊戲場	226
輸入稅	379
-( <b>B</b> )-	
幼稚園	257
養 蠶	80
養育費	993
養育藥兒	999
横濱正金銀行 140. 142-	-143
豫審終局被告人	319
豫算純計額	366
預金部預金及貸付金	201
頂盤即頂盆及貝竹盆	TOO
預金部資金	382
寄 席	226
-(IJ)-	
陸 軍	
現役軍人	404
衞戍病院	414
軍法會議	116
<b></b>	
各學校	417
雕婚	
種類別	48
夫婦關係繼續期間別	
國際表	
罹災救助	221
流通高(正貨及紙幣)	143
留學生(文部省)	970
料理屋	
領事館	
林 業	-92
林野面積	. 89
森林面積	
林產物	
狩獵免狀下附數	91
保安林	92
-(0)-	
<b>勞働</b>	
勞働統計實地調查結果227—	
家計調査結果232-	235
工場及從業者230—	
職業紹介236-	
爭 議240—	
賃 銀	244
傷害(工場、鑛山)245—	246
<b>岑</b> 榆組合等	247
勞働組合員(列國)	455
	249
消費組合	
<b> </b>	225
一	

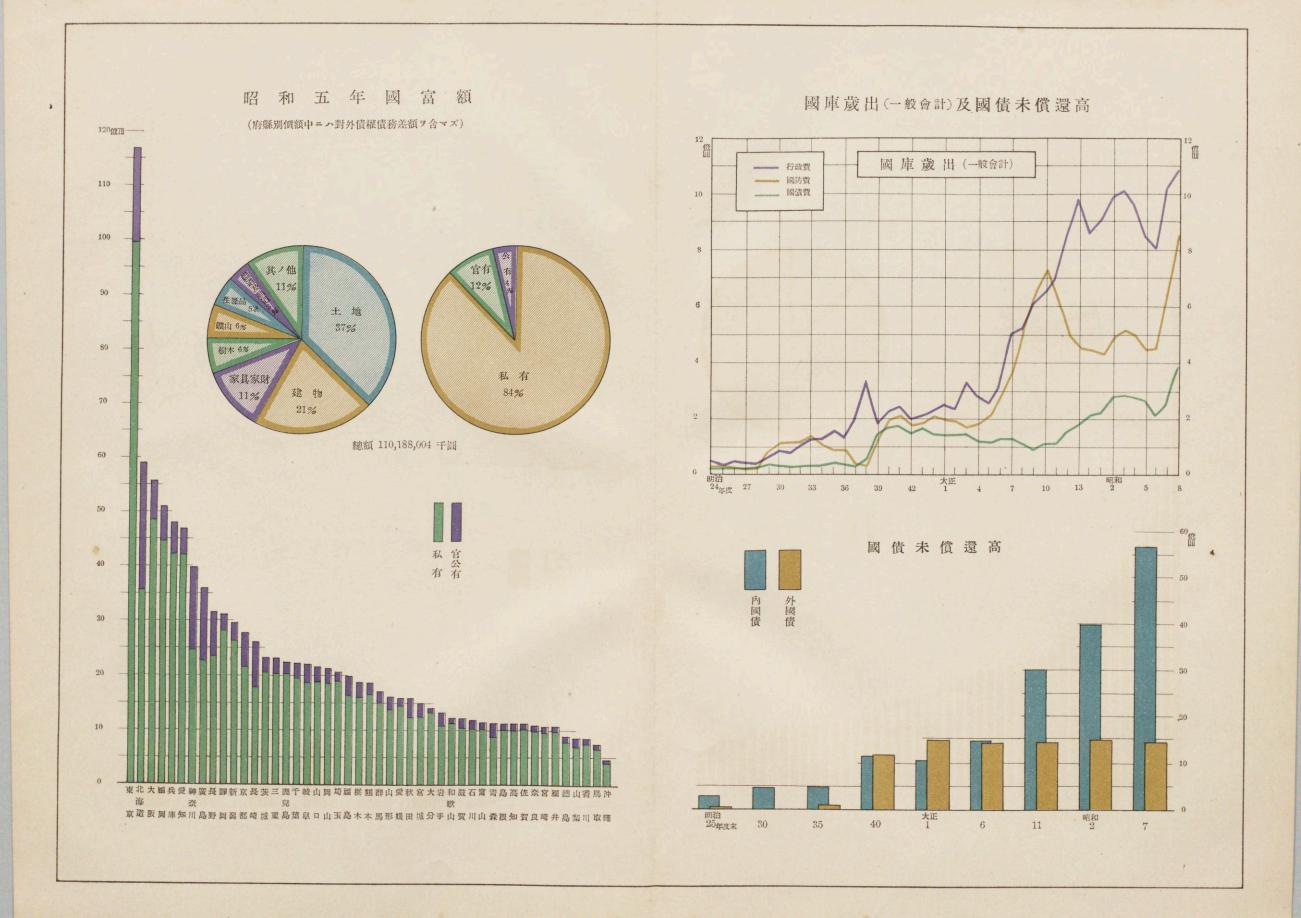
## 度量衡比較及合數並

x - 1	ル法
度	
糕「ミリメートル」(「メートル」ノ干分ノ→)	逆 数 表 30000 · · · · · · · · · · · · · · · · ·
糎「センチメートル」(「メートルノ百分ノー」)	Med and a second
粉「デシメートル」(「メートルノ十分ノー」)	72
	*
	*
All and a second a	*
An and a second	**
	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
HT	
// 9.1666 東	
// 0.254(	李氏
// U.62	
49.709	
面	積
平方粍 (「平方米」ノ百萬分ノ一)	
平方糎 (「平方米」/ 萬分ノ一)	
平方粉 (「平方米」/ 百分/一)	平方米
平方米	
	平方尺 0.89
平方際 1.195( 平方駅	9900
	7.041 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
平方料(百萬「平方米」)	<sup>方群</sup> 15.42353
センチアール (「アール」ノ百分ノ一) 献	アール
アール	
ヘクタール (百「アール」)	0.99174
竰「センチリツトル」(「リツトル」ノ百分ノ→) 0.55	435
<b>弱「デシリツトル」(「リツトル」ノ十分ノー)</b>	
立「リットル」 0.55	
	5435
立方米 立方尺 35.9370	0000   0.02783
立方呎 35.3146	立方米 0.02832
# 35.9370	カカ カリカ カリカ カリカ カリカ カリカ カリカ カリカ カリカ カリカ
立方褐 1.307	950 ····································
が が が が が の 1.166	立方米 6.01052
	5937
衛	0.21.020
題「ミリグラム」(「グラム」ノ干分ノー) 0.26	3667 XE 3.74095
題「センチグラム」(「グラム」ノ百分ノ一) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5.74395 B
・	
分	
5	
0.35	
瓩「キログラム」(干「グラム」) (一噸ノ干分ノ一)	
7.66 封政	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	0.45360 EE
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	.001
	· 城區
噸	3667 0.00375

# 貨幣純分比價換算表

### ヤード、ポンド法

ヤード、ポンド法													
							1	变					逆数
n.t. [	1 1	<del>4</del> 10	( to .	- ドリノ三十六分	/·)			0.83820					1.19303
		'		ヤード」ノ三分ノー				R 1.00584					0.99419
THE C	- 30	- I.	7(1	トートコンニカン				R 3.01752					0.33140
Ado (		Ll	.(-	ナニ「ヤード」)・									例 (),01506
到 "	T -	- >	11-	T_17- FJ)				間,06424					到 0.09038
-177		/	-,					R 5310.835					0.00019
理」	41	10](	十七	:百六十ヤード)・	••••••			町 14.7592					0.06779
"								0.40979	•				2.44027
"					••••••		•••••	16.975	•••••	••••••			2.44027
浬	•••••			•••••••••••••	*****************			10.970	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	••••••	•••••	•••••	0.00031
								升 2.09846	1112				<b>瓦倫</b> 0.47654
瓦信	前「カ	"ם >	٦		•••••••			2.09840				•••••••	0.47004
			-					タ 50000					0.13228
写				ポンド」ノ十六分				7.56000		••••••			到度 0.00827
封度	建厂市	シド	. ]					120.9600	• · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	••••••		••••••••••••••••••••••••••	.Bt.
順	(英)	トン	)(=	二十二百四十「ポン	、ド」)			270.9504	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	••••••		***************************************	0.00370 據
擔	「ピカ	ル」							• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	••••••		••••••••	0.01
							百数	其ノ他					
哥	(50	ツス	.)					144					
打	(ダス	(ン)	•••••		•••••			1,2					<b>#</b>
甲	(臺灣	*)				•••••		9.78	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	••••••		0.10225
中國	図畝(	關東	(州)		••••••			平方					0.16393
BE		4)						約49	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *				0.02041
[H]	(朝鮐	-)							-				
(H)	(朝鮮	=)					貨	幣				AND AND ADDRESS OF THE PARTY OF	Щ
英	領額	ED	度	(配	 .tt.)		円						円 0.22506
英	領領	即		(昭和二年四月以	.降		四 0.97632 0.73224)		トガル	(エス )	+ -2 -	F)	円 0.22506 2.16780
英選	領	即	羅	(昭和二年四月以(チ)カ	、降		0.97632 0.73224) 0.75102		トガルマニア	(昭和六年)	キ ユ ー	F)	円 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710
英選ト	領無額		羅	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二	降 ル)… 二年以降 コ 磅)…		0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024	おルルー	マニア	(エス (昭和六年)	キ ユ ー	イ)	д 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200)
英 邁 ト墺			羅	(昭和二年四月以 (チ カ (バート) (昭和二 (ト ル (	降 ル)… 二年以降 コ 磅)… )…		0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229	ポルルー露	マ = ア 西 亞	(エ ス = (昭和六年) (レ (昭和四年) (金	大月以降· 大月以降·	ド)	д 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231
+	n		羅コ	(昭和二年四月以 (チ カ (バート) (昭和二 (ト ル	降 ル)… 二年以降 コ 磅)… )… ー ン)…		0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649	ポルルーの露ューゴ	マニア 西 亞・ースラヴ	(エ ス (昭和六年) (レ (昭和四年) (金 イア(デ ィ (昭和六年)	<ul><li>キュー 大月以降・</li><li>二月以降・</li><li>ナー 五月以降・</li></ul>	ド)	Pl 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533)
ト墺	九圳		羅コ利義	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル ( 志 (ク ロ ( 大正十五年十月	降		M 0.97632 0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895)	**・ルルー 露ューゴ	マ = ア 西	(エ ス = (昭和六年) (レ (昭和四年 = (金 イア (デ ィ (昭和六年)	<ul><li>キュー</li><li>六月以降・</li><li>二月以降・</li><li>ナー</li></ul>	ド)イ) 名) ル) タ)	PI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710
ト墺	九圳		羅コ利義利	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル (	降		M 0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710	ポルルーの露ューゴ	マニア 西 亞・ースラヴ	(エ ス = (昭和六年) (レ (昭和四年 = (金 イア (デ ィ (昭和六年)	<ul><li>キュー 大月以降・</li><li>二月以降・</li><li>ナー 五月以降・</li></ul>	ド)	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710
ト墺 白 勃	加州	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	羅コ利義利	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル (	降 ル)・・・ 二年以降・・・・ コ		M 0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449)	幣ルルの露ュー西瑞瑞英	マニア・亜ヴィスラヴ・牙典西利	(エ ス = (昭和六年) (レ (昭和四年) (金 イア (デ イ (昭和六年) (ペ (ペ (ク ロ (	た月以降・ に月以降・ に月以降・ に月以降・ に月以降・ に月以降・ に月以降・ に月以降・	下)	Pl 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318
ト獎白勃チエ	加州田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	チスロ	羅コ利義利ヴァ	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル (	降	以降	M 0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944)	** パルー 露ューゴ 西端瑞	マニア 西 亞 *-スラヴ 班 牙典西	(エ ス = (	大月以降・ 二月以降・ 二月以降・ 五月以降・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ド)	FI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618
ト與白勃チダ	加州田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	チスロ	羅コ利義利ヴェ	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル (	降 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944)	常 ル 露ュ 西端端英カキ	マ 三 西	(エ ス = (	た月以降・ 二月以降・ 一 一 一 一 一 一 一 法 磅 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ド)	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618
ト獎 白 勃 チ ダ丁	加州田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	チスロチ	羅コ利義利ヴヒ抹	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル ( )	降 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.73224) 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763	お ル 露ユ 西端瑞英カキハメ	マ 西 牙典西利ダバーコ	(エ ス = (	大 一 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・ 一 ・	ド)イ)イ)イ)タ)タ)ク)ク)ファール)ファーカール ファーカール ファーカール ファーカール ファーカール ファール ファール ファール ファール ファール ファール ファール ファ	PI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997
ト獎 白 勃 チ ダ丁	加州田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	チスロチ	羅コ利義利ヴヒ抹ア	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル に (ク ロ 法 (ク ロ 法 (ク ロ 法 (ク ロ は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	降	以降	M 0.97632 0.73224) 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.37895 0.38710 0.01449 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538	常 ル 露ユ 西瑞瑞英カキハメ北	マ 西一 班 吉ナユテ 合	(エ ス = (	上、 一・ ・ 一・	ド)イ)イ)イ)タ)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ	加州国際コント	オスロチュ	羅コ利義利ヴヒ抹ア	(昭和二年四月以 (チ カ (バート)(昭和二 (ト ル ( )	降	以降	M 0.97632 0.73224) 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763)	** ル 露ユ 西瑞瑞英カキハメ北 アル	マ 西・ 班 吉ナユテ 合シャイン 衆イ	(エ A 大年) ( W 和 六年) ( V 和 四年 - ( ) ( A ア ( ) ( C / ) ( ( ) ( ( ) ( ) ( ( ) ( ) ( ( ) ( ) (	上、 日、 一、	ド)	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 2.00618 1.93562 (1.93548)
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ	加州国際コント	ガスロチニン	羅コ利義利ヴに抹アド	(昭和二年四月以 (チート)(昭和二 (トール)(昭和二 (トール) (クロース) (クロース) (大正十五年十月 (ベルガ)(昭和一年) (ベルガ)(昭和四年十一月 (ダンロートーゲーム) (カローン)(昭の11年)	降 ル)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.73224) 0.73224) 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763) 0.05053	** ル 露ユ 西瑞瑞英カキハメ北 アル	マ 西一 班 吉ナユテ 合	(エ A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	上、 二	ド)イ)イ)イ)タ)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク)ク	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618 0.49124 0.99997 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618
ト獎白勃チダ丁エフ佛	ル地国アンスト	ガ スロチューシ	羅 口利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西	(昭和二年四月以 (チート) (昭和二 (トート) (昭和二 (トールールートールールールールールールールールールールールールールールールール	降	以降	M 0.97632 0.75102 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860	常 ル 露ユ 西端瑞英カキハメ北 アボ	マ 西ヴ 牙典西利ダバーコ國ンア 亜ヴ 牙典西利ダバーコ國ンア	(エ 和 六年 7 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	上、 二	ド)イ)イ)タ)タ)シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シ	Pi 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610
ト獎白勃チダ丁エフ佛獨	ル地国アンスト	ガ スロチューシ	羅 司利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸	(昭和二年四月以 (チ (バート)(昭和二 (ト ル に (ト ル に (ク に 十五年 + ヴ 昭 が ) に (大正 中 ガ ) に に が に で に が に で に か に で に で に が に で に で に が に で に で に で に で	降	以降	M 0.97632 0.75102 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860 0.47790	常 ル 露ユ 西端瑞英カキハメ北 アボ ブラ	マ 西一 班 吉ナユテ 合シヴ ル	( Y R R R R R R R R R R R R R R R R R R	上、 二 五 五 五 五 五 五 五 五 五 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ド)イ)イ)タ)タ)))))))))))))	PI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.73106 0.73224) 1.09610
ト獎白勃チダ丁エフ佛	ル地国アンスト	ガ スロチューシ	羅 司利義利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘	(昭和二年四月以 (チート) (昭和二 (トート) (昭和二 (トート) (昭和二 (トート) (昭和二 (クート) (クー (大正年 が) (ロートー (インルガ) (ローナートー) (ローナート	降   ルル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.75102 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860 0.47790 0.38710	常 ル 露ユ 西端瑞英カキハメ北アボ ブ チ	マ 西一班 吉ナユテ 合ンヴ リリ	( エ昭 レ 田 本 一 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	上、 月 月 日 生 法磅弗弗 ペポペヴ月ルニペート ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ド)イ)イ) 名)ル) タ) ))))) ))) ア) イ) イ) イ) イ) イ) イ) イ)	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 2.00618 2.00618 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610 0.24000) 0.24408
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希	ル地国イントン隣	チスロチューシ	羅 司利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘	(昭和二年四月以 (チート) (昭和二 (トート) (昭和二 (トート) (昭和二 (クート) (昭和二 (クート) (ローナー (クート) (ローナー (クート) (ローナー (クート) (ローナー (アート) (ローナー	降	以降	M 0.97632 0.75102 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.00538 0.53763 0.07860 0.47790 0.38710 0.02604)	幣 ルー ゴ 西瑞瑞英カキハメ北アボ ブ チョロ	マ 西一 班 吉ナユテ 合シヴ ル	(エ昭 7年) (1年) (1年) (1年) (1年) (1年) (1年) (1年) (1	上、 二 五 五 五 五 五 五 五 五 五 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ド)イ)イ)イ)タ)ク)))))))))))ク)ク)ク	FI 0.22506 2.16780 0.02876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.03533) 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 0.76318 2.00618 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610 0.24408 1.95263 1.93562
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希	ル地国アンスト	ガスロチニン リ	羅 司利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘 一利	(昭和二年四月以 (チート) (昭和二 (ドート) (昭和二 (トート) (昭和二 (トート) (昭和二 (クート五年中 が昭) (クーナ五年中 が昭) (クーマートー・) (クーナー・) (インル・ (インル・ (インル・ (インル・ (イン・ (イン・ (イン・ (イン・ (イン・ (イン・ (イン・ (イン	降 ル)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.797632 0.75102 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.07895 0.38710 0.05944) 0.39053 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860 0.47790 0.38710 0.02604) 0.35088 0.38710	幣 ルー ゴ 西瑞瑞英カキハメ北アボ ブ チョパ	マ 西・ 班 吉ナユテ 合シヴ ング	( 1 年 ) ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	上、 一、	ド)イ)イ)イ)イ)タ)フ)) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) ) )	PH 0.22506 2.16780 0.02876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.73224) 1.09610 0.73224) 1.09610 0.24400) 0.24408 1.95263 1.93562 9.76318
ト 填 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希 八伊	ル地 耳 オン トン 藤 カ大	オスチーンリ	羅 司利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘 一利	(昭和二年四月) 以以 (ボート) (昭和二年四月) (バート) (昭和二(ト (	降 ル)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.797632 0.797632 0.75102 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860 0.47790 0.38710 0.02604) 0.35088 0.38710 0.010559)	幣 ルーゴ 西瑞瑞英カキハメ北アボ ブ チョパペ	マ 西・ 班 吉ナユテ 合シヴ ング	( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	上、 一、	ド)イ)イ)イ)タ)ク)))))))))))ク)ク)ク	PH 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 9.76318 2.00618 2.00618 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.73224) 1.09610 0.24000) 0.24408 1.95263 1.93562 9.76318 0.56169
ト 填 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希 八伊 ラ	加州国際コントンドンカンカ	チュチュッツリイ	羅 口利義利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘 一利 ア	(昭和二年四月) は (ボート) (昭和二年四月) は (デート) (昭和二年四月) に ( ( ( ( ケート ガー・ ) に ) に ) に ( ( ( ケート ガー・ ) に ) に ) に ( ( ( で ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	降	以降	M 0.97632 0.797632 0.797632 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895 0.38710 0.01449 0.40651 0.05944) 0.39053 0.053763 0.05538 0.53763 0.07860 0.47790 0.38710 0.02604) 0.35088 0.38710 0.10559 0.38710	お ル 露 西端瑞英カキハメ北 アボ ブ チョパペ ウルーゴ	マ 西・ 班 吉ナユテ 合ンヴ ングルーニ ラ チ典西利がバーコ國ンア ル リアイー	( T	上、 一、	ド)イ)イ)タ)ク)))。)。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	FI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 0.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610 0.24400 1.024000 0.24408 1.95263 1.93562 9.76318 0.56169 2.07487 0.38710
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希 八伊 ラリル	加地国爾コントン薩力大力	ガスチェンリイニ	羅 コ利 義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘 一利 アアグ	(昭和二年四月) (F) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N) (N	降	以降	M 0.97632 0.73224) 0.73224) 0.73224) 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.05053 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02604 0.38710 0.02605	お ル 露 西端瑞英カキハメ北 アボ ブ チョパペ ウルーゴ	マ 西・ 班 吉ナユテ 合ンヴ ングル グネー ラ サ典西利がバーコ國ンア ル リアイー イラ	( T	上、 二 五 日 生 法 砂 弗 や ボ ヴ 月 ル ニ ペペペア 和 二 2 以 以 ナ 以 ト ル ト ル ト ル ト ル ト ス ト ス ト ス ト ス ト ス ト ス	ド)イ)イ)タ)ク)))。)。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	FI 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 0.76318 2.00618 2.00618 0.40124 0.99997 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610 0.24400 1.024000 0.24408 1.95263 1.93562 9.76318 0.56169 2.07487 0.38710
ト獎 白 勃 チ ダ丁エ フ佛 獨希 八伊 ラリ	ルガ 耳 似 ツ ン ト ン 隣 カ 大 ウラ	ガスチェンリイニ	羅 口利義 利 ヴ ヒ抹ア ド西 逸臘 一利 アア	(昭和二年四月) (四和二年) (10年)	降 ルル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以降	M 0.97632 0.75102 0.73224) 0.75102 0.88756) 8.82024 0.28229 0.40649 0.38710 0.27895) 0.38710 0.01449) 0.40651 0.05944) 0.39053 0.53763 0.05053 0.38710 0.07860 0.47790 0.38710 0.02604) 0.35088 0.38710 0.02604) 0.35088 0.38710 0.02604	幣 ルーゴ 西瑞瑞英カキハメ北アボ ブ チョパペ ウヴ	マ 西一 班 吉ナユテ 合ンヴ ングル グネッア 亜ヴ 牙典西利ダバーコ國ンア ル リアイー イラト	( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	上、 二 五 日 生 法 一 一 ・ ・ 一 ・	ド)イ)イ)タ)タ)シーン)シーン)シーン)シーン)シーン)シーン)シーン)シーン)マ)イ)・マ)・マ)・マ)・マ)・マ)・マ)…	Pi 0.22506 2.16780 0.08876) 0.38710 0.01200) 1.03231 0.38710 0.53763 0.38710 0.53763 0.38710 0.73241 0.99997 2.00618 1.93562 (1.93548) 0.78106 0.73224) 1.09610 0.24408 1.95263 1.93562 9.76318 0.56169 2.07487 0.38710 9.91654 (9.91667)



# 略 說

			頁
1.	土地及氣	象	2
		П	
3.	農林及水	產	6
4.	鑛業及工	業	10
5.	商業及金	融	12
6.	貿	另	17
7.	交	通····································	19
8.	社會事	業	21
		働	
10.	教育及宗	教	23
11.	警察, 衞	生及災害	27
12.	司	法	28
13.	財	政	30
14.	選舉、官位	公吏、軍事及恩賞	33

土 地

恒春庄七星岩の南端北緯 21度 45分 35秒より

極北北海道根室支廳占守郡阿賴度島の最北崎北緯50度55分24秒に 至り、極西臺灣澎湖廳望安庄花嶼の西端東經 119度18分24秒より 極東北海道根室支廳占守郡占守島の東崎東經 156度30分48秒に至 る間に於て亞細亞大陸の東に沿ひ斜に北東より西南に點在する樺 太島の南半、千島、北海道、本州、四國、九州及臺灣を包含する所謂 日本列島と大陸の一部たる朝鮮半島から成り、 樺太及朝鮮の北部 が外國と境を接する外四面皆海で西は滿洲國及中國、南は比律 **着、東は亜米利加大陸と遙に相對して居る。** 

【面稿】 帝國の總面積は-675,118 方料で其の中、內地は 5割 7 分を占め、朝鮮は3割3分、臺灣と樺太とは各々5分で樺太の方 が臺灣より 116方粁廣い。

列國中面積の最も廣いのはソヴィエト聯邦の 2,135 萬方粁(內、 歐羅巴領は 424 萬方料) で之に亞ぐは中國の 992 萬方料、ブラジ nの 852萬方粁、北米合衆國の 784 萬方粁、アルゼンティンの 298 萬方粁等である。帝國內地の面積は列國中の第25位でトルコ、 パラグァイ、瑞典、ポーランドは我が國の上に、フィンランド、 諾威は我が國の下に在る。又帝國の總面積を列國の屬領を含めた 面積と比較すれば第二十一位である。

面積を麻縣別に見ると最も廣いのは北海道の 88,775 方料で内 地面積の 2割 3分を占め他に 2萬方粁以上の府縣はない。岩手、 福島、長野、新潟、秋田及岐阜は各1萬方粁以上で面積の廣い地 方に屬し、佐賀、沖繩、神奈川、東京、香川、大阪は何れも1千 乃至 2千方粁臺で面積の狭い地方である。

【民有地】 昭和七年一月一日に於ける內地の民有地は 1,911萬 ヘクタールで總面積の 5割に営る。各府縣の面積中民有地の割合 を見ると最も多いのは山梨の 9割 2分で之に亞ぐは神奈川の 8割 1分、香川、沖縄、干葉、埼玉、島根、兵庫の各7割臺、其の最も 少いのは宮崎、秋田、青森、北海道、大分の3割で他は4割乃至 は 5割內外である。

民有有租地を地目別に見ると田は2,963千ヘクタール、畑は2,8 03千~クタール、宅地は 441千~クタール、山林は 8,702千~ク タール、原野及牧場は 1,869千ヘクタール、鹽田、鍍泉地、池沼 及雜種地は 38 干ヘクタールで之を前年に比較すると田は僅かに 81 ヘクタールを、宅地は806 ヘクタール、山林は26,319 ヘクタ ールを夫々増加し畑は2,744~クタールを原野及牧場は1,782~ クタールを減少した。

【北海道地積】 民有地を除きたる北海道 地 積は 昭和六年末に 5.451 千ヘクタールにして前年に比し83千ヘクタールを増加した

【位置】 我が帝國は極南臺灣高雄州恒春郡 | るも、一般に減少の趨勢を示してゐる。未開地は 570千ヘクター ルにして前年に比し19千ヘクタールを減少してゐる。而して未 開地未處分地は其の 6割 3分を、起業中の土地は 3割 5分を占め

> [氣壓] 昭和七年に於ける平均氣壓は朝 象 鮮、滿洲國及中國に高く 762粍乃至3粍を示し 最高は大連の763.1 耗である。本州は761粍内外のもの多く、北 海道、樺太及南洋は氣壓艇して低く、最低はポナペの 757.0年で ある。臺灣及沖繩は760粍臺が多い。

> 【氣溫】 昭和七年中平均氣溫の攝氏 20度を超ゆる地方は臺灣。 沖繩、小笠原島及南洋で是等の中温度最も高いのはパラオの27度 である。四國、九州に屬する諸地方、銚子以西に位する太平洋沿 岸諸地方は概ね 16度內外、中國近畿兩區に屬する諸地方は 15度 內外、東山區に屬する諸地方は10度內外から13度以上にして、 各地方間の差甚しく、奥羽地方は10度內外、北海道は南方の一部 に 8度近い地方もあるが 5度内外の地方多く、樺太は 3度内外で 敷香の如きは零度である。朝鮮の南部は10度乃至14度を示すが 最北部は 3度臺に降り、満洲は 10度以内、上海は 15.8度、漢口 は 17.3度である。

> 氣温の最高極は臺灣では臺東の 37.1度、九州では佐世保の37.7 度、中華民國では濟南の 41.3度、天津の 40.0度が高い。最低極 は北海道では旭川の零點下30.1度、樺太は敷香の零點下 33.5度、 朝鮮では中江鎮の零點下 36.1度、満洲國では奉天の零點下 28.9 度である。

> 【隆水器】 昭和七年中の降水量は地方に依て甚しい 差異があ る。總量3千粍を超ゆるは尾鷲、大台ケ原山、パラオ、2千粍を 超ゆるは八丈島、高田、伏木、金澤、福井、敦賀、御前崎、濱 松、龜山、箱根山、伊東、伊吹山、潮岬、清水、室戶、高知、溫 泉岳、富江、宮崎、鹿兒島、名瀬、那覇、臺北、臺中、恒春の諸 地方で、本州は概ね 1千粍乃至 2千粍、北海道は 900粍乃至 1千 粍、樺太は 600粍乃至 800粍で少雨の地方である。朝鮮、滿洲國、 中國も亦少雨の地方が多い。

> 【風】 平地に於ては各地の風速に甚しき逕庭なく 1米乃至 3米 のものが多く、伊吹山、紗那、澎湖、羽幌、温泉岳、八丈島、那 覇、銚子、濱州、大連は風速急で、何れも毎秒平均 5米以上であ る。最大風速も亦地位に依て甚しき差異あり、30米以上は箱根山、 壽都、八丈島、筑波山、伊吹山、那覇、横濱、紗那、横須賀、伊 東、大泊、銚子、温泉岳にして他は30米未滿の地である。

#### II. A

□ (表18-71頁參照)

[人 D 總 數] 昭和五年國勢調查の結果 | 三重、宮城、愛媛、栃木、山口、山形、100萬未滿は秋田、岩手、 人口靜態 に依る確定人口は帝國總數 90,396千人で、內

利地は 64,450千人 (7割1分) 朝鮮は 21,058 千人 (2割 3分)、臺 満は 4,593 千人 (5分)、構太は 295千人 (3厘) である、又同時 に調査した關東州及滿鐵附屬地の人口は 1,328千人、南洋委任統 治區域の人口は70千人である。

歐米諸國最近の國勢調査に依ると北米合衆國は 12,278萬人(昭 和五年四月一日調) 獨逸は 65,306 千人 (昭和八年六月十六日調 速報) 英吉利本國は46,037千人(昭和六年四月二十六日調)佛蘭西 は41,835千人(昭和六年三月八日調)である、又推計に依る中國の 人口は 47,479 萬人 (昭和三年) と稱し、ソヴィエト聯邦の人口 は 161百萬人(昭和六年一月一日)と報じて居る、即ち列國中我が 帝國の人口(昭和五年)は第五位に在る、內地人口の増加率は大正 十四年乃至昭和五年一年平均 1,000人に付男 15.361、女 15.247、 其の平均 15.304、朝鮮は 15.256、臺灣は 28.352、樺太は 76.963 である。

【男女制】 昭和五年國勢調査確定人口に依れば男女の割合は內 地及内地以外の各地域何れも男子は女子に超過するが其の程度は 一様でなく女 100に付男の割合内地は101で男女殆ど均衡を保ち、 朝鮮(速報人口)及臺灣は 105で、男子超過の程度未だ甚だしくな いが、南洋は 120、樺太は 133、關東州は 156で何れも男子超過 の程度甚だ高い。

「年齢別」 大正十四年國勢調査に依る年齢別人口は零歳以上 14歳、15歳以上 59歳、60歳以上の三階級に大別して其の割合を 見ると全人口 1,000 中零歳以上 14歳は 3割 7分、15歳以上 59歳 は 5割 6分、60歳以上は 8分で各階級相互の割合が保たれて居る 年齢構成である。

人口 1,000 中 6歳以上 14歳の學齡人口の割合は 2割、17歳以 上 4(歳迄の兵役義務年齢人口は 1割8分男總数に對すれば 3割 5 分、15歳以上 50歳の姫孕年齡女人口は 2割4分女總數に對すれば 4割 8分、14歳以上の犯罪責任年齡人口は6割5分である。

【配偶關係】 大正十四年國勢調査の結果人口 1,000人中有配偶 者の割合は4割、未婚者は5割2分、死別の者は7分、離別の者 は 1分の割合である。

【府縣別人口】各府縣人口は甚だ不同で之を昭和五年國勢調査 確定人口に付て觀るに最も多いのは東京府の 5,409千人、其の最 も少いのは鳥取縣の 489千人で、最多と最少との比は 11と 1 と に當る、人口 200萬以上 300萬は大阪、北海道、兵庫、愛知、福岡、 100萬以上 200萬は新潟、靜岡、長野、廣島、神奈川、鹿兒島、 京都、福島、茨城、千葉、埼玉、熊本、岡山、長崎、群馬、岐阜、

大分、青森、和歌山、富山、宮崎、石川、島根、香川、高知、德 島、滋賀、佐賀、山梨、福井、奈良、沖繩、鳥取である。 尚一府縣平均人口は 137萬人で平均以上の府縣は上記の內埼玉

縣より以上列記の 17府縣、平均未満の 府縣は同じく 熊本縣以下 30 縣である。

【人口密度】 昭和五年内地人口密度は 1方粁に付 169人で地方 に依り甚だしく不同であるが最も稠密なのは東京の 2,532人で大 阪の 1,952人は東京の密度に近く、 遙に降って神奈川の 688人、 福岡の 512人、愛知の 505人、香川の 394人、埼玉の 384人は相 亞いで人口稠密の地方に屬し、250人以上350人の府縣は千葉、 京都、兵庫、佐賀、長崎、200人以上250人は茨城、靜岡、三重、 廣島、愛媛、沖繩、150人以上 200人は栃木、群馬、富山、石川、 滋賀、奈良、和歌山、岡山、山口、徳島、熊本、鹿兒島にして其 の少き地方は宮崎の 98人、青森の91人、秋田の85人、岩手の 64 人北海道の 32人等である。

昭和五年內地一世帶人口は全國平均 5.1人で、之を地方別に見 ると大體三箇の分野がある、即ち富山、長野、靜岡以北、北海道 に至る各地方は何れも 5人以上 6人で殊に東北地方に至るに從ひ 6人に近いものが多い、右分界縣に接する石川、愛知以西の畿内、 中國、四國及九州の鹿兒島及沖繩は概ね 5人未満で就中近畿、中 國に屬する地方等が少く、九州に於て福岡、長崎、宮崎は全國平 均と同位である。但し5人以上の分野中獨り東京は4人8分を示 1、又 5人以下の分野に在るから前者の如く著明ではないが大阪 の 4人 6分、京都、兵庫の如き亦一世帶平均人口少く 4人 7分で ある。

蓋し前項の人口密度及一世帶平均人口の多少は固より天然上の 影響のみでなく社會狀態及經濟事情の然らしむる所である、東京、 大阪及其他大都市を包含する地方に於ては人口稠密で一世帶の人 口少いのは人口の都會集中經濟組織の變遷に伴ふ小家族制の反映 と見ることが出來るし、東北地方は人口稀疎で一世帶人員の多い のは天然の影響と一面社會狀態、經濟組織に於て大に異るものが あるからである。

【職業別人口】 大正九年國勢調査結果に依れば、總人口中農業 最も多く 48%を占め、工業の 19%、商業の 13% 之に亞いて多 〈他は 10%以下である。即ち農業 27,138千人、水産業 1,450千 人、鍍業 938千人、工業 10,738千人、商業 7,313千人、交通業 2.549千人、公務自由業 3,208千人、無職業 1,498千人、家事使用 人 40千人、其他 1,091千人にして內本業者は 27,378千人(49%)、 本業なき從屬者 27,950千人 (50%)、家事使用人 635千人 (1%) である。本業者の割合比較的高きは農業で 52% を示して居るが 商業に於ては同割合低く 12%となって居る。

【都鄙別人口】 大正十四年國勢調査の結果人口の多少に依て市 町村を都鄙別に分けて見ると村落(人口 5,000以下)人口は 26,413 千人で 4割 4分、都會(人口 5,001以上)人口は 33,324千人で 5 割 6分、右の内人口 100,001以上の大都會人口は 8,741千人で、1 割 5分を占めて居る。都鄙人口の割合を第一囘調査に比較するに 村落の減少するに反し都會人口の増加急速である。

全國 101市中人口最も多いのは大阪市の 2,115千人で之に亞ぐ は東京市の1,996千人、名古屋市の769千人、京都市の680千人、 神戸市の 644千人、横濱市の 406千人で、尚廣島、長崎、函館、 金澤、熊本、福岡、札幌、仙臺、吳、小墳、鹿兒島、岡山、八幡、 新潟、堺は何れも人口 100,001以上の大都會である。

【民籍及國籍別人口】 大正九年國勢調査の内地の現在人口中 9 割 9分 9厘は內地人で內地人以外のものは僅々 1厘に過ぎぬ、內 地人の中北海道アイヌは 15,575人、内地に在る 朝鮮人は 40,755 人、臺灣人は1,703人、樺太人は31人、南洋人3人、外國人 35,569 人である。

外國人を洲別に見ると亞細亞洲人 22,451人、歐羅巴洲人 8,794 人、北亞米利加洲人 3,984 人、南亞米利加洲人 68人、其他 272 人である。

#### 人口動態

である。

【婚姻】昭和七年内地に於て行はれた婚姻 は515,270件で前年に比し 18,696件を増加し

た。人口1,000に對する割合は 7.77で前年に比して 0.17高きも漸 次低下の狀勢に在る。

昭和五年に於ける歐洲諸國の婚姻率を見ると人口 1,000に付白 耳義 8.8、チェッコスロヴァキア 9.1、獨逸 8.8、佛廟西 8.3、ハ ンガリー 9.0、 壊地利 7.7、 伊太利 7.0、 丁抹 7.9、 和蘭 7.9、 英 腐威爾斯 7.7、瑞西 7.9、西班牙 7.6 等である。歐洲諸國の大戰前 に於ける婚姻率は概して我國より低かつたが近時我が國より甚し く高きものよあるのは大戦後に於ける一變象と見るべきである。 道府縣中婚姻率の概して高いのは東北、北陸、四國地方に屬す る諸縣で其の率の低いのは東京、大阪、神奈川、北海道等の府縣

同年に於ける婚姻の種類は普通婚姻 9割 2分、入夫婚姻 2分 5 厘、婿養子婚姻 5分 3厘で、之を既往に比較すると其の歩調甚だ 緩慢ではあるが善涌婚姻は漸増し婚養子婚姻は漸減し入夫婚姻は 減少の傾向である。

婚姻者の年齡を見るに男は 25歳以上 29歳最も多く 4割を占め 20歳以上 24歳の 2割 8分之に亞ぎ、殘餘の 3割 2分は 20歳迄及 30歳以上の者で、50歳、60歳の高齢者で婚姻する者も一萬數干あ 歳の 1割 8分之に亞ぎ、殘餘の 2割 8分は 15歳迄及 25歳以上の 者で、50歳、60歳の高齢者で婚姻する者も數干ある。

昭和六年內地以外に於ける婚姻總數は 236,064 件で內朝鮮 184,598 件(內本地人 182,715件)、臺灣 42,468件(內本地人 41,575件)、樺太 1,784件、關東州 6,424件(內本地人 5,579件) 南 洋 790件である。

【離婚】昭和七年內地に於て行はれた離婚は 51,437 件で前年 に比し 828件を増加し、人口 1,000に對する割合は 0.78で前年よ リ 0.01を増加した。 又婚姻干に對する離婚割合は 100 で前年に 比し2を減少した。

昭和五年に於ける歐洲諸國の離婚率を見ると人口 1,000に付英 吉利 0.1、獨逸 0.6、佛蘭西 0.5、丁抹 0.6、和蘭 0.4、白耳義 0.3 等で何れも我國より遙かに低率であるが米國は 1.7の高率を 示して居る。

我國の離婚は嘗て實數に於て 100,000件以上、割合に於て人口 1,000 に付 2万至 3組の高率を示して居たが其の後逐次減少し大 正九年以後は一組以下の低率を示すに至った。

道府縣中離婚率の概して高いのは東北、北陸、中國、四國に屬 する諸地方及沖縄、其の率の低いのは北海道、關東、東山、近畿 に屬する諸地方であつて婚姻率の多少と離婚率の多少とは殆んど 兩者相伴ふて居る。

同年に於ける離婚の種類は妻が夫の家を去る場合 8割 6分、夫 が妻の家を去る場合 1割 1分、戸内離婚 3分である。

離婚者の夫婦關係繼續期間は一年次 1割 4分、二年次 1割 4分 三年迄 1割 1分、四年迄 8分 6厘、五年迄 7分、合計 5割 4分 5 厘は五年迄で残餘の 4割 6分 5厘は五年以上の割合であるから我 が國の離婚は婚姻後數年の短期内に起るものが多い。

【出生】 昭和七年內地に於ける出生は 2,183千人で前年に比し 80千人を増加し、人口 1,000に對する割合は 32.9 で前年に比し 0.8を増加した。

昭和五年海外諸國の出生率を見ると人口千に付英吉利16.8米國 18.9 獨逸 17.5 佛蘭西 18.1 伊太利 26.7 白耳義 18.6 和蘭23.1 瑞西 17.2等で何れも我國より低率であるがポーランド 32.8 ポル トガル 32.8の加きは我國に略等しくチリの 38.3の加く我國上リ 高率のものもある。

道府縣中出生率紙して高いのは、東北、關東、北陸、四國に屬 する諸地方、其の率の低いのは近畿、沖繩である。

出生兒の身分は公生9割4分、私生(庶子を含む)6分で之を既往に 比較すると公生の割合は漸増し私生の割合は漸減の趨勢である。 出生兒の體性は女 100に付男 105で前年に比し 0.7増加した。

昭和六年朝鮮に於ける出生總數は 717,882人(內本地人 705,906 る、女は20歳以上24歳が最も多くて5割4分を占め15歳以上19 人)て豪灘は217,136人(內本地人208,137人)、同構太10,914人

(内本地人 49人) で概して次第に増加の狀態に在る。

【死産】 昭和七年内地に於ける死産は 116,579人で前年に比し 3,070 人を増加し、人口 1,000に對する割合は 1.80で前年に比し 0.02を増加した。

同年に於ける死産兒の身分は公生 8割、私生(庶子を含む) 2割 で之を出生兒の身分に比べると甚しく公生に少くて私生に多い。 死産兒の體性は女 100に付男 119.8で出生兒に比し男子の割合

遙に多く、又死産兒の體性を既往に比較すると男子超過の程度は 漸進の趨勢に在る。

【死亡】 昭和七年内地に於ける死亡は 1,175千人で前年に比し 66千人を減少し、人口に對する割合は 1,000人に付 17.7 で前年 に比し1.25を減少した、同率は大正九年以降概して年と共に降下 の趨勢にある。

昭和五年海外諸國の死亡率を見ると人口 1,000に付英吉利 11.7 北米合衆國 11.3、獨逸 11.1、佛蘭西 15.7、伊太利 14.1、白耳義 13.2、和蘭 9.1等で何れも我が國よりは遙に低い。

道府縣中死亡率の概して高いのは東北、東海の諸地方、其の率 の低いのは東山、四國、九州に屬する諸地方である。

死亡は夏期に最も多く冬季之に亞ぎ春季及秋季に少ない。

死亡者の年齡は4歳以下に於て全死亡の3割5分を占め5歳以 上に於て 6割 5分を占むる、大正七年以來同九年までは青年期及 **壯年期の死亡當例に比し幾分高かつたが大正十年から低下して殆** んど舊に復した。

死亡原因は下痢及腸炎が最も多く 1割 2分を占め之に亞ぐは肺 炎及氣管枝肺炎の9分1厘、脳出血腦軟化の9分、肺結核の7分4厘、 老衰の6分6厘、畸形及先天性弱質の6分4厘、腎臓炎の5分2 厘、腦膜炎及癌の各 3分 7厘等で、尚心臓の器質的疾患に依る死 亡が之に亞で多い。

昭和六年朝鮮に於ける死亡總數は 410,388人(內本地人 401,548 人) で同臺灣は101,077人(內本地人 97,354人)、同樺太 5,648人 (内本地人 43人)となつて居る。前年に比し朝鮮及臺灣は増加し、 樺太は僅かに減少した。

[人口の自然増加] 出生死亡の差増に依る人口の自然増加は年 に依り多少あるが、大體逐次増加し明治の末年より大正に入り年 々 700千人以上の増加に上つたが大正五、六年少しく減少し伺七 年には大に減少して 300千人以下となった(流行性感冒の影響)然 るに大正八年には増加し約 500千人となり尚遞増し續けて昭和元 年には實に 940千人に達したが、爾後 800千人臺に下つた。然る に昭和五年には 914千人、人口 1,000に付 14.2となって再び 900 千人臺に上り、六年には少しく減少して800千人臺に低落するに 至ったが七年には實に 1,007千人、人口千人に付15.19 となり初 めて 1,000千人を突破する未曾有の増加を示し、之を大正七、八

年當時に比較する時は僅々十數年間に 2倍乃至 3倍の飛躍的増加 を見るに至つた。

**[生命表]** 生命表は行政上、企業上及學術上の用途甚だ廣い本 書に掲げた同表には生存者、死亡者、死亡率、平均餘命及死力の五 種の函數を掲げた、生存者とは同一期に生れたる男女各 100,000 人に假定し各年齢に於ける死亡率に依り年々死亡する者を控除し た殘數にして、死亡者とは假定 100,000人中一年間に於ける各年 齢の死亡者である、死亡率とは各年齢の死亡者を當該年齢生存者 を以て除した生存者 1人に對する比である、平均餘命とは各年齡 人口の將來生存し得べき豫定年數にして、死力とは各歳に於ける 瞬間の死亡率を言ふのである。

本書に掲げたる生命表は大正十年乃至同十四年の統計に基き作 成せられたるものにして同表に依れば零歳に於ける死亡率は男 0.162、女に 0.144にして殆ど 80歳の死亡率に匹敵し零歳より年 齢進むに從ひ死亡率は低下し8歳乃至12歳に於て人生中最も安全 なる時代に達する、此年齡を過ぐれば死亡率は次第に増加し男は 19歳、女は21歳に於て青年期の最高率に達する、爾後死亡率は漸 次低下し30歳附近に於ては稍安定せる狀態に達するが此時代を過 ぐれば死亡率は上昇を續け女に於ては40歳附近に於て一波瀾を呈 するも次第に増加する。而して零歳に於ける平均餘命は男 42.06 歳女 43.20歳で歐米諸國に比し未だ大なる遜色を示して居る。

【移民】 昭和七年に於ける移民渡航許可員數は 19.033 人で前 年に比し 8,649人を増加した、此内 8割 5分は移民取扱人に依る もので渡航地別はブラジル最も多く 15,092人 (7割 9分) でソヴ イエト職邦の 1,096人 (5分 8厘)、比律賓群島の 747人、臨領東 印度の 533人、ベルーの 369人、英領馬來及海峽植民地の356人、 之に亞いで多く他は 300人未滿である。渡航許可人員の府縣別は 北海道最も多く福島、沖縄、福岡、廣島、熊本が之に亞いで多い。 其職業別は農業最も多く 6割 9分を占めて居る、而して同年に於 ける 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は 
 は

【在外本邦人】 昭和六年十月一日現在に於 在外本邦人及在留外國人及移民 ける海外在留の内地人は 635,227人で、内男 361.450人 (5割7分) 女 273,777人である。

在外本邦人を溯別に見ると最も多いのは亞細亞洲の 205,777人 大洋洲の147,820人、南亜米利加の 146.678人で之に亞ぐのは北亞 米利加の 131,152人、 遙に降って歐羅巴の 3,696人、 阿弗利加は 僅に 104人である。昭和五年の調に依れば在外本邦人の職業は農 業最も多く 2割を占め、商業(1割)、工業(9分)、公務自由業(2 分)が之に亞いで居る。

[在留外國人] 昭和七年末に於て內地に在留する外國人の數は 26.885人で前年に比し1.432人を減少した、外國人の多數在留す

る地方は兵庫の 6.072人、東京の 5.404人、神奈川の 4,445人、 大阪の 2,260人、長崎の 1,249人、京都の832人、愛知の828人、福 岡の 613人、北海道の 591人で其他は何れも 500人未滿で 100人 未満のものが多い。

外國人の國籍は中國の 17,819 人が最も多く遙に降つて北米合 衆國の 2,015人、英吉利の 1,969人、露西亞の 1,537人、獨逸の 1,040人、が主なるものである。

#### III. 農 林 及 水 産 (表72—102頁參照)

丹

【農家戸數】 昭和六年末に於て耕作を營む 農家戸敷は5,634千戸で、前年に比し34千戸を

増加した。農家中自作は3割1分、小作は2割7分、自作輸小作は4割 2 分で之を既往に比較すると共に漸増の趨勢を示してゐる。農家 耕地の廣狹を見ると最も多いのは 1戸 0.5ヘクタール未満を耕す もの農家總戶數の 3割 4分を占め、0.5以上 0.99~クタールは3割 4分、0.99以上 1.98~クタールは 2割 2分、1.98以上 4.96~クタ ールは8分、4.96~クタール以上は1分で、小規模の經營に係る 農業が大部分を占めて居る。然し之を既往に比較すると耕地 0.5 ヘクタール未満の小農割合は漸減し、0.5以上 0.99 ヘクタールを 耕すもの 1割合及 0.99 以上 1.98 ヘクタールを耕すもの 1割合は 漸増の傾向を示して居るが1.98ヘクタール以上を耕するのよ割合 は此の趨勢に背馳した形勢にある。

【作付面稿】 (米、麥、桑は昭和七年、他は六年) 農作物中主要 なもの1作付面積を舉げると米は3,231千ヘクタール、窓は1,484 千~クタールで共に米は前年より増加してゐる。而して桑は 647 千ヘクタール、大豆 350千ヘクタール、甘藷 263 千ヘクタール、 小豆 117千ヘクタール、馬鈴薯 105ヘクタール、蕎麥 105千ヘク タール、生大根の100千ヘクタールで、他は10萬ヘクタール未満 である。之を既往に比較すると米、桑の作付面積は増加の趨勢を 示して居るが、其他のもの工作付面積は概して漸減して居る。

【收穫高】 昭和七年に於ける米の收穫高は 108,938 干茹で前年 に比し 9,335千茹の増收なるも、過去五年の平均作に比すれば 759 干竡の減收である。

米の種類は粳米 9割、糯米 8分、陸米 2分で、近時此の割合に甚 しき變動を見ない。

昭和六年朝鮮に於ける米收穫高は 28,633千茹、同臺灣 13,493 千茹にして樺太には産せず南洋は 4竡を産し關東州に於ては35千 妬の收穫を示して居る。

昭和七年に於ける麥の收穫高は大麥の13,663千竡、稞麥11,827 千竡、小麥は 11,721千竡で、前年に比し大麥は 353千竡、稞麥は 80 干頭、小婆は 166 干頭を増加した。最近の趨勢では麥類の收 穫高には大変に聊か減收の傾向が見ゆる他一定した傾向を認め難

米変以外の農産物は最近概して減收の狀態に在る。

竡を増した。之を地方別に見ると 1アール當り 0.40 銆以上を收穫 したのは大阪、奈良、香川、滋賀、愛媛、佐賀、兵庫、山梨の8 高知、沖繩の 5縣にして、前年に比して一般に増牧である。上記 以外の府縣は 0.30万至 0.40の間に在る。

昭和七年大婆の 1アール當り收穫は 0.36跖、 裸窓は 0.25跖、 小麥は 0.23 類、燕麥は 0.20 類で、前年に比し大麥、稞麥は増し、 小麥は變らず、燕麥は滅じた。

【農産物價額】食用の農産物及菜種、麻、藍、楮、藺、甘蔗、葉 煙草等の工業原料用農産物の昭和六年見積價額は 1,501,816 千圓 で前年に比し 322,489千圓を減少した、農産物價額を地方別に見 ると北海道、茨城、千葉、新潟、愛知、兵庫、福岡の各 5千萬圓 臺、福島、栃木、埼玉、静岡、岡山、熊本、鹿兒島の各 4千萬圓 臺等が多いものに屬し青森、東京、福井、山梨、京都、奈良、鳥 取、島根、徳島、高知、沖繩の 1千萬圓臺が少いものに屬する。

農産物價額中米の價額は 913百萬圓、 姿の價額は 156 百萬 圓 で、農産物總額中米は6割1分を占め、姿は1割に當る、米産額 の多いのは新潟の 48,910千圓、兵庫、福岡、愛知、千葉、岡山、 芙城、山形の 3千萬圓臺である。人口 1に付農産物の價額は23圓 に當り、之を地方別に見ると滋賀の 42圓 50錢を最高とし宮城、 秋田、山形、茨城、栃木、干葉、新潟、富山、奈良、岡山、山口、 香川、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿兒島の 30 圓臺が多く、少い 地方としては神奈川、京都、大阪等で東京の 2圓80錢は最少であ

【養蠶】 昭和七年に於ける養蠶戶數は 2,065千戸で、前年に比 し55千戸を減少した。左の内春蠶を飼育したもの 1,901千戸、夏 秋蠶を飼育したるもの 1,922千戸で、前年に比し兩者共に減少し

蠶種掃立數量は春蠶 77,898瓩、夏秋蠶 88,913瓩、合計 166,812 瓩で前年に比し 3,195瓩を減少した。其の産繭高は春鷺 173.968 千庇、夏秋蠶 161,846千庇、合計 335,814千庇である、之を前年 1比べると 28,208 午瓩を減少した。

昭和七年に於ける産繭價額は前年より稍と騰貴したるも、尚ほ 値下りの為 296,791千圓で前年に比し僅かに 21,235 千圓を増加 したるに過ぎない。産繭價額を過去十年間比較すると著しい變動 昭和七年米の 1アール當り收穫高は 0.34 革で、前年より 0.03 | があつて大正二年、歐洲大戦前は 188,000千圓であったが三年四

年と遞下して 150,000千圓となった、五年には頓に増加して273, 000 千圓となり尙八年まで遞増して 771,000千圓を示すに至った が戦後の九年には 366,000千圓に激落した、然るに十年からは逐 見たが又十四年には 800,000千圓を突破し昭和元年には再び600, 000千圓臺昭和二年には400,000千圓臺に下り、昭和三年には聊か 恢復して 500,000千圓臺、昭和四年には更に増加して 600,000千 圓臺に上つたが、昭和五年には不景氣の影響を受けて 300,000千 圓臺に急落し昭和六年更に 300,000千圓臺を割るに至つた。

掃立數量に依て養蠶事業の地方分布を見ると、長野の21,516瓩 が最も多く、全國總數量の1割3分强を占めて居る、之に亞ぐは 群馬の 13,829 瓩、埼玉の 11,712 瓩、愛知の 9,715 瓩、山梨の 7,673瓩、岐阜の 7,379瓩、茨城の 6,932 瓩、福島の 6,332 瓩、 三重の4,914瓩、千葉の 4,353瓩、愛媛の4,297瓩等で其の産繭高 は長野 30,972千圓、愛知 16,756千圓、群馬 15,504 千圓、埼玉 13,295千圓、岐阜 12,344千圓、三重 11,921千圓、茨城 11,499千 圓、山梨 11,480千圓、福島 11,089千圓である。

養蠶戶數一に付掃立數量の多少に依て養蠶事業の 規模を見る と、群馬の 167.4瓦最も多く長野の 136.8瓦、山梨の 129.4瓦、東 京の 124.8瓦、埼玉の 117.8瓦、干葉、神奈川、茨城、愛知の各 100 瓦臺、岐阜、徳島の 90瓦臺之に亞ぎ他は何れも 90瓦未滿で ある。

家畜及家禽

【家畜】 昭和六年末に於ける牛は 1,512千 頭で、前年に比し14千頭を増加した。牝牡の

別を見ると牝牛は逐次増加の傾向なるに反し牡牛は逐次減少の狀 能にある。昭和六年には牡100に付牝278の割合になつて居る。

昭和五年末に於ける馬は 1,477千頭で前年に比し僅かに減少し た。馬の現在數は數年前迄每年 1,500千頭內外を上下し增減の趨 勢は明でなかったが大正十年から逐年増加し十三年に至って又減 少を示し爾來逐年減少し來つて居る。

昭和六年末に於ける山羊は 218,921頭で前年に比し 1,732頭を 増加した。

昭和六年末に於ける緬羊は 24,453頭で前年に比し 751 頭を増 加した。緬羊頭數は十數年以前に於ては增減常なかつたが、近時 に至り緬羊繁殖に闘する施設の結果其増加頓に顯著となり、前項 山羊と共に各種の家畜中増加の歩調最も急速である。

昭和六年末に於ける豚は 947,216頭で前年に比し 204,905頭を 増加した、既往に比較すると逐年増加の步調であつて、十年は約 30,000 頭を減少したが十一年は 12,000 餘頭を増加し十二年以降 は増加が著しく十三年の如きは 75,000 餘頭増加した。然るに十 四年以降減少を續け昭和二年以降は増加をみて居つたが、昭和四 年には減少し、五年以降に於て再び増加を見るに至つた。

【家禽】 昭和六年六月末に於ける鷄は 52,586 干羽で前年に比べ ると 5,869 干羽を増加した。既往に比較すると逐年増加の傾向顯 著であったが昭和五年に於て初めて減少し、六年に於て再び増加 を見るに至つた。

昭和六年六月末に於ける驚は 468,753 羽で前年に比べると 13, 108羽を減少した。

【地方别】昭和六年末に於て牛は本州の中部以西就中中國、四 國及九州に多く、中部以北に於ては北海道、青森、岩手、茨城、 埼玉、干薬、東京、神奈川、新潟に多い。

馬は北海道、東北の諸地方、茨城、栃木、群馬、干葉、新潟、 長野、福岡、熊本、宮崎、鹿兒島に多くて本州中部以西及四國に は一般に少い。

山羊は沖繩が 6割 4分を占め、鹿兒島之に亞ぎ尚長野、高知、

緬羊は北海道、岩手、宮城、山形、福島、熊本、鹿兒島に多い、 外に全頭敷の 1割 5分官有のものがある。

豚は沖繩に最も多くて全敷の 1割 3分を占め、鹿兒島、茨城、 愛知、千葉、靜岡及關東地方が之に亞いで多い。

磐は愛知の 5,348千羽最も多く之に亞(\*は鹿兒島の 2,525千羽、 干薬の 2,496千羽、静岡の 2,058千羽、福岡の2,000 千羽、北海道 の1,980千羽、 英城の 1,830千羽、 兵庫の 1,244千羽等である。

【家畜傳染病】 昭和六年中家畜傳染病で最も發病頭敷の多いの は豚虎列刺の28,954、之に亞ぐのは豚丹毒の1,856、豚疫の1,006、 牛炭疽の213 牛の傳染性流産 188等である。

【屠畜】 昭和六年末に於ける全國居場數は 629箇所ある。食用 頭で啄を除けば何れも前年より増加してゐる。尚既往に比較する と牛馬は毎年多少の増減があり豚は逐年著しい歩調で増加して來 たが、十一年及十二年は減少し十三年十四年は著しく増加した、 **糖は十一年に甚しく増加したるも近年には著しい増減がない。** 

展殺獣の價額は成牛 38,785千圓、 1755千圓、馬 3,957千圓、 豚 17,676千圓、合計 61,174千圓で前年に比し 5,811 千圓を減少

「牛乳」 昭和六年中の搾乳高は 1,897千茹で前年に比し 143千 始を増加した。人口に對する搾乳高は一人に付 2.9立に當り、前 年に比し 0.2立を増加した。

「乳肉製品」 昭和六年中の乳製品の總價額は 11,456 千圓で前 年に比し5,276千圓を減少した。製品の主なるものは、煉乳6,131 千周、バター 2,967千圓、人造バター 315千圓である。總價額を 地方別に見ると、最も多いのは北海道の 6,651千圓、之に亞ぐは 千葉の 1,836千圓、静岡の 1,273千圓、神奈川の 355千圓等であ

肉製品の總價額は 1,527 千圓で 前年に比し 225 千圓を減少した、製品の主なるものはハム 1.042千圓、ベーコン94千圓等である。總價額を地方別に見ると最も多いのは神奈川の 1,123千圓で全産額の 7 割 4 分を占め之に亞ぐものに東京の93千圓、長崎の91千圓が在る。

| **2**01,764千瓩、乾柿 8,487千瓩、苹果 73,271千瓩、葡萄 53,852千 瓩、柑橘類 375,995千瓩で前年に比し桃、生柿、乾柿、葡萄、苹果、柑橘等は減少し他は何れも増加した。

果實の產額を地方別に見ると梅は和歌山、埼玉、靜岡、千葉、 茨城、愛知、神奈川に多く、桃は岡山、神奈川、大阪、特に多く 廣島、新潟、香川に多い。梨は靜岡、新潟、愛媛、顧島、岡山、 干葉、埼玉に、柿は福島、長野、新潟、廣島、鹿兒島、岐阜に多 い。苹果は青森特に多く全産額の7割5分以上を占め北海道が之 に亞で多い。葡萄は大阪、山梨特に多く岡山、廣島、新潟、長野 にも多い。柑橘類は和歌山最も多く、靜岡、愛媛、廣島等亦多い 地方である。

#### 山林及狩獵

【**林野面積**】 每三年定期調査に依る昭和五 年末に於ける全國の立木地面積は 19,890 干

ヘクタールで總面積の 5割 2分を占めて居る、之を昭和二年末の 面積に比べると373千ヘクタールを増加した。

無立木地は 3,132千ヘクタール、總面積の 8分で前記立木地面積と共に國土の過半は林野である。之を各國の林野面積に比較すると瑞典は 5割 6分(1929年) 我國と伯仲の間に在るが獨逸は 2割 7分(1927年)、佛蘭西は 1割 9分(1928年)、白耳義は 8分(1925年)、伊太利は 1割 6分(1929年)、北米合衆國は 2割 4分(1922年)、和康は 8分(1930年)、英吉利は 4分(1917年) で我が國より遙かに少ない。

立木地を所有者別に見ると私有4割、國有3割6分、公有1割6分、御料6分、社寺有6厘で無立木地は私有5割、公有3割2分、國有1割2分、御料5分、社寺有4厘で立木地、無立木地共從來私有増加し他は概して減少する趨勢である。

立木地面積を地方別に見ると北海道の 5,410千ヘクタールが最も廣く遊に降つて福島の 955千ヘクタール、岩手の 877千ヘクタール、長野の 729千ヘクタール、岐阜の 662千ヘクタール、秋田の 583千ヘクタール、山形の 564千ヘクタール、青森の 543千ヘクタール等相亞ぎ其の 狭き 地方は大阪の 33千ヘクタール、東京の 72千ヘクタール、佐賀の 74千ヘクタール、香川の 89千ヘクタール等である。各地方原野の廣狭も大體森林と相似て居る。

【森材植栽】 昭和六年中に於ける森林新植面積は 99,613 ヘクタールで、前年に比し 1,595ヘクタールを減少した。植栽面積を

地方別に見ると北海道の 8,454~クタールが最も廣く之に亞ぐは 長野の 5,123~クタールで、熊本、秋田の各4,000~クタール臺、 岩手、廣島、靜岡、大分、宮崎、鹿兒島の各 3,000~クタール臺 である。

森林の補植は 58,263千本で前年に比し 3,119千本を減少した。
【天然造林】 昭和六年中に於ける天然造林は 239,877~クタールで前年に比し15,356~クタールを増加したが之を十年前に比較すると其の 2分の 1に及ぶに過ぎず、前記新植面積の不振と共に天然造林事業も近時甚だ不振である。天然造林の主なる地方は北海道の 63,078~クタール、静岡の 15,153~クタール、岩手の10,087~クタール福島の 9,264~クタール等である。

【林産物】 昭和六年中に於ける用材の産額は 63,510 千圓で前年に比し 6,648千圓を減少した、薪炭材は 43,534 千圓、竹材は 2,850千圓で前年に比し何れも減少を示して居る。

林産物質額を地方別に見ると用材は北海道の 7,352千圓、長野 の 3,757千圓が最大で之に亞ぐは壽岡の3,114千圓で秋田、奈良、 宮崎、大分、三重の 2,000千圓臺等が主なるものである。 薪炭材は北海道の 2,442千圓、宮崎の2,048千圓が主なるもので、

他は何れも 2,000千圓未滿である。竹材は福岡の 211千圓が最も 多く之に亜ぐは京都の 189千圓、山口の 184千圓、大分の 173千 圓、鹿兒島の 158千圓等で北海道の如きは全く産しない。

【狩獵免狀下附數】 昭和七年中に於ける狩獵免狀下 附 數 は 74,679 で前年に比し 7,582を減少した。免狀には銃器を用ひない 甲種と銃器を用ひる乙種との別があり其の割合前者は 1割 2分後 者は 8割 8分で從前に比し甲種の割合少しく増加をみた。

【保安林】 昭和六年末に於ける全國の保安林は 393,952箇所、 共の面積 2,067千ヘクタールで、前年に比し 2,599箇所、10千ヘ クタールを増加した。保安林は國有最も廣くして4割 5分を占め、 公有は 3割 7分、私有は 1割 7分で御料及社寺有には甚だ少い。

保安林の目的は土砂扞止と水源涵養とが最も多く此の兩者で保 安林全面積の 9割 4分を占め其の他は防風、魚附、風致、飛砂防 止、水害防備等が主なるものである。

保安林を地方別に見ると北海道の 694干ヘクタールが最も廣く 新潟の 155干ヘクタール、岐阜の 153干ヘクタール、山形の 138 干ヘクタール之に亞ぎ尚 50干ヘクタール以上ある 地方は 秋田、 福島、富山、山梨、長野、岡山等である。

### 水 産 業

【漁業者】昭和六年末に於ける全國の漁業者 は 1,482千人で總人口干に付 22.7 に當り之

を前年に比べると實數に於て僅かに48人を増加したに過ぎない。右の內漁業を本業とする者は5割2分を占め之を副業とする者より僅に多くなつて居る。

漁業者を地方別に見ると北海道の 186千人が最も多く、長崎の80千人、千葉の68千人、三重の53千人、靜岡の52千人、青森、岩手、島根、愛知、山口、愛媛、高知、熊本、大分、鹿兒島の各40千人臺之に亞ぎ、尚30千人臺には東京、神奈川、廣島、20千人臺には茨城、新潟、富山、石川、岐阜、滋賀、兵庫、和歌山、香川、福岡等がある。而して北海道は漁業を本業とする者は副業とする者より遙に多いが他には兩者同等又は副業とする者が多いものもある。

【漁船數】 昭和六年末に於ける全國の漁船數は 360,690隻で前年に比し 1,395隻を増加した。漁船の種別を見ると動力を有せざるもの 8割 8分を占め、動力を有するものは僅に 1割 2分である。然し前者は逐次減少するに反し後者は逐次増加しつかある。動力の種類は發動機を備ふるもの大部分を占め蒸氣機關を備ふるものは一少部分に過ぎない。

地方別に漁船の多少を見ると北海道の 59,288隻最も多く長崎 の 21,143 隻之に亞ぎ他に 20,000 隻以上を有する地方はない。 10,000隻臺を有するは青森、干葉、三重、兵庫、廣島、山口、愛 媛で其他の地方は何れも 10,000隻未滿で、山梨は 43隻奈良は47 集で、栃木、群馬、埼玉、長野、岐阜の海に面しない地方は各數 百隻である。

【漁獲物】 昭和六年中に於ける內地沿岸漁獲物の見積總價額は 147,806 千圓で漁業者一人に付100圓に當り、漁獲物總價額を前年 に比べると、15,122 千圓を減少した。

漁獲物を大別すると魚類 85,530千圓 (58%)、貝類 2,458千圓 (2%)、藻類 5,569千圓 (4%)、其の他 54,248千圓 (37%) で前年に比し何れも減少した。魚類中最も多いのは 鰮の 17,972千圓 で、鯛の 9,145千圓、鰤の 7,191千圓、鰊の 7,214千圓、鮪5,266 千圓、鯖 5,184千圓之に亞ぎ 3,000千圓以上 5,000千圓未滿は、鮃及鰈、鯵、鮭である。魚類以外のものでは烏賊及柔魚の 8,823 千圓、鰕の 6,488千圓が主なるもので其の他は何れも 3,000千圓未滿である。

各種の價額を前年に比べると何れも減少して居る。

漁獲物總價額を地方別に見ると北海道の 28,342千圓 首位を占め長崎の 6,721千圓、靜岡の 6,707千圓、三重の 6,311千圓、山口の 6,030千圓、神奈川、愛知の 5,000千圓臺之に亞ぎ尚 3,000千圓以上の地方に青森、愛知、和歌山、廣島、愛媛、高知、福岡、がある。

同年朝鮮に於ける漁獲物總額は 46,578 千圓、同臺灣 2,814千 圓、同樺太 4,257千圓、同關東州 3,151千圓、南洋 871千圓であ

【水産製造物】 昭和六年中 に於ける 水産製造 物 の 總 價 額 は 130,708千圓で前年に比し 16,261千圓を減少した。

水産製造物中重要なるものは鰹節の 12,453千圓、乾海苔の 11,802 千圓、搾粕肥料の 11,308千圓、煮乾眞鰮の 8,618 千圓、素 乾鰛の 6,444千圓等で其の他は何れも 3,000千圓未満である。

水産製造物總價額を地方別に見ると北海道の 33,968千圓最も 多く之に亜ぐは静岡の 11,338千圓、東京の 9,667千圓等である。 同年朝鮮に於ける水産製造物價額は 28,369千圓、同臺灣 1,525 千圓、棒太 10,948千圓、關東州 1,101千圓、南洋1,064千圓である。

【遠洋漁業】昭和六年に於ける遠洋漁業に依る漁獲物價額は内地沖合 57,979千圓で前年に比し 8,568 千圓を減少した。露領極東州に於ける鹽藏、雜詰及其他 の 生産高は 22,356千圓で前年に比し 9,473千圓を減じ最近漸減の傾向に在る。又トロール漁業は歐洲大戰當時は一時殆んど廢絕せんとしたるが其の後挽回せられ近年は年々漁獲高七百萬圓前後を舉げて居る。

【水産養殖】 昭和六年末に於ける水産養殖場は 151,565箇所共の面積は 499,771千平方米で之を前年に比べると 14,536千平方米を増加した。収獲物の價額は 19,129千圓で前年に比し 620千圓を増加した。水産養殖は紫菜の 8,426千圓、鯉の 3,409 千圓、鰻の 2,902千圓、牡蠣の 1,103千圓が主なるもので他は何れも 1,000千圓未滿である。

【製鹽】 昭和六年度末 に於ける鹽製造場敷は 3,434、從業者 37,115人で、製鹽面積は 4,530~クタールである。之を前年に比べると鹽製造場敷15、製鹽面積 1~クタールを減少した。尚最近十年間に於て從業者數は逐次減少の趨勢に在る。

昭和六年度中に於ける製鹽高は 521,262干瓩で前年に比し 107, 421干瓩の減少を示した。

製鹽高を人口に對比すると大正三年度に於ては一人に付 11.4 旺産出したが爾後逐次減少し七年度には 7.3瓩となり其後多少の 消長を以て經過し十一年度には 11.5瓩に上った。十四年度に於 ては 11.2瓩を産出し昭和六年度に於ては 8.0 瓩を産してゐる。 製鹽高を府縣別に見ると最も多いのは香川の 159,059干瓩、之に 亞ぐは兵庫の 80,379干瓩、山口の 75,042干瓩等である。朝鮮に 於ける製鹽高は 146,322 干瓩、臺灣は 101,455 干瓩、關東州は 204,386干瓩である。

産業及同業組合

【産業組合】 昭和六年末に於ける各種産業 組合は 14,163で前年に比し81を増加した。右

の中主なるものは信用利用販賣購買組合の 4,151、信用販賣購買 組合の 3,132、信用組合の 2,135、信用購買組合の 1,920で他は 数百又は数十程度のものが多い。

昭和五年末に於ける産業組合を其の目的別に見て組合数を舉げると信用組合は 11,449、組合員数 3,861千人、販賣組合は 7,777、組合員数 2,845千人、 購買組合は 9,576、組合員数 3,152千人、利用組合は 5,073、組合員数 1,998千人で一組合平均組合員数信

**翔は 338人、販賣は 366人、購買は 329人、利用は 394人で何れ** も前年より増加した。

昭和六年末に於ける産業組合の組織は有限責任 9割 1分、無限 責任 7分、保證責任 2分で、之を既往に比較すると割合上有限は 漸増し、無限は漸減し、保證は甚しい變動を見ない。

【同業組合】 昭和七年末に於ける重要物産同業組合敷は 1,393 で前年に比し 152減少した。

【同業組合聯合會】 昭和七年末に於ける同業組合聯合會は65で 前年に比し19を減少した。

【漁業組合】 昭和五年末に於ける漁業組合は 3,874、其の組合 員 526,579人で前年に比し組合18を減少し、人員に於て13,818人 を増加した。

【水産組合】 昭和五年末に於ける水産組合數は 47組合員 51,3 71人、前年に比し組合數 2、組合員 5,152人を増加した。水産組 合聯合會は 1、加入組合數 3で前年に比し變りない。

【森林組合】 昭和六年末に於ける森林組合數は 1,407、其の組 合員數 190,382人で前年に比し組合數 203、組合員數 28,016人 を増加した。

#### IV. 鏞 業 及 工 業 (表103—122頁參照)

鑛

【鑛區】 昭和六年末に於ける全國の稼業鑛 「ると、金と鐡を除く他は減少を示して居る。 區敷は 1,099其の面積は 21,037,812アールで

前年に比し87區域1,287,649アールを滅じた、休業鑛區は前年に 比し 133區を増し面積に於て 2,046,325アールを減少した。鑛區 及其の面積は大正九年以來前年迄引續き減少し、同十二年以來此 の形勢は稍挽囘の傾向にある。

稼業砂鑛區は河床 54箇所、其の延長 203粁、河床以外の鎌區 108、其の面積 214,425アールで前年に比し鍍區75を増したが河 床延長は 8,735アールを滅じた。休業砂鑛區は河床 643箇所、其 の延長 2,849粁河、川以外の鏃區1,533其の面積 5,585,410アール で前年に比し鑛區共に増加して居る。

蘇業鑛區を鑛種別に見ると石炭の12,714,855アール最も廣く遙 に降て石油の1,442,001アール、金銀銅の775,664アール、金銀銅 鉛亜鉛硫化鐵の 726,148アール、金銀の 757,494アール之に亞ぎ 倘30萬アール以上を占むるものには金銀銅鉛亜鉛、銅硫化鐵、亞 炭がある。砂鑛に在ては砂金砂白金及砂鐡が主なるものである。

内地以外に於ける稼業鑛區數は昭和六年末朝鮮の 481を最大と し臺灣の158之に亞ぎ遙に降りて關東州及南滿洲鐵道附屬地(以下 關東州と呼ぶ)は23にして樺太は16である。而して其面積は朝 鮮 8,964,647アール、臺灣 2,243,915アール、關東州 1,281,288ア ール、樺太 991,635アールである、休業鑛區及面積は朝鮮 1,815 (44,541,959アール)臺灣 447(3,254,849アール)樺太 42(1,061,744 アール) 關東州 42(272,383アール) である。 鍍種は朝鮮に於ては 金銀鑛最も多く臺灣、樺太及關東州に於ては石炭が最も多い狀態 にある。

【鑛産額】 昭和六年中に於ける各種鑛産物の價額は 253,404千 圓で前年に比し 54,270千圓を減少した。鑛産物中其の 價額の最 も多いのは石炭の 161,950千圓で全鑛産額の 6割 4分を占め、之 **に亞ぐは銅の 33,628千圓、金の 17,987千圓、石油(原油)の 8,357** 干圓、硫化鐵鍍の 6,091干圓、鐵の 7,880干圓、亞鉛の 4,472干 圓、銀の 3,599千圓、硫黄の 3,166千圓等で是等を前年に比較す (、他は 400千圓未滿である。

鑛産額を地方別に見ると金は大分の 6,531干圓最も多く茨城の 3,564千圓、鹿兒島の1,613千圓、愛媛の1,598千圓、香川の1,49 4千圓、北海道の1,457千圓, が多く他は1百萬圓未滿である。銀は 愛媛の 662千圓最も多く、茨城の 551千圓、秋田の 489千圓、香 川の 479千圓、大分の 472千圓、銅は秋田の 8,399千圓最も多く、 愛媛の 6百萬圓臺、栃木の 4百萬圓臺、 茨城の 3百萬圓臺等多く、 亜鉛は福岡に 3,285千圓を産して全額の 7割 3分を占め、鐡は岩 手の 5,108千圓が全産額の 6割 5分を占め、硫化鐵鍍は 岡山の 2,476千圓、愛媛の 1,303千圓特に多く、石炭は福岡の 90,669千 圓特に多くして全額の 5割 7分を占め遙に降て北海道の 30,903平 圓、長崎の 13,802千圓、福島の 10,086千圓、山口の 8,538千圓、 佐賀の 6,003千圓が亞で多く、石油は新潟に 5,800 千圓、秋 田 に 2,176千圓を産して全額の 9割 5分を占め、硫黄は北海道に 1,009千圓、岩手 684千圓を産する。

内地以外に於ける鑛産物の總額は昭和六年に於て關東州の 58,507千圓を最高とし朝鮮の 21,742千圓、臺灣の 13,338千圓、 樺太の 5,250千圓(石炭)が之に亞いで居る。南洋には 1,126千圓 を産した。而して朝鮮は金、臺灣、關東州は共に石炭の産額が最 も多く、夫々 5,250千圓、7,165千圓、57,357千圓を示して居る。 樺太には石炭の 5,190千圓、南洋には燐鑛の 1,126千圓を産し、 共に他に鍍産物なし。

【土石類】 昭和六年中に採取した石材額は 9,082千圓、同土石 及鑛水 10,631千圓、同砂利は 8,693千圓である。

地方別に見ると石材は福井の 1,771千圓、岡山の 1.052千圓、 香川の 490千圓、茨城の 434千圓、神奈川、愛知、兵庫、廣島、 山口の 300千圓臺が多い。土石及鑛水は福岡の 1,987千圓最も多 く、兵庫の 1,320千圓臺、愛知の 858千圓、岐阜 788千圓に岡山 の 689千圓之に亞いで居る。砂利は北海道の 954千圓を最高とし、 神奈川の 734千圓、兵庫、熊本、福岡の 400千圓臺之に亞いで多

【製造場】昭和六年末に於ける各種製造場 I 中其數最も多きは製茶業の1,126千戸にして、 満である。而して 100千戸未満に於ては寥稈經木麻眞田製造業の 82千戸、疊表製造業の79千戸等多く刷子及刷毛製造業の741、製 革の 686、酒精及酒精含有飲料製造業の 189等は其の少なき部類 に屬する。

各種工業製造場につき其從業職工数をみるに總数に於て最も多 きは絹織物及絹綿交織物の213,285人、綿織物の210,555人にして 萬人未満である。而して其の特に少なきは精製障腦の 160人であ る。何又此等各種工業中男工女工の割合につきて觀るに男工が女 工に比して特に多きものは皮革製品及製革業の各總數中 9割 4 分、漆器業の8割4分、粗製樟腦製造業の8割5分、瓦製造業の 8割 2分等にして之に對して女工の數特に大なるは織物業にして 就中麻織及麻交織物業の如きは總數中女工の占むる割合は 9割 4分に及んで居る。織物業以外に於て女工割合高きものには莫大 小、疊表、茣蓙及花莚、帽子、籐製品、精製樟腦の各製造業等が ある。

【工産物】 昭和六年に於ける工産額の大宗は織物の 997,141千 圓で、之に亞ぐは紡績の 448,240千圓、蠶絲の 441,509千圓、煙 草の 256,051千圓(賣上代金)、紙の 134,095千圓、肥料の 124,727 千圓、工業用薬品の 113,548千圓、小麥粉の 87,773 千圓、染物 の 74,257千圓、醬油及溜の 69,236千圓、莫大小の 54,305千圓、 陶磁器の 54,198千圓、人造絹絲の 50,696千圓、硝子及硝子製品 の 34,389千圓、石鹼の 29,901千圓、植物油の 29,212千圓等にし て尚2千萬圓臺のものに瓦、漆器、1千萬圓臺のものに製革、製 茶、時計、罐詰、帽子、澱粉、味噌等がある。

上記の他酒類及砂糖は多數産するも價額の調査を關く。

重要工産物に付其の地方別を見ると、織物は愛知の 188,547千 圓、大阪の 113,063千圓、京都の 91,243千圓 が 特に多く、他は 8千萬圓未滿にして5千萬圓以上の產額を有するものには群馬、東 京、福井、兵庫がある。蠶絲は長野の 95,800千圓特に多く愛知 の 41,599千圓、群馬の 28,532千圓、山梨の 21,134千圓、山形、 福島、埼玉、岐阜、三重、京都、兵庫、愛媛、熊本の各1千 萬圓豪が之に亞いで多い。紡績は大阪の88,942千圓、愛知の 58,288千圓、兵庫の 41,291千圓、三重の 25,507千圓、靜岡の 23,713千圓、岡山の 23,083千圓、東京の 21,117千圓等が其の多 きものである。紙は東京、北海道、静岡、兵庫、大阪に多く産し 何れも産額 1千萬圓を超えて居る。肥料は東京、大阪、兵庫に多 く、何れも産額 1千萬圓以上である。工業薬品は宮崎の 26百萬 圓が特に多く大阪の 19百萬圓、東京の 16百萬圓、之に亞いで多

くして總產額の 5割 5分を占めて居る。人造絹絲は最近其產額の 増加著しく滋賀の20,768千圓、山口の13,924千圓、京都の4,505 千圓、廣島の 4.026千圓が主なるものである。

内地以外に於ける工業生産品をみるに朝鮮に於ては生絲及玉絲 の 9,272千圓、織物の 5,640千圓等が主なるもので、臺灣に於て は煙草 14,474千圓 (賣上代金)、製茶 8,324千圓、肥料 2,738千 圓が主なるもので、又樺太のバルプ及紙 26,218千圓、關東州の 豆油 14,270千圓は其大なるものに屬する。

特許 及 登錄

昭和六年に於ける發明特許は出願 15,183、其 の特許數4,318、實用新案登錄は出願 38,296、

【電氣事業】昭和六年末に於ける電氣事業

其の登録數 13,080、 意匠登録は出願 9,978、其の登録 4,819、 商標登錄は出願 22,420、其の登錄 11,881で前年に比し發明特許 の場合を除き登錄數の増加を示した。

數は 7,096で前年に比し 388を増加した。右 の中電氣供給及電氣鐵道事業は 733で更に細別すると 電氣 供給 525、電氣鐵道 161、電氣鐵道電氣供給氣管 47である。之を前年 に比べると電氣供給8を滅じ電氣鐵道9を増加し、電氣鐵道及供 給棄營は1を減じた。

【發電力】 昭和六年末に於ける發電力は 466萬キロワットで 前年に比し 26萬キロワットを増加し 10年以前に比べると約 3倍 し其の發達甚だ急速である。發電は水力に依るもの 6割 9分、火 力に依るもの 3割 1分で前年に比し水力の割合は増加した。

【雷氣需要】 昭和六年末に於ける電燈需用戶數は 1,145萬戶其 **箇數は 3,741萬箇、燭光敷 78,234萬燭光で前年に比し 10萬月57** 萬箇、5,447萬燭光を増加した。需用戶數 1に付電燈箇數は3.3箇 其の燭光 68燭光に當り前年に比し 4燭光を増加した。

人口に對する電燈箇數は 10人に付 5.7燈で、1人に付 12.0燭光 に當り前年に比べると燈敷に變りなく燭光は 0.7を増加した。

面積に對する電燈燭光は一方粁に付 2,046燭光で前年に比し 142 燭光を増加した。

昭和六年末に於ける電動機裝置數は52萬、其の電氣力286萬 キロワットで前年に比べると装置數 2萬、電氣力 19萬キロワッ トを増加した。

電燈需用戶数の最も多いのは東京の 1,126千戸で之に亞ぐは大 阪の 773千月、兵庫の 567千月、愛知の 530千月、福岡の 436千 戸、廣島の 359千戸等にして尚 30萬戸以上は 神奈川、新潟、長 野、靜岡、京都、20萬戸以上は北海道、茨城、埼玉、千葉、岐 阜、三重、岡山、山口、愛媛、熊本、鹿兒島である。而して10萬 戸未満に鳥取及沖繩の雨縣がある。

電燈燭光と人口との割合は 1人に付東京の34燭光最も多く京都 の 27燭光、大阪の 21燭光、神奈川の 16燭光、愛知の 15燭光、

廣島、福岡の14 燭光、兵庫の13 燭光、長野の12 燭光 熊本の 11燭光之に亞ぎ他は何れも10燭光未滿である。而して其の最も少 きは沖繩の0.97燭光である。

電力裝置の最も多いのは大阪の 83,771之に亞ぐのは東京の 78,218、兵庫の 32,788、愛知の 28,516、福岡の 26,923、京都の 22,307等で他は 20,000未満である。

瓦

昭和六年度に於ける瓦斯供給事業者は 94 其 の拂込沓本金 395,632千圓で前年に比し事業 者数 7、資本金 12,702千圓を増加した。

瓦斯取付口數は燈用及熱用を合して 370萬にして前年に比し 26萬を増加した。

瓦斯動力供給は 3,307馬力で前年に比し 1,405馬力を滅じた、 尚旣往に比較すると逐次減少の趨勢に在る。

昭和六年度中に於ける供給瓦斯量は一年間 74,008 萬立方米で 前年に比し 3,983萬立方米を増加した。

供給量を地方別 に見ると最も多いのは東京の 386,697千立方 米、之に亞("は大阪の 118,922千立方米、兵庫の 44,073千立方 米、京都の 36,289千 立方米、愛知の 36,251 千立方米等であ

#### 度量衡

昭和六年度中に於ける度量衡器の檢定簡數は 度器 7,492,761 量器 911,026、瓦斯メート

ル 458,294、水量メートル 286,440、衡器 2,239,540で前年に比 し度器を除き他は何れも増加した。

检定不合格率は各種百中度器甲種检定 2.6、同乙種 1.0、量器 1.3及 3.0、瓦斯メートル 2.4、水量メートル 1.7、衡器 2.3及 1.4で前年度に比し乙種檢定に於て衡器が同率を示して居るのみ で他は全部減少した。

昭和六年度中に於ける度量衡器需用數は度器 5,954,380、量器 1,118,114、衡器 1,398,540で前年に比し量器は増加したが度器及 衡器は減少を示した。

昭和六年度中に於ける計量器檢定箇數は 2,407千箇で前年に比 し 129千箇を増加した。同檢定箇數中不合格割合は概して良好で 生絲織度檢定器の1.5を最低とし最高は浮秤の4.4となって居る。

植民地に於ける同年度中の度量衡器需用の狀態をみるに朝鮮に 於ては度器 240,151、量器 93,373、衡器 25,841臺灣に於ては 度器 175,826、量器 38,705、衡器 32,741、樺太に於ては、度器 33,363、量器 3,415、衡器 2,311で人口 1,000に付ての割合は樺 太が最も多い。

#### V. 商 業 及 金 融 (表123—166頁參照)

【商工會議所】昭和六年末に於ける全國の 商工會議所數は 92で前年に比し 2を 増し、

議員數は 3,258人で前年に比し117人を増加し渓線聴者は133,545 人で前年に比し 28,775人を減少した。一箇年の經費は 2,553千 圓で前年に比し 356千圓を減少し、平均 1會議所に付 27,750 圓 に當つて居る、一箇年經費を地方別にみれば東京は340千圓、大 阪 222千圓、福岡 202千圓、北海道 185千圓、愛知 179千圓、兵 庫 171千圓、廣島 111千圓、京都 101千圓、其の他の府縣は 10 萬圓未満である。

47府縣中商工會議所を設けないのは干葉、奈良、沖縄の 3縣で他 は1若くは2を有するもの多く、北海道には6、愛知には5を有する。

【取引所】 昭和六年末に於ける株式組織の取引所數は 32 で前 年と増減なく取引員は840人、拂込資本金は98,103千圓である。 一年間の收入は 17,418千圓 で 其の 6割 7分は賣買手敷料、支出 4は 8,206千圓で其の 2割は取引所税である。外に會員組織の取引 所が 5ある。

地方別に拂込資本金を見ると東京の 38,875千圓、大阪の 37,000 千圓特に多く之に亞ぐは神奈川の 6,500千圓、愛知 4,875千圓、 京都 3,500千圓、兵庫 3,225千圓、他は數10萬圓乃至10數萬圓の ものが多い。

昭和六年に於ける株式清算取引所數は 11、賣買高は 16,937萬

株、其の受渡高 20,955千株で 賣 買高の 1割 2分に當る。米取引 所數は 28、 賣買高は 367,669干頭、其の受渡高 2,176干 茹で賣 買高の6厘に當る。生絲取引所數は2、賣買高44,030千瓩、其 の受渡高 2,328千瓩で賣買高の 5分 3厘に當る。

株式取引所で賣買高の多いのは東京株式の 7,116萬株、大阪株 式の 4,846萬株が特に多く遙に降つて名古屋株式の 1,769萬株、 廣島の 1,201萬株、京都の 981萬株、神戸の 588萬株等である、 米は大阪の堂島米穀の 126,326 干頭、東京米穀商品の 85,107 干 頭、京都の 39,279千頭、神戸の 25,106 千跖名古屋の 19,910 千 竡等である。

昭和六年に於ける米穀取引所清箟取引先物平均相場は1.8039跖 (1石)に付18圓86錢で前年に比し4圓72錢を下落した。之を月別 に見ると1月以後8月迄漸次騰貴し、9月より下落を辿り11月には 19圓 24銭となった。併し12月には20圓臺の反撥を示して居る。

【卸賣物價】昭和七年中の東京市卸賣物價を食料、衣類、建築 材料及燃料其他 42品に就いて前年と 對比するに 低落したるもの は、鰹節、牛肉、鶏肉、鶏卵の外 11品、騰貴したるものは 27品 の多きに及んで居る。大阪、神戸、京都、名古屋及樯濱の各市に 於ても之と同様の狀態を示して居る。

【總數】 昭和六年末に於ける全國の會社數 は57,226其の拂込資本金及出資額 140億圓で 前年に比し會社數 5,316を拂込資本金及出資額 1,400萬圓を何れ も増加した。

會社の組織は株式3割 4分、合資 4割 9分 合名1割 7分で前年に 比し株式の割合少しく滅じ合資合名の割合増加したが、既往に比 較すると合資の増加が最も著しく、合名之に亞ぎ株式の増加は最 も少い。平均1 會社の拂込資本金は株式 602千圓、合資 34千圓、 合名 120千圓で前年に比し株式は 9千圓、合資は 4千圓合名は19 干圓を減少した。

「資本金」 會社を資本金高別にして見ると株式では 10萬圓以 上 50萬圓の 3割 3分最も多く、5萬圓未滿の 2割 7分之に 亞ぎ、5 薫圖以上 10萬圓の 1割 7分、50萬圓以上 100萬圓、100萬圓以上 500萬圓は各 1割見當、500萬圓以上は 3分 5厘弱である。之を旣 往に比較すると 10萬圓以上各階級の割合は漸減して 10萬圓未滿 のものは漸増の趨勢であったが 5萬圓未満の小會社は最近其の割 合を稍々大にして來た。合査では5萬圓未滿のものは9割を 占め、5萬圓以上 10萬圓のもの 5分 3厘、50萬圓未満もの 4分あ るの外大資本の會社は甚だ少い。合名では 5萬圓未満のもの 7割 5分、5萬間以上10萬間及10萬間以上50萬間が夫々1割2分及 び 1割 1分ある外是亦 50萬圓以上の大資本會社は甚だ少い。

「業態別」 会社を業態別に見ると株式では商業 4割 6分、工業 3割 5分、運輸 2割、農業 2分、鑛業 1分、水産 1分、合資では 商業 5割 7分、工業 3割 5分、運輸 5分、農業 1分 7厘、水產 4 厘、鋳業 3厘、合名では商業 6割、工業 3割 3分、運輸 3分、農 業 2分、水産 4厘、鎌業 2厘である。

【地方别】 拂込資本金を地方別に見ると東京の 587,656萬圓最 も多く大阪の 263,762萬圓、兵庫の 85,795萬圓、愛知の 52,857 萬圓、神奈川の 42,465萬圓、福岡の 36,789萬圓、京都の 27,472 萬圓順次相亞ぎ尚 1億圓乃至 2億圓臺は北海道、新潟、富山、長 野、靜岡、三重、岡山、廣島、山口、愛媛其の最も少いのは沖繩 の 247萬圓で、徳島 2,467萬圓、宮崎 2,513萬圓、鳥取 3,171萬 圓等は少い地方に屬する。

昭和六年末に於て帝國に本店を有する銀行は 行 797行其支店及出張所數は 7,248あり、前年 に比し 101行を減少した、支店及出張所も前年に比し 365を減 じ、本店 1に付支店及出張所は 9.1に當る。

・ 株込谷本会は 170,255萬圓、結立会は 96,822萬圓で前年に比 し資本金 3,842萬圓滅じ積立金 3,062萬圓を滅少した。本店 1に 付拂込資本金は 214萬圓、積立金は 122萬圓で前年に比し前者は 20萬圓後者は 11萬圓を増加した。

昭和六年の入金は54,317,662萬圓、出金は54,334,126萬圓で之 を前年に比べると入金 1,338,616萬圓、出金 5,131,982萬圓を減少 し、純益会は 19,132萬圓、配當会は 11,088萬圓で前年に比し純

益金は 414萬圓を増し、配當金は 1,474萬圓を減少した。

拂込資本金 100圓に對する純益は 11圓24錢、配當步合8分4厘 2毛で前年に比し、前者は51銭を増し後者は1分2厘を増した。

昭和六年中の預金は 16,465千萬圓其の年末現在高 1,140,900萬 圓で之を前年に比べると前者は808千萬圓を滅じ、後者は55,343 萬圓を滅じた。借入金は1,122,858萬圓、其の年末現在高125,389 萬圓で前年に比し、前者は 24,326萬圓を、後者は 25,078萬圓を 増加し、再割引手形は 93,089萬圓、其の年末現在高 26,538萬圓 で前年に比し前者は30,385萬圓を後者は4,637萬圓を減少した。 昭和六年中の貸出金は 5,989,370萬圓、其の年末現在高 967,989萬 圓で前年に比し前者は66億圓を減じ、後者は1,630萬圓を増し。 割引手形は 1,309,882萬圓、其の年末現在高 195,129萬圓で前年に 比し前者は 64,725萬圓を減少し後者は 10,607萬圓を減少した。

銀行の預け金は 5,180,576萬圓其の年末現在高は 80,496萬圓で 前年に比し前者は 372,187萬圓を後者は 6,734萬圓を滅じた、銀 行所有の有價證券年末現在高は實價にして 493,541萬圓、現金年 末現在高は 92,230萬圓で前年に比し前者は 1,589萬圓を、後者は 8,705萬圓を減少した。

【日本銀行】 昭和六年末に於ける 支店は 17、拂込資本金は 4,500萬圓、積立金は 10,392萬圓で之を前年に比べると、前者は 750萬圓を後者は 577萬圓を増加したる他變りない。

入金は 10,605,969 萬圓、出金は 10,604,146 萬圓で前年に比し入 金 3,116,564萬圓を増し、出金 694,569萬圓を減少した、純益金 は 10,022千圓で前年より 80千圓を増し、配當金は 340萬圓で前 年に比べると 35萬圓を滅じ、其の配當率は 9分である。

昭和七年末に於ける兌換銀行券發行高は 142,616萬圓で前年末 に比し 9,558萬圓を增加した、正貨準備高は 42,507萬圓で發行 高の 3割に當り、其割合を前年末に比すると 5分減である、保證 準備高は 100,109萬圓、制限外發行高は 109萬圓で、之を前年に 比べると正貨準備高は 4,448萬圓を 減少し 保證發行高 14,006萬 圓を増加した。

【横濱正金銀行】 昭和六年末に於ける支店は44、拂込資本金は 1億圓、積立金は 119,940 干圓で前年に比し資本金に増減なきも 積立金 2,647千圓を増加した。

入金は4,717,700萬圓、出金は4,717,803萬圓で前年に比し入金 161,109萬圓、出金 161,074萬圓を減少し、純益金は 1,178萬圓、 配當金は 1,000萬圓で前年に比し純益金 192萬圓を減少し、配當 率は 1割である。

昭和六年中横濱正金銀行の中華民國に於ける銀行券發行高は 12,243 萬圓で前年に比し 2,732 萬圓を増加した。

昭和六年中取扱ひたる鴛鴦は、買鴛鴦手形各地へ向けたるもの 216,640萬圓、各地より受けたるもの 208,913萬圓、賣為替手形各

地へ向けたるもの 230,447萬圓、各地より受けたるもの 230,459 | 萬圓、代金取立手形各地へ向けたるもの 9,053萬圓、各地より 受けたるもの 11,512萬圓、賣賃替預金手形各地へ向けたるもの 8,974萬圓、各地より受けたるもの 8,810萬圓、利付買賃券手形 各地へ向けたるもの 32,602萬圓、各地より受けたるもの 32,047 萬圓である。

[日本勸業銀行] 昭和六年末に於ける桃込資本会は8,463萬間、 積立金は 7,072萬圓で前年に比し拂込資本金は増減なく、積立金 460萬圓を増加した。

入金 320,087萬圓、出金 320,102萬圓で前年に比し入金、出金 共に 5億 7千萬圓餘を増加した。

純益金は 1,837萬圓、配當金は 846萬圓で前年に比し純益金47 萬圓、配當金 36萬圓を増加し、其の配當率は 1割である。

昭和六年中債券發行高は 10,675萬圓で前年に比し 13,507萬圓 を減少し、本年償還高は 6,450萬圓で前年に比し 7,651萬圓を減 少し、年末に於ける現在高は 97,700萬圓で前年末に比し 4,225萬 圓を増加した。

昭和六年末に於ける年賦償還貸付金は 100,231萬圓で前年に比 し 1,496萬圓を増加した。其年限は十五箇年最も多く十箇年及二 十箇年之に亜ぎ又數箇年の短期及四十五箇年の長期もある。貸付 金額を其の業態別にみると農業の 2割 8分最も多く、耕地整理組 合の 1割市區町村の 9分 9厘が亞いで多い。定期償還貸付金は 7,555 萬圓で前年に比し 72萬圓を増加した。年限は五箇年内で五 箇年最も多く 3箇年 4箇年 2箇年 1箇年の順である。

【農工銀行】 昭和六年末 に於ける 農工銀行は 19、其の支店及 出張所 62、拂込資本金は 8,015 萬圓、積立金は 6,212 萬圓で前 年に比し支店及出張所、資本金は増減なく、積立金 403萬圓を増 加した。

入金は 247,447萬圓、出金は 247,383萬圓、純益金 1,739萬圓、 配當金は 752萬圓で其の配當率は 9分强である。

昭和六年中に於ける債券發行高は 6,753萬圓、償還高は 5,378 萬圓、年末に於ける現在高は 48,355萬圓で、前年に比し發行高 償還高は 5,820萬圓を減じ年末現在高は 1,375萬圓を増加した。

昭和六年末に 於ける 年賦償還貸付金は 56,910萬圓で前年に比 し708萬圓を増加した。借主の業態は農業最も多く3割9分を占 め商業の 2割、工業の 8分が主なるものである。定期償還貸付金 は 7,760萬圓で借主には農業者及商業者が最も多い。

【北海道拓殖銀行】昭和六年末に於ける本行の支店及出張所は 43、拂込資本金は 12,500千圓、積立金は 12,190千圓で前年に比 し支店及出張所は 2行を増し資本金は増減なく、積立金 1,003千 圓を増加した。

84萬圓、出金 60,973萬圓を減少し、純益金は 1,946 干圓、配 當 金は 1,000千圓で前年に比し純益金 306千圓を滅じ、其の配當率 は8分である。

昭和六年中に於ける債券發行高は 8,588千圓で前年に比し、 21,757千圓を減少し、償還高は 8,625千圓で前年に比し 15,905 干圓を減少し、年末に於ける現在高は 102,716干圓となり前年に 比し37千圓を減少した。

昭和六年度に於ける年賦償還貸付金は 119,360千圓で前年に比 し1,923千圓を増加した、年限は二十箇年迄最も多く十五箇年迄、 十箇年迄之に亞ぐ、借主の業態は農業 3割 4分を占め、土功組合 の 2割 5分、商業の 1割 6分が主なるものである。定期償還貸付 金は 10,083千圓で前年に比し 133千圓を増加 した、貸付者の業 態は商業、農業が最も多く、土功組合及漁業が亞いで多い。

【臺灣銀行】 昭和六年末に於ける臺灣銀行の支店及出張所は 32、拂込資本金は 13,125千圓で前年と變りない。

入金 1,040,736萬圓、出金は 1,040,411萬圓で前年に比し入金出 金共 21 干萬圓餘を 減少 したが、純益金 752 干圓をあげた。昭和 六年末に於ける臺灣銀 行 券發行高は 44,414千圓にて前年末に比 し、4,510千圓を増加した。

【朝鮮銀行】 昭和六年末に於ける本行の支店及出張所は 34、排 込資本金 25,000千圓、積立金は 3,701千圓で前年に比し、積立 金 800千圓を増加した。

入金は 1,994,978萬圓、出金は 1,995,393萬圓で前年に比し入金 出金共 464千萬圓餘を減少した、純益金は 1,835千圓、配當金は 政府持分を除き 940千圓で前年に比し純益金 8千圓を増加し、配 當率は 4分である。昭和六年末に於ける朝鮮銀行券發行高は100, 910千圓にして前年末に比較して 10,295千圓を減少してゐる。

【日本興業銀行】 昭和六年末に於ける本行の支店は 4、拂込沓 本金は 50,000千圓、積立金は 22,066千圓で前年に比し支店數、 資本金に増減なく積立金 1,000千圓を増加した。

入金 542,685萬圓、出金 542,592萬圓で前年に比し入金 33,450 萬圓餘出金 33,859萬圓を増し、純益金は 4,179千圓で、前年に 比し 3千圓を増加し、配當金は 3,000千圓で、其の配當率は 6分

昭和六年中に於ける債券發行高は 88,100千圓 で 前年 に 比 し 2,202千圓を増加し償還高は 78,073千圓で前年に比し 46,903千 圓を増加し、年末に於ける現在高は343,330千圓で前年末に比し 10,007千圓を増加した。

【普通銀行】 昭和六年末に於ける本店は 683、支店及出張所は 6,393拂込資本金は 1,249,022千圓、積立金は 535,743千圓で前年-に比し、本店 99、支店 362を減少、資本金 47,389千圓、積立金 入金は 302,833萬圓、出金 302,891萬圓で前年に比し入金 60,8 53,998千圓を減少した、本店 1に付支 店及出張所は 9.36で前年

に比し 0.72を増加し、平均一行の拂込 資本金は 1,829千圓、積 立金は 784千圓で、前年に比し資本金 171千圓、積立金 30千圓 を増加した。

入金は 337,449百萬圓、出金は 337,623百萬圓で前年に比し入 金 41,571 百萬圓、出金 41,388 百萬圓を減少した、純益金は 118,992千圓、配當金は 71,925千圓で前年に比し純益金 12,499千 圓增加し、配當金 11,651千圓を減少し、其の配當率は 5分 7厘 である。

本店數を地方別にみればその最も多いのは兵庫の56で、之に 亜("は 静岡の 43、山梨の 37、東京及 福岡の 各 36、大阪の 28、富山の25等にして、其の最も少いのは樺太、沖繩の各1、徳 島の2等である。

拂込資本金は東京の 356,496千圓最も多く大阪の 183,396千圓 之に亞ぎ、遙に降て兵庫の 54,371千圓、愛知の 53,571千圓、富 山の 45,972千圓、新潟の 45,032千圓、静岡の 43,545千圓、長 野の 30,025千圓之に亞ぎ尚 10,000千圓以上は青森、岩手、宮城、 秋田、山形、福島、茨城、栃木、埼玉、神奈川、石川、山梨、岐 阜、三重、奈良、愛媛、福岡、長崎、大分、鹿兒島で、其の少い のは沖繩の 250千圓、 樺太の 1,475千圓、徳島の 1,525千圓、熊 本の 2,999千圓、香川の 4,180千圓で、宮崎の 4,939千圓、他は 何れも 5,000千圓以上である。

配當金は東京の 23,930千圓最も多く大阪の 10,449千圓之に亞 ぎ遙に降つて愛知の 3,743千圓、新潟の 3,066千圓、富山の 2,860 千圓、兵庫 2,700千圓、靜岡の 2,600千圓之に 亞ぎ、1,000千圓 以上のものに埼玉、長崎、三重、奈良、愛媛がある。

【貯蓄銀行】 昭和六年末に於ける本店は88、支店及出張所は 570、拂込資本金は 43,131千圓、積立金は 36,704千圓で前年に 比し本店 2、支店及出張所 5を滅じ、資本金 1,477千圓、積立金 2,832千圓を増加した、本店 1に付支店及出張所は 6.5で前年に比 し 0.1を増加し平均1行の拂込資本金は 490千圓、積立金は 417 千圓で前年に比し資本金27千圓、積立金41千圓を増加した。

入金は 8,003百萬圓、出金は 8,011百萬圓で前年に比し、入金 23百萬圓、出金 1百萬圓を減少した、純益金は11,079千圓、配當 金 4,025千圓で前年に比し純益金 4,466千圓、配當金 2.132千圓 を減少し、其の配當率は 9分である。

地方別にみれば本店の最も多いのは大阪8、愛知及東京の7、 之に亞ぐは靜岡の 4で其の本店がない地方は京都、山口、熊本、 沖繩、樺太である。

拂込資本金の最も多いのは東京の14,573千圓、之に亞ぐは大 阪の 7,738千圓、愛知の 2,286千圓、神奈川の 1,222千圓、其の 少いのは福島、富山、三重、奈良、鳥取、高知、鹿兒島の各 125 干圓である。

配當金の最も多いのは東京の 2,667千圓、之に 亞 ぐは 大阪の 257千圓、愛知の 208千圓、鹿兒島、新潟の 100千圓、埼玉の 77 干圓、其の少いのは奈良、鳥取、高知の6干圓位で福島、栃木、 群馬、神奈川、山梨、長野、京都、兵庫、山口、熊本、沖繩は無

旺を増加した。

【鑄造及發行高】 昭和六年度中貨幣 鑄 浩 の為造幣局の受入れた地金の量は金 98,799 **瓩、銀 179,726瓩で前年度に比し金 46,806瓩を減少し、銀30,688** 

昭和六年度中の貨幣鑄造高は、金貨 136,187干圓、銀貨 15,003 干圓、前年度に比し、金貨 77,059干圓を滅じ、銀貨 9,002干圓を 増し、白銅貨 1,700千圓、青銅貨 250千圓を鑄造した。同年度中 貨幣發行高は金貨 135,642千圓、白銅貨 1,700千圓である。發行 貨幣の種類は 20圓及 5圓金貨、50錢銀貨、青銅貨である。

【通貨流通高】 昭和七年末に於ける通貨流通高をみるに小額紙 幣 11,380千圓、日本銀行兌換券中銀行券 準 備充當金を除きたる 差引流通高 1,373,619千圓、補助貨幣 414,123千圓此の計 1,787, 742 千圓にして此の他に朝鮮銀行券 124,623 千圓及び臺灣銀行券 52,620 干圓があるも、之等は内地に於ては殆んど流通せざるもの と看做し得るであらう。

而して之を前年に比すると内地流通高は 60,026千圓の膨脹を 示して居る又朝鮮、臺灣、兩銀行券も之を前年に對比すれば前者 は 23,713千圓、後者は 8,206千圓の増加である。

【信託業】昭和六年に於ける信託業の營 業狀況をみるに本店 37、支店 14、資本金 81,450千圓積立金 23,203千圓金銀在高 6,156千圓で其の入金

9,560,361千圓、出金 9,558,976千圓、純益金 14,857千圓、配當金 3,388千圓を示してゐる、年末現在信託高は 1,474,822千圓にして 前年より45,665千圓を滅じ中金銭信託は最も大にして8割4分を 占め、之に亞いでは有價證券信託にして 1割 3分に當り其の殘餘 は土地及定著物信託及其他が占めて居る。

【擔保附社債信託事業】 昭和六年末に於ける會社數は 29、拂込 資本金 556,799千圓、積立金 325,301千圓で前年に比し、資本金 1,250千圓を滅じ、積立金 10,522千圓を増加した、年末現在契約 口數は87、其の金額 427,962千圓で前年に比し2口減じ 31,380 千圓を増加した。

【無盡業者】 昭和六年末に於ける本店は 267、支店 149で、之 れを前年に比べると本店3、支店8を増加した。

拂込資本金 17,791干圓積立金 8,827干圓で之れを前年に 比べ ると前者は 251千圓、後者は 958千圓を増加した。

無盡組数は同年 52,597在リ共無盡口数 1,649,200で 1組に付無 盡口數31に當り、前年に比し其の口數3を減少した。掛金契約高は 1,252,585千圓で平均無盡 1口に付き 760圓に當り前年に比し 7圓 を減少した。

昭和七年中に於ける手形交換は 34,001干枚 手形交換 及 金 利 其の金額 52,615,403千圓で前年に比し 371千 枚を減少し6,633,482千圓を増加した、交換高を六大都市別に見 れば東京の26,562,719千圓最も多く、之に亞ぐは大阪の15,624,538 千圓で、橫濱の1,059,703千圓は最も少ない。

昭和七年中に於ける金利の變動を觀察するに上半期(六月)に於 ては定期預金最高 0.56割 (年利) 最低 0.50 證書貸付最高 1.09 割、最低 0.74割、割引手形目步最高 2.81錢最低 2,06銭であつ たが下半期(十二月)に於ては定期預金最高1厘最低2厘を増し、證 書貸付最高 5 厘最低 0.03割を滅じ、割引日歩最高 0.04 錢、最低 0.12錢を減じた。前年同期に比し最高は概して減じ下半期最低は 何れも増して居る。

昭和七年に於ける正金建値外國為替相場年平 外國為替 均(電信賣)は紐育宛 100圓に付 38.09弗、倫

敦宛 1圓に付 1志 7片 1、巴里宛 7.15 法、上海宛 100 圓に付 78,41兩、 孟買宛 105.88 留にして前年に比して圓價下落を示し た、而して之を月別にみると一月の相場は紐育宛 35.75 弗、倫敦 2宛 0片 9、巴里宛 9.04法、上海宛 104.50兩及び孟買宛 136.75 留は漸次低落して十二月には各 20.69 弗、1志 3片 2、5.22法、 72.59兩及び82.22留を表して居る。

郵 便 登 巷

【郵便爲替】昭和六年度中に於ける內國 貯金及年金 郵便鴛鴦振出は口數 36,070千口、其の金額 783,692千圓、平均 1口の金額 21圓 73錢で前年に比し 257千口 を減少した、48,718千圓を減少し、平均 1口 1圓 18 錢を減少し た、拂渡は口数 36,066 干口其の金額 783,917 干圓、平均 1口の 金額 21 圓 74錢で前年に比し 300千口、金額 48,493千圓を減少 し平均 1口 1圓 15銭を減少した。

昭和六年度中に於ける外國郵便爲替は外國へ振出口數 59,809、 其の金額 2,520,684圓、平均 1口の金額 38圓 80錢で前年に比し 10,431口を減少し、金額 179,094 圓を減少したが、平均 1口の金 額は 3圓 21銭を増加した、外國より振込口數は 90,488、其の金 額 3,722,529圓、平均 1口の金額 41圓 14錢で前年に比し 19,340 口金額 858,207 圓を滅じ、平均 1口 57 錢を減少した。

外國〜振出金額は中國の874千圓最も多く、之に亞ぐは北米合 衆國の 395千圓、獨逸の 316千圓、英吉利の 178千圓、瑞西の 112千圓、佛蘭西の 100千圓、ブラジルの 70千圓等で外國より振 込金額は北米合衆國の 1,559千圓最も多く、之に亞ぐは中華民國 の 711千圓、布哇の 638千圓、カナダの 439千圓等が主なるもの である。

【郵便貯金】 昭和六年度末に於ける内地及外地各廳所管の郵便

貯金及特殊郵便貯金人員は39,066,040人、貯金現在高は2,815,868 干圓、預金者1人の貯金高は72圓8錢である、前年と比較 すれば 2,347千人、320,519千圓 1人平均貯金高 4圓 12錢を増加 して居る。右の中内地に於ける貯金は人員に於て8割8分、金額 に於て 9割 6分を占めて居る。

【郵便振替貯金】 昭和六年度末に於ける加入人員は 273,588人 其の預金額 65,352,102 圓である。

【郵便年金(官營)】 昭和六年度郵便年金收入は 47,140,074 圓 にして内 9,347,615 圓は掛金で 總額の 2割に當ってゐる、其他 の收入は積立金利子及雜收入である、支出事業費 338,245圓支拂 年金 1,208,613 圓、返還金 1,486,104 圓、年度末積立金 44,107,111 圓となって居る。同年度中に於ける新契約は33,147件掛金 7,657,849圓其の年金額 3,511,797圓となって居る、同年度中に於 ける死亡は 1,786件、掛金 510,122圓年金額 127,150圓解約其他 件数 14,752掛金 741,396圓年金額 1,880,596圓にして年度末現在 に於ける件數 228,214件其掛金 35,963,660圓年金額 17,090,071圓 である。

【簡易生命保險】昭和六年度末に於ける 簡易生命保險契約は 16,793 干件其の保險 会 2,253,136 千圓で前年に比し 1,166千件 151,770千圓を増加した、 1件に付保險金は134圓となつてゐる、同年度中新契約は 2,800,819 件で前年に比し 366,527件を増加した、同年度に於ける被保險者 の死亡は 200,888件其の保險金 27,915千圓である。

地方別に契約の多寡をみると東京の 1,853千件、342,473千圓 最も多く之に歪いで大阪の 928千件、157,071千圓、北海道の794 千件、115,167 千圓等で最も少きは南洋の 274 件、78 千圓であ

昭和四年に於ける簡易生命保險者の職業は工業 2割 5分、商業 2 割 4分 7厘、農業 2割 3分 2厘、公務自由業 1割 1分 4厘の順 位で以上で全數の8割4分3厘を占め他は何れも1割未満であ

昭和六年度に於ける簡易生命保險事業收入は 744,182千圓で前 年に比し 119,937千圓を増加した、收入の內容は保險料 152,058 千圓、前年度末積立金 561,590千圓、利子收入 29,998千圓、雜 收入 537千圓である。支出は事業費として 24,737千圓、支梯保 **險金 27,803千圓、還付金 33,573千圓で本年度末に於ける積立金** は657,958千圓である。

前項の積立金中運用した額は 557,604千圓で其の種類は小塁校 建築資金に 36,589千圓、自作農創設維持に 85,068千圓、住宅資 金に 10,009 千圓、上水道に 32,102 千圓、公債 證券 及預金に 254,631千圓を投じたのが主なるものである。

【民營保險】 昭和六年度末に於ける保險會社數 (兼營を含む)

は生命保険 40、 徴兵保険 4、傷害保険 12、火災保険 49、海上 保險 42、運送保險 35、自動車保險 11、盗難保險 6、信用保險 3、汽罐保險 1、硝子保險 3 で前年に比し火災保險 1、海上保險 1、運送保險 1、を増加した。

生命保險契約年末現在高は 5,493千件 其の保險 金 7,643,858 千圓で前年に比し 182千件、530,030千圓を増加した、被保險者 の人口に對する割合は千人に付 84.1にして 1件平均保險金は 1,392圓である。年度中の新規契約は 793千件、其の保險金 1,43 0,738千圓で前年に比し89千件、176,245千圓を減少した、新規契 約 1件平均の保险全は 1,802 圓で前年度に比し約 20 圓増加であ 30

徴兵保險年末契約は 1,024千件、其の保險金 611,867千圓で前 年に比し8千件、31,497千圓を増加した、年度中の新規契約は 155千件、其の保險金 127,652千圓で前年に比し 8 千件、17,285 干閬を増加した。

傷害保險の年末契約は 88,004件其の保险金 89,274干圓で前年 に比し 17,810件を減少したが、金額に於て 10,580千圓を増加し

火災保險年末の契約は 15,086千件、其の保險金 17,526,420千 圓で前年に比し 729千件、保險金額は 609,424千圓を減少し 1件 平均 1,162 圓である。

海上保險年度中の新規契約は 4,438千件、其の保險金 5,962,947 千圓で前年に比し 279千件、増加したが510,189千圓を減少した、 而して 1件當り平均は 1,344圓である。

運送保險年度中の新規契約は 1,604千件、其の保險金 3,303,935

貿易總額

千圓で前年に比し 33千件、金額に於て 344,782圓を減少した、 1件平均 2,060 間である。

信用保険年度中の新規契約は 3,443件、其の保険金 6,671干圓 で前年に比し9件、増加したが990千圓を減少し1件平均1,938

汽罐保險年度中新規契約は 1,171件、其の保險金 4,310千圓、 自動車保險は88,449件、其の保險金62,986千圓、盗難保險は 4,059件、其の保險金 6,267千圓、硝子保險は 234件、62千圓あ り、以上の内盗難保險が前年に比し減少したる他は何れも前年度 末より増加して居る。

昭和六年度末に於て實際事業を營める外國保險會社の內地支店 は生命 3、火災 26、海上 16で、海上が増したる他前年と増減な く、年度末に於ける契約は生命 42千件、243,397千圓、火災 236 千件、974,365千圓、海上 18,767件、34,648千圓である。

【健康保険】 昭和六年度末に於て健康保險被保險者總數は 1,6 33,237 人にして其内 1,599,230人は强制被保險者 33,823人は任 意被保險者、184人は任意繼續被保險者である。

政府管掌の被保險者總數は上記中 1,047,553人にして 6割 4分 を占め他は組合管掌の被保險者である。

被保險者の最も多き地方は大阪府の 240,455人にして東京府の 194,876人之に亞ぎ 100千乃至 150千の 地 方に愛知、兵庫、福岡 がある、而して其の最も少きは沖繩縣の 634人である。

保險金給付件數 5,835,389件にして 其の內療養 5,067千件療養 費 15,629千圓、傷病手當 659,879件等主なるものにして何れも 業務外の件敷が遙かに多い。

#### VI. 習

昭和七年中 內地よりの 輸出額は 1,409,992千 圓で內地への輸入は 1,431,461千圓 となって

居る。輸出及輸入總額は明治初年僅に3、4千萬圓に渦ぎなかつた が二十一年に於て 100,000千圓臺、三十三年には500,000千圓臺と 殊に歐洲大戰勃發以後は其の進展甚だ急速で六年には 2,000,000 千圓豪、七年には3,000,000千圓臺、八年及九年には4,000,000千 圓臺に躍進したが、十年に至て頓に 1,400,000千圓を減少して 2,000,000千圓臺に降った、十一年は 660,000千圓を増加して大正 七年當時の總額に略々等しくなり十二年は前年より 100,000千圓 餘を減少したが大正十三年には830,000千圓を増加して大正八、 九年當時の總額と等しいものとなり、大正十四年は尚も増加して 5,000,000千圓臺を示さんとするに至つたが昭和元年よりは輸出 入共に減少を示すやうになった。

輸出及輸入兩者の權衡は年に依て一樣ではない、明治初年から

#### 易 (表167—189頁參照)

同十四年迄は大體輸入超過し、二十六年迄は大體輸出超過し、大 正二年迄は再び入超となり、三年乃至七年の歐洲大戦中は連年出 超で然も其の額 600,000千圓に垂んとする盛況であつたが八年以 降遊轉して入超相踵ぎ十三年は 646,000千圓の入超を示し未曾有 の現象であったが 其後稍持直し 昭和七年に於ては 21,469千圓の 輸入超過を示してゐる。

昭和七年中朝鮮の輸出及輸入額は 90,896千圓で 32,476千圓輸 入超渦し、臺灣の輸出及輸入額は 49.086千圓で 12,996千圓輸入 超過である。朝鮮の貿易は常に輸入超過し、臺灣は歐洲大戰當時 輸出超過であったが戦亂後期からは連年入超に逆轉した。

昭和六年中の主要國外國貿易總額は英吉利 1,188百萬磅、佛蘭 西 72,620 百萬法、北米合衆國 4,471 百萬弗、伊太利 21,664 百 萬利、白耳義 46,631百萬法等で是等の 諸國中輸出超過は 北米合 衆國のみで他は皆輸入超過となって居る。

【國別】昭和七年の我國輸出は亞細亞洲に 677,613千圓 (4割8

分) 北亜米利加洲に 459,096千圓(3割 3分) 歐羅巴洲に 125,748千 圓(9分) で全體の 9割を占め、残餘の 1割は阿弗利加、南米、太 洋洲である。北米の中では合衆國が大部分を占め、亞細亞洲では 英領印度の192,492千圓、中國の141,178千圓、關東州の 120,584 千圓、蘭領印度の 100,251千圓、海峽植民地の25,549千圓、比律 賓諸島の 22,362千圓、香港の 18,041千圓、露領亞細亞 の 13,065 **牙圓等の順位である。歐羅巴洲では英吉利の 59,658千圓、佛蘭西** の 21,358千圓、和蘭の 12,445千圓、以外は數百萬圓から數十萬 圓のものが多い。阿弗利加洲ではエジブト、南米ではアルゼンテ イン、太洋洲では濠洲が主なるものである。

輸入は北亜米利加洲より550,057千圓 (3割8分) 亜細亜洲より 450,911千圓(3割 2分)歐羅巴洲より 225,261千圓(1割 6分)で 全體の 8割 6分を占め残餘の 1割 4分は太洋洲、阿弗利加洲、南 米である。亜細亜洲の中では英領印度の 116,865千圓、中國の 102,746千圓、關東州の 76,719千圓、廟領印度の 40,409千圓が 主なるもので、北亜米利加州では合衆國が大部分を占め、歐羅巴 洲では英吉利の 78,760千圓、獨逸の 71,742千圓、佛蘭西の 21,094千圓、瑞西の 12,105千圓、瑞典の 9,827千圓、白耳義の 6,133千圓、諸威の 5,957千圓が主なるものである。太洋洲では大 部分濠洲、阿弗利加洲ではエジブト、南米ではアルゼンテインが 主なるものである。

[種類别] 昭和七年に於ける貿易品の種類を大觀すると輸出で は全製品 5割、原料用製品 3割 7分、遙に降て製造食料品 6分、 原料品 4分、粗製食料品 2分を占め、輸入では原料品 5割 9分、 原料用製品 1割 4分、全製品 1割 5分、粗製食料品 9分、製造食 料品 2分を占めて居る。之を前年に比較すると輸出に於て全製品 の割合増加し粗生食料品の割合減少したる他大差ない。

輸出額を簡々の品目に就いて見ると生絲の 382,366千圓 (2割7 分)最も多く、遙に降て生金巾の 47,676千圓、晒金巾、晒シーチ ングの 43,576千圓、綿繻子の 35,492千圓、縞木綿の 28,649 千 圓、細綾の 28,496千圓、生シーチングの 27,697千圓、陶磁器の 22,937千圓、綿織絲の 21,547千圓、綿メリヤスシャッツの 20,73 3 干圓で尚 15,000 干圓以上のものは履物、小麥粉、 綆紗、 壁織縮 緬、富士絹類等にして 10,000千圓以上のものは鐵製品、鐵、木 材、磨罐詰、電球、綿フランネル、銅品等である。

輸入額中繰綿の 447,131千圓(3割 1分)最も多く羊毛の 87,559 千圓、原油及重油の54,887千圓、小麥の49,572千圓、石油の36, 533千圓、木材の35,029千圓、大豆の31,240千圓、豆糟の28,471 午圓、石炭の 27,358千圓之に亞ぎ 15,000千圓臺のものは飼料、

輸出品の主要なるものに付其の主要輸出先を見ると、生絲は北 米合衆國に特に多く(9割4分)英吉利之に亞(。綿織物は英領印 度、蘭領印度、中國、エジプト、關東州、海峽植民地。絹織物は 英領印度、濠洲、蘭領印度、エジプト、南阿聯邦、英吉利、北米 合衆國。メリヤス製品は英領印度、英吉利、比律賓、蘭領印度、 エジプト、南阿聯邦。陶磁器は北米合衆國、英領印度、蘭領印度、 濠洲、カナダ。罐、壜詰食物は北米合衆國、英吉利、關東州、布 哇。綿織絲は英領印度が多い。

輸入品の主なるものに付其の主要仕出地を見ると實棉及繰綿は 北米合衆國及英領印度にて 9割2分を占め、中國、エジプト之 に亞で居る。羊毛は濠洲(9割6分)南阿聯邦。機械類は北米合衆 國、英吉利、獨逸。鐵類は英吉利、北米合衆國、獨逸。小麥は豪 洲、カナダ、北米合衆國。豆類は關東州、中國。石油は北米合衆 國、藺領印度。木材は北米合衆國、カナダ、露領亞細亞、暹羅。 石炭は關東州、満洲國、佛領印度、中國である。

昭和六年朝鮮の輸移出品中主要なるものは米及籾の 138,487千 圓、大豆の 13,807千圓、生絲の 12,015千圓、魚糟牛骨及其他肥 料の 7,166千圓、柞蠶絲の 6,985千圓で同輸移入品中主要なるも のは絹織物の 10,615千圓、石炭の 8,522千圓、栗の 7,931千圓、 薬材の 7,597千圓、柞蠶絲及柞蠶絲屑の 7,289千圓等であるが金 屬製品、機械類の輸入も大きい。而して同臺灣の輸移出品中主要 なるものは砂糖の 123,328千圓、米及籾の 41,098千圓、芭蕉實の 8,529千圓等で同輸移入品中主要なるものは 綿及絹織物の 13,757 千圓、硫酸アンモニウムの 7,530千圓等である。

【輸出入港】 昭和七年輸出の最も多いものは神戸で輸出總額の 3割 5分を占め横濱の 2割 8分、大阪の 2割 4分之に亞ぎ、名古 屋は5分、門司は3分である。輸入の最も多いのは神戸で輸入總 額の 3割 7分を占め横濱の 3割 5分之に亞ぎ大阪の 1割 9分、名 古屋 5分、門司の 3分 1厘之に亞ぎ其の割合は前年と略々同じに なつて居る。

#### 金貨及金地 金の輸出入

昭和七年に於ける輸出は金 112,701千圓、銀 8,677千圓、輸入は金6千圓、銀134千圓で金 は 112,695千圓の流出、銀は 8,543千圓の流入となって居る。

之を國別に見ると金銀の輸出入は北米合衆國、中國、關東州と

#### VII. 交

通 (表190-215百參昭)

道路及橋梁

昭和六年末に於ける道路延長は國道8,355粁、 府縣道又は地方費道100,423粁、市道は30,369

料、町村道は 808,691料で 1方料に付 國道は 21.9米、府縣道又 は地方費道は 272米、市道は 79米、町村道は 2.12粁、合計 2.49 料に當る。

昭和六年末に於ける橋梁は國道 8,236、府縣道又は地方費道 92,523、市道は 14,587、町村道 271,278である。其の構造鐵橋 9, 887、石橋 84,717、木橋 251,535、混凝土橋 39,820、其他 665 である。

【通信局所】 昭和六年度末に於ける郵便局 调 信 は一等局 80、二等局 223、三等局 9,330、合計

9,633で前年に比し、一等局 3、三等局 167、合計 170を増加し、 電信局は一等普通局 4、無線局 3、二等普通局 6、無線局 38、合 計 51 で前年に比し、二等無線 1 を増加し、電話局は本局 7、分 局44ある。 荷電信取扱所普通 1,077、無線 728、電信電話取扱所 1、電話所 232、公衆電話 2,373、切手印紙賣捌所 68,882、郵便 兩 74,190、郵便私書函 11,388あつて前年にくらべると何れも増 加した。

郵便局を地方別に見ると北海道の 631最も多く之に亞ぐは東京 の 556、 兵庫の 347、 新潟 333にして、200以上は福島、 茨城、 長野、岐阜、静岡、愛知、三重、京都、大阪、岡山、廣島、山口、 福岡、長崎、熊本、鹿兒島で其他は 100万至 200のものが多い。

【郵便物】 昭和六年度中の引受內國通常郵便物は 4,490,203千 通で前年に比し 80,651干通を増加した。人口に對する割合は一 人に付 69通に當り前年に比し 1通を増加した。

同年度中の外國通常郵便物は發送 24,699千通、到著 38,805千 通で前年に比し發送 1,681干通を減じ到著 2,606干通を減少した。

國別に見ると發送は中國の 10,286千通最も 多く、北米合衆國 の 4,191千通、英吉利の 1,121千通、獨逸の 1,045千通等が之に 亞ぎ、到著は中國の 10,557干通最も多く、北米合衆國の 9,750千 通、獨逸の 4,496干通、英吉利の 3,975干通等が之に亞いで多い。

昭和六年度中の引受小包郵便は58,202千筒で、前年に比し1。 866千箇を滅じた。

【電信】 昭和六年度中の電信發信は 56,260干通、著信は58,694 干通で前年に比し發信 1,873干通、著信 2,129干通を減少した。 外國への發信は 1,083干通、著信は 1,122干通で前年に比し發 信は 27干通を、著信は 12干通を滅じた。

發信を國別に見ると中國の 364千通最も多く、之に亞ぐは北米 合衆國の 154千通、英吉利の 97千通、印度 94千通等である。

【電話】 昭和六年度末に於ける電話交換取扱局所は 3,308加入 | 客 648人、職員 408人、公衆 919人で鐵道自 殺 者 は 死亡 2,253

人員は 727,914人で前年に 比 し交換所 190、人員 12,894人を増 加し、人口に對する 加入者の 割合は 1.000人に付 11.1で前年に 比し、増加なし。

【開業杆及停車場】 昭和七年三月末に於け 鐵 道 る開業鐡道は國有 14,911粁、地方鐡道 7,195 料、合計 22,106料で前年に比し國有 424料、地方 177料を増加 した。尚未開業に係る國有鐵道 724粁、地方鐵道 4,335粁、合計 5,059粁ある。開業に係る鐵道は 100方粁に付 5.8粁で、之を歐米 の諸國に比較すると 100方粁に付白耳義の 16.7粁、瑞西の 14.6 料、英吉利の 13.4料、獨逸の 12.3料、丁抹の 12.2料、和蘭の 11.4粁等に及ばぬこと遠く、洪牙利の 9.3粁、佛蘭西の 7.9粁に も亦及ばぬ。

停車場數は國有線に 2,796、地方線に 4,533、機 闘車は 國有 4,016輛、地方 997輛、客車は國有 10,766輛、定員 654,206、地 方 4,411輛、定員 301,481、貨車は國有 65,138、地方 11,612で 前年に比し何れも増加した。

昭和六年度の列車走行料は國有鐵道 186,915千粁、地方鐵道 20,697干粁等で、前年に比し國有 4,433干粁を増加し、地方2,378 干粁を減少した。

昭和六年度末朝鮮に於ける鐵道は 4,150粁、未開業線 1,598粁 にして同臺灣 3,225粁、同樺太 343粁にして是等を合するも内地 の 4割 2分の延長を有するに過ぎぬ。

【乘客】 昭和六年度の 乘客數は 國有 787,222千人、平均一日 2,157千人、地方 420,725千人、平均一日 1,153千人で前年に比 し國有地方共に滅じた。鐵道乘客は三等客が殆ど全部を占め一等 客は1 毛にも達しない。輸送貨物は噸數は國有 60,591千種、地 方 21,660千砘で前年に比し國有地方何れも減じた。

【營業收支】 昭和六年度に於ける國有鐵道は營業收入 433,540 千圓、營業費 266,634千圓、益金 166,906千圓で資本金に對する 益金割合は 100圓に付 4圓 82錢に當り前年に比し 30錢を減少 し、地方鐵道は營業收入 82,946千圓、營業費 47,758千圓、益金 35,189千圓で資本金に對する益金割合は 100圓に付 3圓 4錢に當 り前年に比し 1錢を減少した。

「鬱氣軌道」 昭和六年度末に於ける電氣軌道事業者は 93、線路 2,059粁、車輛 7,190、平均一日乘客數 4,278千人で前年に比し 事業者 1、線路 1粁、車輛 120を減じ、平均一日の乗客 62千人 を減少した。

國有鐵道死傷者は過失其他に依る死亡乘客 120人、職員 97人、公衆 724人、負傷者は乗

人、負傷者 178人である。地方鐵道では乘客職員公衆を通じ過失 死亡 413人、負傷者 547人である。

昭和六年に於て自動車、自轉車、人力車、荷車等による事故件 数は 68,820にして前年より 5,409を増加した、總件數中最多きは 自動車の6割4分で自轉車の1割5分、自動自轉車の4分、牛馬 車の3分之に亞で居る、而して自動車、自動自轉車の事故件數は 増加し他は減少して居る、尚自動車事故件数に於ける死亡者数は 937、負傷者數は 29,080で何れも前年より増加して居る。

昭和六年末に於ける馬車は乘用 1,545、荷積 用 296,560、牛車は 94,960、荷車は 1,752,962、

自動車は乗用 62,419、荷積用 34,837、人力車は 36,618 自轉車 は自動 26,248通常 6,000,450で前年に比べると荷車と馬車の減 少した外みな増加して居る。

昭和七年度末に於ける民間航空機臺數は161、 乘員免狀受有者 638人、製作所 14 で何れも 前年より増加して居る、同年に於ける飛行回數は51,984回、同時 間 19,422時間 09分である。同年航空事故に依る死傷人員 24人 内死亡 14人で前年に比し死亡 2人を増し負傷 8人を滅じて居る。 飛行10,000時間に付事故囘數は次第に減少の狀態に在りしが昭和 七年には 44.8回と増加し飛行 10,000回に 付死傷人員數は 4.6人 である。

【入港船舶】 昭和六年中に於ける主要港へ の入港船噸数最も多いのは門司の 31,899千 噸で、神戸の 27,141干噸、大阪の 19,732干噸、横濱の 15,145干 噸、下闢の 9,227千噸、名古屋 6,880千噸、小樽の 6,830千噸で 倫 2,000千噸以上 5,000千噸臺の入港船のある港は函館、室蘭、 青森、東京、清水、四日市、糸崎、宇品、多度津、高松、今治、 高濱、三津濱、清水、若松、三池、長崎である、各港への入港船 は主に汽船である。

[汽船、帆船] 昭和六年末に於ける汽船は8,077隻、其の幅 數 3,974千噸で前年に比し 434隻、5千噸を減少した、汽船を噸 敷階級別に見ると、10,000 噸以上19 隻(2 厘)6,000 噸以 F 10,000 噸 124 隻 (1分4厘) 3,000 噸以上 6,000 噸 363 集 (4分2厘) 1,000 噸以上 3,000 噸 408 隻 (4分9厘) 500 噸以上 1,000 噸 209 隻 (2分5厘) 100 噸以上 500 噸 539隻 (6分) 20 噸以上 100 噸 1,696 隻 (2割) 5 噸以上 20 噸未満 4,719 隻 (6割)で前年に比し割合上大差ない駅館 にある。

帆船 (噸數船) は 48,977 隻、其の噸數 1,335千噸で前年に比

し 1,362隻、20千噸を減少した。

石數帆船は 4,043隻、其の積石數 499,647石で前年に比し 712 隻 62,852 石を減少した、既往に比較すると逐次減少の趨勢 で十年以前に比べると隻數は半減し石數は3分の1に減少し

【小船】 昭和八年三月末に於ける 5 噸又は 50 石未滿の帆船。 傳馬船、倉庫船耕作用船等の小船(漁船を除く)は 180,212隻で前 年に比し 1,095隻を減少した。

之を地方別に見ると最も多いのは東京の 14,873隻で 之に 亞ぐ は大阪の 14,155隻、 茨城の 10,803隻、 滋賀の 10,041隻、5,000 隻以上、10,000隻を有するは干葉、新潟、靜岡、愛知、兵庫、廣 島、高知、長崎、能本、大分である。

【造船所】 昭和六年末に於て 20 噸以上の船舶を建造する設備 ある造船所は 465 で前年に比し 35 を増加した。船渠は 43、浮 船渠は1で前年と變りない。

昭和六年中に於ける船舶建造數は汽船 32隻、其の噸數 81,771 幅、噸數帆船 17隻其の噸數 2,233噸で前年に比し汽船は 17隻、 66,611噸を減じ、帆船は 六隻、3,616噸を減じた。

【海技免狀受有者】 昭和六年九月末に於ける船長、運轉士、機 關長、機關士の數は 85,821人で前年末に比し 9,034人を増加し た。外に外國人 132人あつて前年と同數である。

【船員】 昭和六年末に於ける船員は 222,346人で他に外國人船 目 5,020人ある。

【遭難船】 昭和六年中に於ける遭難船は 593 隻で前年に比 し 35隻を増した。 遭難船は汽船 285 隻、帆船 308 隻であ

遭難船の死傷人員は 497 人で前年に比し 169 人を増加した。 遭難者中死亡は 110人、負傷は 115人、行衞不明は 272人で

「命令航路に服する汽船会社」 昭和六年度末に於ける拂込咨本 金は日本郵船 64,250 干圓、大阪商船 62,500 干圓、日清汽船 10,125 千圓、南洋郵船 4,563 千圓、北日本汽船 2,325千圓であ

運輸成績を見ると日本郵船は昭和六年度に於て船客 162千人 貨物 3,684 千噸、大阪商船は 船客 1,700 千人、貨物 7,146 千 噸、日清汽船は船客 4 千人、貨物 302 干噸、南洋 郵船 は船客 1,102人、貨物 177千噸、北日本汽船は船客 52千人、貨物 727千 噸である。

#### VIII. 社 惠 業 (表216-226頁參照) 會

社會事業の行政機關としては一般關係は社會 局の所管に、釋放者保護、不良兒の審判及矯正

に關しては司法省に、又社會衞生事項は內務省の所管に屬する。 而して昭和五年度に於ける社會事業相互の聯絡統一を圖る機關は 一道、三府二十九縣に設置を見、調査研究及養成機關は41、助成 機關は 15, 方面委員制 83 ある。

救護としては防貧事業最も多く普及し、兒童保護、司法保護亦 施設せらる」所が多い。

獎勵助成金

昭和七年度內務省社會局交付の團體數は 316 金額 39,000圓にして前年に比し 5,00圓を増

加して居る。內育兒最も多く 70 團體 7,700圓にして幼兒保育及 兒童少年保護の 66團體 6,700圓、救索の 33 團體 3,400圓が之に 亞いで多い。又司法省交付の助成金は前年に比し團體數 59 金額 1,495圓を増加してゐる。

罹災救助基金

昭和六年度支出總額 1,141,554圓にして支出 

65%、避難所及小屋掛費共に 7%、被服費 5%を占めて居る。支 出總額を地方別に見ると、北海道の 301,199 圓特に多く 群馬の 185,337圓、青森の182,254、岩手の53,246圓等が之に亞いで多い。

年度末に於ける基金現在高は 91,969,102圓で、前年より約 309 萬圓を増し、年々遞増の傾向にある。

恤救規則に依る昭和五年度救濟人員は26,720 人で、前年より 5,593人を増加してゐる。年

度末現在者 17,403人中最も多きは老衰者の 6,063人で、疾病、幼 弱、癈疾等が之に亞いで居る。而して此の救濟金 727,384 圓中地 方費は 79%を占めてゐる。

養育棄兒

昭和五年度末に於ける養育葉兒數は 729人で 前年より3人を増加し、同年度末現在數は

617人前年より 6人の増加であつて、此の養育費は 92,123圓とな つて居る。

行旅病及死亡

昭和五年度末現在行旅病人は 3,126人で前年 より 167人を増加してゐる。地方別に見ると

東京府最も多く 1,539人にして、大阪の 285人、北海道の 262 人、青森の 215人、愛知の 132人、京都の 124人之に亞ぎ、其他

の府縣は百人未満である。同年度中の行底死亡人は 4,256人で、 地方別に見ると、東京府の 798人を最多とし、大阪府の 469人、 神奈川及兵庫の 222人が之に亞いで多い。

勞務者共濟會

昭和七年度末に於ける組合數は3,年度末組 合員数 7,249人にして前年に比し 1,688人を 滅少した。同年度に於ける掛金 272,617圓其給付金額 203,069圓

である。給付中最も多きは失業の 197,674人、135,135圓、で傷病 及疾病給付は 44,143 圓である。

昭和七年中の檢閱總件數は18,436件にして、 一箇月平均 1,536件となり前年に比し 228件

を減少した。而して之を製作國別に見ると、日本物 16,056件、米 **國物 2,039件其他歐洲物となつてゐる。更にフイルムの種別を見** るに、殆んど實體畫にして、娛樂劇其の 44% を占めてゐる。日 本物は現代物 100に付時代物 84 に該り、米國物は現代物 100に 付、時代物 3に過ぎない。之を前年に比すると、共に時代劇の割 合を減少してゐる。

娱 樂 場

劇場の常設は昭和六年末に於て 1,759で、臨 時のもの29,790あり、前年に比し前者は46、

後者は 905の滅であでる。常設及臨時を通じ、茨城縣 2,730最も 多く、埼玉、香川、北海道、大分等之に亞ぎ最も少ないのは石川 縣の 39 である。常設劇場の最も多いのは北海道の 131で、其の 最も少きは山形及大分の5である。

活動寫眞館は劇場に比して常設、臨時共に累年増加し、昭和六 年に於ては常設 1,399臨時 69,842で前年に比し前者 44後者 213 を増した。常設活動寫眞館數は東京の231を最多とし、大阪の 138、福岡の76、兵庫の 65、京都の 63 神奈川の 62、北海道の 55が之に亞いで多い。

活動寫眞館の有料興業に於ける觀客數は、昭和六年中 206,995 千人で、常設館其の80%を、大人小人別に見ると、大人が76% を占めてゐる。又常設館一に付一日觀客數は 323人で人口一に付 期容數 2.5に該つてゐる。

寄席及觀物場の常設は昭和六年末前者 592、後者 59 同臨時 16,431、11,528にして共に前年より増加した。遊戯場は同年末 18,723在リ最近増加の趨勢を示して居る。

IX. 勞

**働** (表227—250頁參照)

實地調查結果

係る工場數 (原則として 30 人以上の勞働者

を使用するもの) は 7,486で勢働者は 1,381,931 入中男 629,106 人、女 752,825人で 1工場に付平均勞働者 185人である。 又昭和五 | 合を見ると工場では女 100に付男 83.6 で女子が多いに反し鏡山

昭和二年十月十日勞働統計實地調査の結果に [ 年十月十日實地調査の結果に係る鑛山敷は (50人以上の勞働者を 使用するもの) 316で勞働者 227,025人中男 190,438人、女 36,587 人で 1鑛山に付平均勞働者 718人を使用して居る。男女使用の割 城は各 11で其他は 10未満である。

では女 100に付男 520.5 で 5倍餘の男を使用して居る。

工場數を地方別に見ると大阪の 1,281を最多とし東京の 1,099 愛知の 587、兵庫の 463、長野の 327、靜岡の 218之に亞ぎ、北 海道、群馬、埼玉、神奈川、新潟、石川、福井、三重、和歌山、 岡山、廣島、愛媛、福岡は 100豪で最も少ないのは沖縄の 7である。 鑛山數に於ては福岡の 78 最も多く北海道の 45、長崎の 32、 福島の 18之に亞ぎ山口は 16、秋田は 15、新潟は 13、岩手及茨

勞働時間別に工場數を見ると 11時間以内の 2,614最も多く 10 時間以内の 2,508、12時間以内の 1,723之に亞ぎ全工場の 9割は 9 時間以上勞働する工場である。更らに工場及勞働者を產業別に 見ると繊維工業は 3,379で總工場の約半數を占め之に亞ぐは機械 器具製造業の677で尚400臺に窯業、金屬工業、化學工業、木竹 類に關する製造業、飲食料品嗜好品製造業、製版印刷製本業があ る、他は 200臺以下で最も少ないのは皮革骨角甲羽毛品類製造業 の43である。勞働者總數の 5割 7分は繊維工業で占め、機械器具 製造業の 1割 4分他は 1割に達するものなく最も少ないのは皮革 骨角甲羽毛品類製造業の 3,366人である。

畿山に在りては坑內勞働者 155,239人、坑外勞働者 71,786人 にして、勞働者總數の約68%は坑內勞働者である。次に業態別 に之を見ると、石炭鑛業の 186,556人第一位を占め、金屬鍍業の 35,036人、石油鍍業の 3,136人等之を亞いで多い。

工場勞働者の一日平均賃銀は男1.64圓、女1.02圓で之を產業別 にみると男女平均賃銀機械器具製造業2.56圓、金屬工業2.45圓、 瓦斯電氣及天然力利用に關する業 2.44圓、土木建築業 2.41圓、 製版印刷製本業及皮革骨角甲羽毛品類製造業2.10圓其他は 1圓臺 で唯だ繊維工業が 1 圓を割り 0.97圓である。鏡山勞働者の一日 平均賃銀金屬鑛業男 1.76圓女 0.69圓、石炭鑛業男 1.62圓、女 1.05 圓、石油鍍業男 1.70圓女 0.71圓である。

#### 家計調查

に互り全國代表的都市に付行はれた家計調査 結果に依れば給料生活者及勞働者の平均實收入の 9割 2分 3厘は 勤勞收入で此の割合は收入階級の高まると共に滅じて居る。而し て飲食物費には實支出額の3割4分1厘、住居費に1割8分、光熱 費に 4分 7厘、被服費に 1割 2分 9厘、保健衞生費に 7分 6厘、数 育費に 1 分 2厘、交通費に 1分 5厘、負擔費に 8厘、交際費に 8分 9厘、修養娛樂費に 5分 2厘を支出して居る。實支出總額中 飲食物費の割合は收入階級の高まると共に次第に減少し、同住居 費は増加、光熱費は減少、被服費は増加、保健衞生費、教育費、 交通費、修養娛樂費等は共に増加の傾向を示して居る。

職業紹介

【公設職業紹介】昭和七年中に於ける公設 職業紹介所の狀況を見るに、其取扱所數 410

昭和六年九月乃至昭和七年八月の1箇年間

に於て取扱にかくる求人數 1,217,457人求職者 1,502,468人、就職 者 540,725人で求人數の 4割 2分、求職者の 6割 8分は男である。 前年に比すると紹介所の數 65を増し求人數 82,506人増加し求職 者數は 136,302人増加し就職者は 59,432人の増加を示して居る。

求職者に對する就職者の割合は男 3割 1分、女 4割 7分で前年 に比し男女共1分を増加した。

昭和七年中に於ける日傭勞働求人數は 13,870 干人、求職者 17,391千人其の紹介件數 13,778千人で其の內男は何れも 9割 5分 以上を占めて居る。之を前年に比べると求人數、求職者數、紹介 件數共に激増して居る。

日傭勞働を除く求人數、求職、就職者の業態別は求人數は工業 及鑛業の 372,189人、戶內使用人の 276,072人、商業の 255,691 人等多く、尚其細分に付てみれば僕牌の 226,426人、製絲の134, 399人、小店員の88,604人、土方日傭の71,886人、飲食店雇人の 61,932人、外交集金人の 58,412人等が多く其他 30,000人以上の ものは紡織工業、裝身具業、嗜好品工業、店員、商店雜役等であ る。求職者は工業及鑛業 427,792人最も多く商業の 325,649人、 **戸内使用人 296,193人等之に亞ぎ其細分に於ては僕婢の 183,638** 人、店員の138,806人、事務員の105,106人、土方の88,259人、製 絲工業の 72,928人が特に多く、其他 30,000人以上に機械器具、 金屬及嗜好品工業、商店員、飲食店雇人、書生給仕及番人小使が 在る。就職者の多のは工業及鑛業の 173,752人にして、戶內使用 人の 108,613人、商業の 81,289人、土木建築の 64,096人が之に 亞いで多い。

【營利職業紹介】 營利職業紹介所に於ける狀態をみるに昭和七 年に於ては年末營業者數 1,917にして右の取扱に係る求人者數は 1,012,023人求職者數は人、813,503 紹介件數 362,593人、就職者 數 535,801人を示して居る。

【家庭職業紹介】 家庭職業紹介所に於ては求人數 6,616人、求 職者數 5,689人、紹介件數 5,452を示してゐる、而して其の主な るものは編物及刺繍で大約3分の2を占めて居る。

【勞動爭議】 昭和七年中に於ける爭議件數 870件参加人員53,338人で內罷業761件、怠業 66件、工場閉鎖 43件である。争議の原因は賃銀増額要求、解雇 退職手當確立又は増進、解雇者の復職、賃銀減額反對、賃銀支拂 要求等が共に 100件以上を占め、其の他は、皆 50件未滿である。 勞働爭議中同盟罷業數を業態別に見ると染織工業の 128件最も 多く、化學工業の 127件、雜工業の 103件之に亞いで多く、其の 最も少ないのは瓦斯、電氣事業從業者の1件である。

【小作争議】 昭和七年中に於ける小作争議は 3,414件で前年に 比し 5件を減少した。件數を地方別に見ると秋田の 260件最も多 く、北海道の 218件、山形の 217件、福岡の 192件が之に亞いて 多い、而して其の少き地方は岩手の3件、熊本の4件等にして沖繩 には發生をみなかつた。

争議の關係者は地主 16,706人、小作人 61,499人、關係地の種 類は田 314,432~クタール、畑 6,972~クタール、其他 302~ク タールで筆議 1件に付地主 4.9人、小作人、18.0人、地主 1人に 付小作人は3.7人である。

昭和七年に於ける平均職工賃金の最高は煉瓦 積工及瓦茸工の 2圓 38銭で、石工の 2圓 36 錢、左官の 2圓 19錢、活版植字工の 2圓 17錢、木型工の 2圓 16錢、 ペンキ塗工及仕上工の 2圓 14銭、旋盤工の 2圓 13銭が之に亞いで 高い。工業賃銀は紡織 67錢臺乃至 1圓 45錢、機械器具 2圓臺、 化學 54錢臺乃至 2圓 10錢飲食物 1圓 40錢乃至 2圓 7錢となつて 居る。而して 憐寸製造女工 54 錢、製絲女工の 67 錢、莫大小 編 女工 72銭等は最も低い部分に屬するものである。尚下男は月 12 圓餘、下女は月 10圓 50錢餘である。之を前年に比較すると僅少 の例外を除き何れも低落して居る。

更らに鐫失の賃銀をみるに昭和七年總平均1圓45銭5厘にして 之を前年に比較すると 7錢2厘の低落を示してゐる。之を鏡種別に みれば總平均に於て最も賃銀の高きは銅及其他の1圓67錢にし て最低は鉛亜鉛の 1圓 21錢 1厘である。

昭和六年六月末 (砂鑛夫は年末) に於ける全 夫 國の鎕夫敷は 202,703人で前年に比し 56,119 人を減少した。一年勞働延人員は 50,949千人前年に比し 14,755 千人を減少して居る。 鍍夫は石炭山に最も多く總數の 7割 6分を 占め金屬山は2割、其他は4分である。前年に比し石炭山は其の 割合を減じ金屬山は増加してゐる。

昭和六年中に於ける鏡山變災度敷は 78,310 鑛山變災 で前年に比し 29,036 回を減少した。罹災人 冒は死者 694人、傷者 77,955人で鑛夫干人に付死者は 3.4 人負 傷者は 385,2人で前年に比し負傷者の割合は減少した。

鑛山の種類別に死傷者の割合を見ると鏡夫干人に付死者は石炭 山 4.1、金属山 1.2、石油山 1.2、其他の非金屬山 1.2、負傷者は 石炭山 453.6、金屬山 187.6、石油山 73.6、其他の非金屬山 177.0 で石炭山に於ける死傷率は甚しく高い。

【勞働組合小作人組合等】 昭和七年末に於 ける組合總數は 8,302組合員 981,424人にし

て其內勞働組合は 892、人員 375,518、小作人組合 4,650、人員 296,839、地主小作人協調組合 2,098、人員 258,613、地主組合 662、 人員 50,454にして小作人組合最も多く總組合數の 5割 6分總人員 の 3割 1分を占めて居る。勞働組合の產業別を見ると運輸交通の 109組合、148,502人機械器具の80組合 92,689人化學の 84組合、 19,487人 等が多い。

【官廳現業員共濟組合】昭和六年度末に於ける印刷局、警察、 土木事業、專賣、造幣、陸軍、海軍、林野、製鐵、遞信、國有鐵道 の諸官廳現業員共濟組合の組合員總數は 548,282人にして內國有 鐵道の 184,793人最も多く總數の 3割 4分に該り遞信の 164,483 人之に亞ぎ 3割を占め最も小なるは造幣局の 454人である。

是等組合の收入は總額 43,170 千圓にして其の 3割 8分は掛金 3割 1分は政府の給與金 2割 9分は預金利子 1 分は其他の收入で ある。救濟支出は總額23,386千圓にして內5割5分は脫退給與金 1割 3分は傷痍給與並療養金同じく 1 割 2分は殉職並死亡給與金 等が主なるものにして他は何れも 1割以下である。 給與人員は總 對 678千人にして內傷洟並療養 334千人、健康保險給付 201千人 脱退給與 97千人等が多いものである。

【共濟團體】 昭和七年末に於ける組合數は 3,340にして其の組 合員數 559,834人を有し組合數を其の目的に依りて分てば共濟を 主とするもの 1,799、修養を主とするもの 346、其他 1,195とな り、更に組合員敷の多寡によりて分てば 15 人以上 50 人未滿の 1.285 が最も多く、總數の 3 割 8分を占めて居る、之に亞いでは 50人以上 100人未滿の 798、100人以上 300人未滿の 635、15 人 未満の 297 にして 300人以上 500人未満及 500 人以上は何れる 200 未満である。

全國中組合の多き地方は東京の 219、北海道の 217、福島の191、 大阪の 136、山形の 133等にして其の少きは茨城の 5、である。

「消費組合」 昭和六年度に於ける消費組合の狀況は組合數163、 組合員數 138,169人にして出資總額 3,046千圓、中拂込濟額 2,036 干圓を有し他に諸積立金として 1,203干圓がある。

1箇年購賣品賣却高は 17,188千圓にして一方預金 1,956千圓借 入金 1,922千圓を示し、剩餘金として 393千圓を示して居る。之 を事業別にみれば組合總數中購買組合 124にして最も多く 7割 6 分を占め、之に亞いでは信用購買組合 17、購買利用組合及信用 購買利用組合の各 11である。

### X. 教育及宗教(表251-293頁參照)

【學齡兒童】 昭和五年度末に於ける學齡兒 「で前年と變らず。 教 育 童中四月一日に於て既に就學の始期に達した 者は男 5,125,852人、女 4,980,089人、合計 10,105,941人で人口に 對する割合は男女各 100人中男 15.8、女は 15.5、其の平均 15.6

學齡兒童の就學步合は男女共 9割 9分 5厘で前年と殆ど變な

昭和六年度外地に於ける學齡兒童の狀態をみるに朝鮮に於ては

内地人中就學の始期に達したるもの1數男 33,596、女 32,339に ] して其の就學率は男女共 9割 9分 8 厘にして却つて內地よ リ 高 率を示して居る。

臺灣に於ては就學の始期に達したるもの男 388,215、女 357,783 にして其の就學率男は 4割 9分5 厘、女 2割 2分にして甚だ低い が内地人に限り觀察するときは男 9割 8分 1厘女 9割 8分 9厘で ある。樺太に於ける就學始期に達したる者は男女合して 45,774人 にして就學率は9割9分7厘となって居る。

【小學校】 昭和五年度末に於ける小學校數は 25,673 で前年に 比し 47 校を増加し平均一市町村に付 2.2校に當る。小學校は琴 常科のみ 2割 8分、尋常科及高等科併置 7割 2分、高等科のみ 1 分で之を既往に比較すると尋常高等兩科併置のものと割合は増加 し零常科のみ高等科のみの割合は減少の趨勢である。

小學校の學級は 210,057で前年に比し 2,117を増加し平均一校 の學級數は8.2で前年に同じく、十年前に比べて1.4を増加した。

外地に於ける小學校の狀態をみるに朝鮮に於ては官公私立普通 合して 2,410 校 11,024學級、臺灣に於ては小學校公學校合せて 894 校 5,926學級、樺太に於ては 214 校 991 學級、關東州に於 ては 211校 741學級、南洋に於ては 37 校 104學級である。

【二部教授】 二部教授施行の尋常小學校は 143校、尋常高等小 學校は 168校で前年に比し尋常は 1 校、尋常高等は 25校を減少 した。

【小學校教員】 小學校教員總數は 234,799人で中尋常小學校の 教育に從事する者 8 割 3 分、高等小學校の教育に從事する者 1 割7分である、教員の資格は本科正教員8割3分、専科正教員 6分、准教員 4分で前年と比して正教員増加し准教員及代用教員 は減少した。

小學校教員中男は6割8分、女は3割2分で前年と同割合であ るが既往に比較すると女子の割合は漸増し男子の割合は漸減の趨 勢に在る。

小學校 1に付本科正教員の割合は 7.6 で前年に比し 0.2 を増 加した。地方別に見ると最も多いのは東京の 15.2、大阪の 15.3 にして福岡神奈川の各 11.5 沖繩の 11.8、兵庫の 11.5、愛知の 10.4、佐賀の 10.5、香川の 10.1、京都の 9.5、埼玉の 9.1、靜 岡の 9.3 之に亞ぎ 8人臺は群馬、長野、鹿兒島、7人臺は栃木、 干葉、富山、三重、廣島、山口、長崎、宮崎で其の少いのは岩手 の 4.1 北海道の 4.2 である。

內地以外に於ける小學校教員をみるに朝鮮に於ては 2,127人普 通學校 9,851人、臺灣に於ては6,420人(公學校を含む)、樺太1,052 人(土人教育所を含む)、關東州小學校 913人諸學堂 966人、南洋 に於ては小學校 51人、公學校 84人が各教育に從事して居る。

前年に比し 251,349人を増加し平均一市町村に付 857人、學校 1 に付394人に當る、兒童數を地方別に見ると最も多いのは東京の 630,233人、之に亞ぐは北海道の 491,829人、大阪の 416,775人、 兵庫の 387,274人、福岡の 385,917人、愛知の 372,291人、新潟 の 322,789人、静岡の 312,048人にして尚 200,000人臺は宮城、 福島、茨城、栃木、埼玉、干葉、神奈川、長野、廣島、長崎、熊 本、鹿兒島で其の少いのは鳥取の 81,334人、沖縄の 100,188人、 福井の 100,017人、奈良の 96,777人等である。

【幼稚園】 昭和六年度末に於ける幼稚園數は 1,622で前年に比 し 112を増加し保姆数 5,012 幼兒 126,564 人にして、前年に比 し前者は 355人後者 4,589人の増加である、幼稚園 1に付き幼兒 の数は 78人、保姆 1に付園兒の数は 25人にして前年に比し園兒 3を減じ、保姆1に付1人を減少してゐる。

【盲啞學校】 昭和五年度末に於ける校敷は 125、教員は 1,018 教生徒は 8,137人、卒業者は 1,535人で前年に比し校敷 3を増し 教員 71人、生徒 409人、卒業者 107人を増加した。

外地に於ては臺灣に 2 校ありて教員、22 生徒 278人を有し卒 業者 47人を出して居る。

【師範學校】 昭五和年度末に於ける校數は 105、教員は 2,672 人本科生徒は男 27,228人女 13,505人、本科卒業者は男 8,058人 女 4,165人で前年に比し教員 108人、本科生徒 3,134人、本科卒 業者 981人を夫々減少した。

內地以外に於ては朝鮮に3校、臺灣に4校在り尚關東州に1 校あつて其教員數は朝鮮 94人、臺灣 94人、關東州 40 人、生徒 數は朝鮮 1,640人、臺灣 1,180人、關東州 185人にして、卒業者 は朝鮮 606人、233臺灣 人、關東州 62人を出して居る。

【高等師範學校】 昭和五年度末に於ける高等師範(男子)は 2校 で教員は 191人、生徒は 1,875人、卒業者は 427人にして、女子 高等師範は 2校で教員は 108人、生徒は 841人、卒業者は 176人

臨時教員養成所は 14、教員 395人、生徒 898人、卒業者 467 人である。

同年度に於ける教員檢定合格狀況は小學校本科正教員 2,856人 零常小學校本科正教員 4,490人、小學校專科正教員 6,606人、小 學校准教員 2,270人、尋常小學校准教員 2,037人にして以上小學 校教員检定合格者總數 18,259人にして前年に比し 4,972人を滅じ

其他教員檢定合格者は師範、中學、高女教員總數 11,154人、高 等學校高等科 959人を示して居る。

【中學校】 昭和五年度末に於ける校數は 557、教員 13,843人生 徒は 345,654人、本科卒業者は 58,465人で前年に比し校數 2、数 【小學校兒童】 昭和五年度末小學校兒童總數は 10,112,226人で | 員 99人本科生徒 2,898 人、本科卒業者 2,372 人を増加した、平 均一校の本科生徒は621人、教員1に付本科生徒は25人であ

【高等女學校】 昭和五年度末に於ける校敷 770 教員は 13,868 人本科生徒は 334,023人、本科卒業者は 78,659 人で前年に比し 校數は 13を増し教員は 339人を増加し、本科生徒 2,362 人本科 卒業者 2,956人を増加した、平均 1校に付本科及實科生は 487人 教員 1に付同生徒は 24人である。

實科高等女學校は 205、教員は 1,355 人、本科生徒は 26,344 人本科卒業者は 7,674人で前年に比し核數 8を減じ、教員 3人、 本科生徒は 751人、本科卒業者 151人を増加した、平均 1校に付 本科生徒は 129人、教員 1に付本科生徒は 19人である。

[専門學校] (實業専門學校を除く) 昭和五年度末に於ける校 動は 111、 教員 5,104人、生徒は 60,148人、本科卒業者は 13,874 人で前年に比し校数 5、教員 218人、生徒 7,994人、本科卒業者 は 1,078人を増加した。

生徒は男 7割 5分、女 2割 5分で前年と變らず、各學科中醫學、 藥學、齒科醫學、法學、商科、文學、數理化學、宗教、美術、音 樂、體育は男女生在リ、經濟學、拓殖、測候技術、農業、工科學 は男學生のみで在る。

昭和六年度末内地以外に於ける専門學校は朝鮮に 5、臺灣に 3 及關東州に2在る。朝鮮は京城法學専門學校、京城醫學専門學校、 京城高等工業、水原高等農林、京城高等商業學校にして教員總數 152人、生徒總數 1,174人を有して居る。臺灣は臺北高等商業、同 高等農林、同醫學專門學校にして教員數 85 生徒總數 643を有し て居る。關東州は旅順工科大學及び滿洲醫科大學の2にして教員 175、生徒 2,940を有して居る。

【高等學校】 昭和五年度末に於ける校數は 32、教員は 1,283 人、生徒は 18,278人、卒業者は 5,266人で前年に比し敦員 3 人 **生徒 168人を増し、卒業者 33人を減少した。** 

【大學】 昭和五年度末内地に於ける帝國大學は 5にして前年と 變らず教員は 1,938 人で、前年に比し 37人を増加した、東京は 数員 651人、京都は教員 492人、東北は教員 249人、九州は教員 265人、北海道は教員 281人である。

學生及生徒は東京 8,064人、京都 5,552人、東北 1,618人、九 州 1,956人、北海道 2,263人、合計 19,453 人で前年に比し 328 人を増加し、學生の卒業者は東京 2,161人、京都 1,373人、東北 435人、九州 604人、北海道 248人、合計 4,821 人で前年に比し 264 人を増加した。

昭和六年度末外地に於ける帝國大學は京城、臺北の2で前年と 継らず、教員は京城、150臺北 128、學生及生徒は京城 867、臺 北 187にして之を前年に比すれば教員 81、學生及生徒 27を減少 して居る。

昭和五年度末に於て大學令に依る大學は官立 12、公立.5、私立 24、合計 41、数員は官立 896人、公立 211人、私立 2,876人、學 生生徒は官立 6,817人、公立 2,560人、私立 46,777 人、學生の 卒業者は總體で 6,275人を出して居る。

學科は官立は商學、醫學、工學、文學及理學、公立は醫學、商 學、私立は法律、政治、經濟、商學を置くものが多いが中には文 學、醫學又は理學、工學科のあるものがある。

【實業補習學校】 昭和五年度末に於ける校數は工業補習 101、 農業補習 12,630、水產補習 247、商業補習 527 にして生徒数は 工業補習 13,822人、農業補習 1,016,797人、水產補習 16,586人、 商業補智 51,755 人、之を前年に比べると學校に於て工業、水産 は増加し、商業、農業は減少し、生徒は何れも増加して居る。

【實業學校】 昭和五年度末に於ける實業學校校數甲種工業 92、 乙種工業 27、甲種農業 232、乙種農業 103、甲種商業 271、乙 種商業 37、甲種水産 14、甲種商船 11 で前年に比し、甲種の農 業、商業は増し、他は減じた。

教員は甲種工業 2,059人 乙種工業 317人、甲種農業 2,637 人 乙種農業 803人、甲種商業 5,732人、乙種商業 348人、甲種水產 155人、甲種商船 154 人で前年に比して甲種工業、農業、商業、 水産は増加し他は減少して居る。

生徒數は甲種工業 31,821 人、乙種工業 4,435 人、甲種農業 48,196人、乙種農業 17,507人、甲種商業 182,196 人、乙種商業 9,169人、甲種水產 1,977人、甲種商船 2,635 人にして前年に比 し乙種の農業及商業は減少し他は増加した。

甲種職業學校校數は 166、教員は 2,145人、本科生徒は 29,140 人、本科卒業者は 8,454人で前年に比し校敷 516、教員 164人、 本科生徒 1,530人を増加した。

昭和六年末に於ける外地實業學校は朝鮮に工業學校 1、農業學 校 25、商業 24、水産學校 3があり臺灣には工業、農業各 1、農 林、商業各2がある。

『雷睪惠門學校』 昭和五年度末に於ける校數は 工業 19、農業 12、商業 18、商船2で農業 1を増したる他前年と變りなく、教員 は工業 845人、農業 429人、商業 576人、商船 124人で前年に比 し農業 24人、工業 84人、商業 57人を増加した。本科生徒は工業 6.778人、農業 3,105人、商業 7,613人、商船 1,484人で前年に 比し商船が減少した他は増加した、本科卒業者は工業 1,897人、 農業 891 人、商業 2,131 人、商船 114 人で前年に比し工業 45 人、農業 13人を増加し商業 2人、商船は 87人を何れる減少し

內地以外に於ける實業專門學校は工業に關するもの朝鮮に 1あ つて教員 49人、生徒 187人を有し卒業者 55人を出して居る。 陽 東州にも 1、教員 31人、生徒数 224人を有し、卒業者 68人を出

して居る。又農業に闘するものが朝鮮に 1、教員 38人、生徒179 | 人あり卒業者 21人を出し、臺灣に於て 1、教員 22人、生徒 117 人あり卒業者 27人を出して居る。商業に關するものは朝鮮に 1、 教員 18人、生徒 272人あり卒業者 82人を出し、臺灣に 1校、教 員 30人、生徒 213人あり卒業者 65 人を出して居る、商船に 關 するものは外地には未だない。

【入學志願者及入學者】 昭和五年度に於ける専門學校以上の諸 學校入學志願者は僅少の例外を除き前年より何れも減少した又中 學校及高等女學校の入學志願者は何れも前年より減じた。入學志 願者100人の中入學者の割合は中學校 69.1、高女 65.0 専門學校 2.5 乃至 100.0 平均 40.5 高等學校 17.4 帝國大學 62.3、官立 大學 56.5 公立大學 45.0 私立大學 87.2 實業專門學校 13 乃至 22である。

【文部省在外研究員】 昭和五年度に於ける文部省在外研究員は 219人で前年に比し142人を減少した。留學國は獨逸の114人最も多 〈之に亞〈は北米合衆國の 29人、英吉利の 15人、及佛蘭西の 20 人、等にして研究學科別は理學 43人、文學 31 人、工學 42人、 醫學 39人、經濟 23人、農學 18人、法學 10人、等である。

【生徒の健康狀態】昭和五年度中東京盲學校及聾啞學校、高師 附屬小學校を除く文部省直轄學校に於て檢査を受けたる男生徒 49,004人、女生徒 2,376人に付き其健康狀態をみるに發育甲のも のは男は 4割 6分、女は 4割 5分、乙のもの男 3割 4分、女 4割 6 分、丙のもの男 2割、女 9分にして男は甲が最も多く女は乙が最 も多い。禁養狀態は男に於ては甲 6割乙 3割 8分、丙 2分、女に 於ては甲 5割 8分、乙 4割 1分、丙 1分にして概して禁養狀態は 良好である。視力の檢診の結果は男に於ては 4割 6分は兩眼正視 にして 4割 6分は兩眼近視他は一眼近視、一眼正視、或は遠視の 者である。女に於ては7割は兩眼正視にして兩眼近視は2割7分 視力の狀態は女の方がはるかに優れ就中近視は男の 5割に對して 女は僅かに3割に過ぎない狀態である。

總檢查人員に付き疾病の狀態をみるに最も多きは齲齒にして男 3割 5分 女 6割 8分を占め之に亞いでは眼疾の男 4分女 1割 4分 | 1,036部、音樂の 1,009部、 語學の 813部、地誌紀行の 780部、 である。

【青年團及青年訓練所】 昭和六年度に 於ける 青年團 は團 體數 28,759 正團員 4,052 千人にして平均一府縣 612, 團體平均團 體 2,518千人、女は 13,394團體、1,534千人にして一團體所屬人 員男は 164人、女は 115人に該り男の方遙かに多い。

青年訓練所は所数 15,549 にして之に所屬の主事 15,524 人指 導員 88,680 人、生徒 796,132人、其終了者 104,140人で前年度 | 鹿兒島は 100臺で他は數十臺のものが多い。 に比し所数、主事を除く他何れも増加して居る。

俸は尋常小學校本科正教員男 70圓、女 50圓に該り高等小學校に 於ては本科正教員 73圓、女 54圓に該つて居る。而して專科正教 員、准教員と次第に低下し最小額は代用教員の尋常男 39 圓、同 女 27圓、准敎員の尋常男 40圓、女 36圓である。

【博士數】 昭和五年度末に於ける博士の總數は5,849中 31人は 外國人にして實人員は 5,838人を示して居る。學部別にみれば醫 學の 4,385最も多く總數の7割5分を占め之に亞いでは工學の 447 人、理學の 320人にして其の少なきは政治學の 2、商學 5、經 濟學の20である。

【公學資産】昭和五年度に於ける府縣、市、町村公學資產は 139,960 萬圓で前年に比し 1,703萬圓を増加した、府縣公學資產 は 32,895萬圓、平均一府縣 700萬圓、市公學資產は 46,165萬圓 平均一市 424萬圓、町村公學資產は 60,900 萬圓平均一町村 521 圓である。

【公學費】 昭和五年度に於ける府縣、市、町村の教育費は40,635 萬圓で人口一人に付6圓30錢に當り前年に比し4,082萬圓を減少 し國民一人當り 80 錢を減少した。府縣公學費は 11,130 萬圓、 平均一府縣 235萬圓で主として中學校、實業學校、師節學校、高 等女學校に支出する。

市公學費は 8,171萬圓、平均一市 815千圓、大部分は小學校に 支出し、町村公學費は 21,333萬圓、平均一町村 18,262圓でその 大部分は小學校に支出する。

【公學收入】昭和五年度に於ける府縣、市町村の公學收入は 15,207萬圓で前年に比し558萬圓を増加した、府縣公學收入4,029 萬圓で主として授業料、寄附金、雜收入に依り、市公學收入は 1,947 萬圓で主として授業料及保育料國庫補助金、寄附金雜收入 等に依り町村公學收入は 9,232萬圓で國庫補助金, 寄附金雜收入 授業料及保育料等より成つて居る。

【出版圖書】 昭和七年中に於ける出版圖書數は 22,104 部で、 前年に比して 1,006を滅し中主なるものは文學の 2,271部、教育 の2,224部、社會問題の 1,321部、神書宗教書の 1,123部、 經濟の 等である。

【新聞雑誌】 昭和七年末に於ける新聞雜誌數は有保證金のもの 6,301、無保證のもの 4,817、總數 11,118で前年に比し 452を増 體員 141人に該つてゐる。青年團を男女に分けては男 15,365 團 加した。總數を地方別に見ると東京の2,500特に多く大阪は1,203、 兵庫 541、愛知 578、北海道 485、福岡 525、京都 437、廣島357 神奈川、新潟、長野、静岡、愛媛は 200 臺、宮城、福島、芙城、栃 木、群馬、埼玉、干葉、三重、奈良、岡山、山口、長崎、大分、

[圖書館] 昭和六年度末に於ける圖書館は官公立 3,266、私立 【小學校教員平均月俸】 昭和五年度に於ける小學校教員平均月 1,343で前年に比し前者は 31を増加し、後者は 31 を減少した。

圖書册數は 10,138,281册、前年に比し 502,715册を増加した、平 均一館の圖書は官公立 2,146册、私立 2,330册、和漢と洋との別 は官公立和漢 9割 6分、洋 4分、私立和漢 9 割 5分、洋 5 分で 前年に比し官公立共同様である。

【補社】昭和六年末に於ける神社數は神宮 1、官幣社 113、國幣社 85、府縣社、鄉社、 村社 49,432無格社 61,712 で前年に比し府縣社、郷社、村社 49 を増し、無格者 445を減じた。

【神官神職】 昭和六年末に於ける神官神職は 15,199 人で前年 に比し、130人を増加した、平均一社の神官神職は神宮 68人、官 幣社 4.5人、國幣社 3.6人、府縣社 1.4人、鄕社 0.9人、村社は 5社に 1人、無格社は 66社に 1人の割合である。

【寺院】 昭和五年度に於ける寺院數は 71,310で前年に比し 82 を滅じた宗派別に見ると眞宗最も多く 2割 8分を占め、之に亞ぐ は曹洞宗の2割、眞言宗の1割7分、淨土宗の1割2分、臨濟宗、 8分、日蓮宗の7分、天台宗の6分残餘の2分は黄檗宗、時宗、 融通念佛宗、法相宗、華嚴宗である。

【佞職】 昭和五年度末に於ける住職は 54,904 人で前年に比し

530人増加した、寺院と住職との割合は住職 1人に付 1.3 寺であ

【佛道教會說教所】 昭和五年度末に於ける說教所は 6,982で前 年に比し 210を増加した、其の宗派別は眞宗の 2,651最も多く、 之に亞ぐは眞言宗の 1,618、日蓮宗の 1,166、曹洞宗の 581、天 **喜宗の 375、淨土宗の 336、臨濟宗の 204、である。** 

【神道】 昭和五年度末に於ける説教所は 14,269 で前年に比し 300 を増加した、其の宗派は天理教の 9,423最も多く、遙に降て 金光教の 1,052、御嶽教の 746、神道の 600、黑住教の452、扶桑教 の 435、修成派の 295等が多いものに屬する。教師數は 101,597 人にして前年に比して 1,239人の増加を示して居る。

【基督教】 昭和五年度末に於ける會堂及講義所は 1,795で前年 に比し 55を増加した。其の種別は日本基督教會の 285 最も多く 之に亞ぐは日本聖公會の237、天主公教の229、日本メソデスト 教會の 234、組合基督教會の 156、ハリスト正教の 102等で其の 他 100未満のもの數種である。

宣布者數は 2,592人にして前年に比し 79人を減少して居る。

#### XI 警察、衛生及災害 (表294—309頁參照)

【犯罪檢舉】昭和六年中に於て司法警察官 の取扱つた犯罪檢舉件數は 2,038097 で其の 內譯は刑法 5割 6分警察犯處罰令違反 1割 2分、廳府縣令違反 1 割8分、其の他の法令違反1割4分である。

【盗難其の他被害人員】 昭和六年に於ける强盗は 2,199人、竊 盗は 545,027人で前年に比し前者は 19人を後者は 32,980人を共 に増加した、拘摸に遭ひし人は 15,942 人、詐偽恐喝に遭ひし人 は 229,592人で前年に比し前者は 2,936人を増加し、後者は 29, 858 人を増加した。

【被殺害者】 昭和六年中に於ける被殺害者は 1,343人で前年に 比し 113人を増加した、其の原因は爭論又は一時の怒に因るもの 最も多く、之に次ぐは痴情又は嫉妬、貧困、怨恨、利慾、盗賊暴 行又は醉狂人、瘋癲人、である。

【醫藥業者】昭和六年末に於ける醫師は 48,105人、齒科醫師は 15,988人、薬劑師は 18,647 人、産婆は 52,537人で前年に比し醫師 1,576人、齒科醫 師 77人、薬劑師 460人、を何れも増加し、産婆は 2,225人を減少 した。人口 1萬に對する割合は醫師 7.4、齒科醫師 2.4、藥劑師 2.9、産婆 8.0に當つて居る。

同年末に於ける賣薬方數は 253,754で前年に比し 15,712 賣薬 請賣人は 258,017人で前年に比し 16,218人、賣藥行商人は 209, 992 人で前年に比し 6,602人を何れも増加した。

【種痘】 昭和六年に於ける第一期種痘(出生から翌年六月迄に 行ふもの)人員は公種痘1,903千人で前年に比し38千人を増加し、 善感割合は 9割 3分、不善感と檢診未了は 7分で善感割合及不善 感と檢診未了とは前年と變りはない。私種痘は45,403人で前年に 比し 8,775人を減少し善感割合は 9割 8分、不善感 2分である。

第二期種痘(数へ歳十歳に行ふもの)人員は公種痘 1,855千人 で前年に比し 29千人を増加し、善感は 5割 7 分、不善感と檢診 未了は 4 割 3 分で前年より善感割合少しく増加した。私種痘は 8,532人で前年に比し 3,222 人を減少し、善感割合は、4割 8分 不善感は5割2分である。

【上水道】 昭和六年度末に於ける上水道は 457 で前年に比し 5 を増加した、之を地方別に見ると長野の30 最も多く、東京の 22、宮城、廣島の 21、靜岡、北海道の20、京都、山形の 18、岐 阜6、福島、長崎の16、神奈川、大阪、山口の15、兵庫、岡山、 愛媛の 14 等之亞ぎ、沖縄には未だ敷設されない。給水栓は東京 の 567,763最も多く、大阪の 406,694、京都の 170,160、神奈川 の 132,504、兵庫の 125,234、愛知の 100,722、廣島の 90,224 之に亞いで居る。

「傳染病患者」昭和六年に於ける法定傳染病患者は腸チフス 38,259人、赤痢(疫痢を含む) 29,655人、デフテリア 21,087人、ベ ラチフス 4,094人、痘瘡23人、猩紅熱 6,480人、流行性脳脊髓膜炎 280人、發疹チフス 3人、ペスト無しで前年に比しデフテリア、痘 瘡猩紅熱流行性腦脊髓膜炎、發疹チフスは増加したが其他は減少 してゐる。各病患者に對する死亡率 5割以上を示したるものは流 行性腦脊髓膜炎のみである。

【墓地、火葬場及埋火葬】昭和六年末に於ける墳墓地は 980, 983 億所其の面積 22,357 ヘクタールで一箇所平均 2アールに當る、火葬場は 34,727で、同年中に於ける火葬死體は 635,808 で一箇所平均 18に當り前年に比し1 を増加した。同年中の埋葬死體は 675,793で埋火葬死體中火葬は 4割 8分、埋葬は 5割 2分に當り前年に比し割合大略同様である。

火葬の割合を地方別に見ると富山は 9割 9分 9厘、石川は 9割 9分 2厘、大阪は 9割 1分 3厘、尙 8 割臺は北海道、東京、新潟、廣島で、其の最も少いのは沖繩の 1分强、鹿兒島 2分 7厘、宮崎 6 分9厘、高知の 7分 7厘等である。

【精神病者】昭和六年末に於ける精神病者は 73,731人 で前年 に比し 565 人を増加し、人口萬に付き 11.28 に當り前年に比し 0.7 を減少した、之を既往に比較すると逐年増加の趨勢である、人口 1萬に對する割合を地方別に見ると最も多いのは廣島の25.0 之に亞ぐは京都の 18.3、香川の 17.9、福井の 16.9、尚 10以上の地方は山形、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、石川、 静岡、三重、滋賀、大阪、兵庫、奈良、和歌山、島根、岡山、徳島、愛媛、長崎、熊本、鹿兒島で其の少いのは北海道の5.2等である。 精神病者男女の割合は男 6割 4分、女 3割 6分で年々此の割合 に大差を見ない。

精神病者の内精神病院法に依り收容したるもの(市區町村長の 監置すべき者、犯罪者にして特に危險の関あるもの、療養の途な き者、地方長官の必要と認めたる者)は 3,590人(5分)精神病者 監護法に依る入院及假監置者 10,605人(1割 4分)監置を要せざる 者 59,536人(8割)である。

災 書 「小書」 昭和六年中に於ける水害を被った

市區町村敷は4,335其の汎濫面積は120,710~ クタール、田畑の流失及埋没は5,465~クタール、宅地其の他の 土地埋沒崩潰、528~クタール、建物4,908棟、船舶113隻、人 の死亡63人、負傷118人で損耗額は8,936千圓、復舊費27,027 千圓である。

#### XII. 司

民事事件 昭和六年に於ける區裁判所新受の民事件数は 1,552,289 件、同終局件数は 1,545,679件で前

年に比し終局件数 68,344 件を増加した、終局件数の内謬は第一 審訴訟 709,468件、督促 471,897 件、非訟事件 264,876 件、强 制執行50,290件、和解 23,405件、借地借家調停事件 18,470件、 破産事件 4,265件、商事調停事件 2,818件、和議事件 172件、戸 損耗の多い地方は高知の 1,323干圓、北海道の 949干圓、秋田 の 934干圓、奈良の 555干圓、之に亞いでは徳島、大分、鹿兒島 が多い。

【潮災】 昭和六年中に於て潮災を被つた市區町村は 193、田畑 172 ヘクタール、宅地其他の 3ヘクタール、建物832棟、船舶193 隻で、死亡者 1にして災害による損耗額は 284千圓、復舊費 737 千圓である。

【器風雨被害】 昭和六年中に於ける暴風雨被害は市區町村 677 田炯損害 1,807~クタール、宅地其の他 3,829~クタール、建物 21,683 棟、船舶 656 隻、人の死亡 177 人、負傷 45 人で損耗額は 3,000千圓、復舊費は 3,340千圓である。

【火災】 昭和六年中に於ける火災度數は 17,738、內放火度數は 1,578 (9分) 失火度數 14,484(8割 2分)雷火及不審火度數 1,676 (9 分) にして其の全焼したる世帶數は14,904、半焼世帶數 3,286 全焼非住家 11,148、半焼非住家 1,972 なり。其の損害見積額は 52,177萬圓の多きに上つた。

火災度數は北海道 1,391最も多く東京の 1,289之に亞ぎ愛知の 793 大阪の 730、新潟の 680、芙城の 581、兵庫の 577、静岡の545、神奈川の 542、廣島の 529 等で他は 500未満である。損害見積額 は東京の 6,519千圓を最高とし、これに亞ぐは石川の 5,937千圓、神奈川の 5,549千圓、大阪の3,117千圓、愛知の2,717千圓、福岡の2,634千圓、京都の 2,160千圓にして他は200萬圓未満である。內地以外に於ける火災度數をみるに同年に戻て朝鮮4,501、臺灣768、棒太 181、陽東州及滿鐵附屬地 374にして火災度數一に付損害見積高の最も大なるは關東州及滿鐵附屬地の 2,139圓にして棒太の1,650圓之に亞ぎ朝鮮は 883圓、臺灣は 419圓である。內地に於ては 2,941圓を示して居る。

火災の季節は三月二月及一月に多くて初夏の候之に 亞 ぎ七、 八、九月は最も少いことは例年殆ど同じである。

消防員及び機械器具の駅況を見るに昭和六年末に於ける特設消防署 153、消防組 10,976にして是等の機關の人員は特設 9 千人消防組員 1,972千人に上り消防機械器具はガソリンボンブ 7,402蒸氣ボンプ 31、ボンア船 5、水管車 12,182、腕用ボンプ 44,982となつて居る。

#### 法 (表310-339頁參照)

籍に闊する抗告 18件である。

督促事件は殆ど全部一定金額の督促、非訟事件は「隱居、廢家、子の懲戒、家督相續人及親族會に關するもの」及「戸籍に關する もの」で大部分を占め、第一審訴訟事件は通常訴訟が大部分、侵 差押及假處分が之に亞で多い。

地方裁判所に於ける民事新受件數は 85,015 件、同終局件數は

88,028 件で前年に比し終局件数 5,536件を減少した、事件は第一 審訴訟 59,637件、控訴 18,158件、小作調停事件 3,628件、抗告 3,362件、非訟事件 3,231 件、破産宣告 12 件である、第一審訴 訟事件で最も多いのは金銭に闘するもので之に延ぐは人事、土地、 建物及紛舶等である。

控訴院に於ける民事新受件數は 6,816、同終局件數は 6,571で 前年に比し終局件數 944を減少した。

大審院に於ける民事新受件數は 5,420、上告の結果は上告の理由なくして棄却せられたるもの 2,854、原判決を破毀せられたもの 396 取下 209 である。

昭和六年朝鮮に於ける民事争訟調停事件新受の數は 1,682にして終局 1,683を示し、臺灣に於ては新受 13,474、終局 13,574、 關東州は新受 1、終局 1を示し之等を前年末に比するに朝鮮、臺 灘は増加し關東州は減少を示して居る。

終局事件中最も大なる割合を占むるは朝鮮及臺灣に於ては執達 更事務取扱に關するものにして之に亞いでは朝鮮の督促事件、臺 灣の公證がある。

刑事事件

し後者は 112件減少した、第一審は 101,799件で前年に比し4,784 件減少し控訴審は 6,778件で、前年に比し 475件減少した。其の 他上告審は 2,152件、抗告 88件、再審 47件、非常上告 2件、公訴 附帶私訴 461件にして再審を除き何れる前年より減少してゐる。

昭和六年に於ける刑事々件の捜査終局事件數は 433,305件で、 前年に比し 11,373 件を増加した。捜査の結果起訴したるものは 2割 2分、不起訴のものは 6割 0分、他へ送致は 9分等である。

昭和六年に於ける豫審終局人員は 8,070人で前年に比し 2,346 人を減少した、豫審終結者の公判に付せられたるものは 9割 7分 免訴は 1分である。

昭和六年に於ける第一審裁判事件終局は 98,285 件で前年に比し 5,229件を減少した、第一審裁判事件中刑法犯は 5割 8分、特別法犯は 4割 2 分である。被告人は 166,816 人で前年に比し 11,923人を減少し、終局被告人 153,952人中有罪は 9割 8分、無罪 発訴管轄達等は 2分である。人口 10,000 に對する刑事被告人の割合を見ると 25.41で前年に比し 2.20を減少し、右の內刑法犯は 16.38、特別法犯は 9.03にして前者後者共に減少を示して居る。

昭和六年に於ける控訴事件終局件數は 5,663 件で 前年に比し 678 件を減少した、終局は刑の言渡 8割 1分、控訴取下 1割 6分 無罪 3分である。

昭和六年に於ける上告事件終局件數は 1,791件で 前年 に比し 318 件を減小した、終局は上告棄却 6割 6分、決定 2割 0分、上 告取下 1割 1分である。

第一審刑法犯有罪被告人に付て其の罪名を見ると男は賭博及富 籤に關する罪 4割 9分、竊盗罪 1割 7分、傷害罪 9分、許欺恐喝 罪 6分、過失傷害罪 5分、女は賭博富籤に關する罪 6割 7分、失 火罪 1割 3分、竊盗罪 5分、墮胎罪 3分、殺人罪(嬰兒殺を含む) 3 分等で前年と大差ない。

犯罪原因を見ると男は利懲最も多く智癖、出來心、憤怒、貧困、 射俸、放蕩、懷情等之に亞ぎ、女は利懲最も多く出來心、智癖、 憤怒、貧困等之に亞で多い。

犯罪者の年齡は男に在つては 30歳以上 40歳未滿の者が最も多く 40歳以上 50歳未滿、25歳以上 30歳未滿之に亞ぐ、女は 40歳以上 50歳未滿が最も多く 30歳以上40歳未滿が之に亞で多い。

第一審刑法犯有罪被告人の科刑は罰金刑最も多く 總數の 6割0 分を占め有期懲役は 3割 4分、科料 6分で他は無期懲役 57人、有期禁錮 117人、死刑 31人である。

同被告の受刑度数を見ると一度の者は男 6割 7分、女 8割 2分、 二度の者は男 1割 4分、女 9分、三度以上六度の者は男 1割 6分、 女 8分、七度以上十一度の者は男 2分 7厘、女は 5厘、十二度以 上の者は男6厘、女 1厘である。

第一審特別法犯有罪被告人の罪名を見ると議員選舉其他の 2割 6分が最も多く、通信運輸電氣 2割 0分、商事產業1割 9分、警察著作出版新聞紙 1割 3分、衞生 1割 0分、租稅專賣 8分、軍事 5分である。科刑は罰金最も多く其の 6割 9分を占め、科料は 2割 8分、有期懲役 2分、禁錮 1分である。

昭和六年中外國人に關する第一審事件を見るに被告人員 173人 にして前年に比して 33人を滅じ國籍別に於ては中國人最大で161 人で 9割 2分に當つて居る。終局の結果は有期懲役の 110最も多 く他は罰金の 60、科料 3である。

昭和六年に於ける登記件数は 5,623,300件、登録稅及手數料總数額は 41,461 干圓で前年に比し前者は 89,400件を増加し後者は 3,715干圓を減少した。

登記件數は土地 8割 5分、建物 1割 2分にして他は僅かに 3分 に過ぎず其の主なるものは商事會社、産業組合の登記である。商 事會社の登記に於ては株式會社最も多く 6割 2分に及んで居る。 朝鮮に於ては課稅不課稅共土地大部分を占め建物、商事會社、非 營利法人、商號及び船舶之に亞ぎ臺灣に於ても殆んど同樣の狀態 を示して居る。

行 刑 (在監人員) 昭和六年末に於ける在監人員は 47,507 人で前年に比し 1,070人を増加した。在監人員は大正五年末には52,776人であつたが大正六、七、八年に於て、少しく増加し、爾後減少の趨勢に轉じ、3 萬人臺に下つたが大正十四年には増加し、昭和三年に 3萬人臺を示したる

他は引續き4萬人臺に在る。

在監者は男 9割 8分、女 2分で前年と殆ど同割合である。在監 者の大部分は受刑者で總員の 9割弱を占め他の 1割は勞役場留置 者 505人、刑事被告人 4,642人、乳兒 7人、被疑者 100人より成 つて居る。

昭和六年中の入監人員は 77,517人、出監人員は 76,405人で前 年に比し入監 1,794人、出監 5,327人を増加した、受刑者の出監 は大部分満期で外に假出獄 1,668人、死亡 428人刑の執行停止 219人がある。

昭和六年末及同年中の内地以外に於ける在監入監出監を見るに 朝鮮に於ては年末在監者 17,377人を示し同年中入監者數 39,355 人、出監 39,210人を算して居る、豪灣に於ては年末在監者 3,670 人年內中入監者 14,538人、出監者 14,022人にして關東州に於て は年末在監者 922人、年內中入監者 3,382人出監者 3,475人を示 してゐる。

在監者を犯罪の種別に見ると男は刑法 9割8分を占め他の2分 は陸海軍刑法犯 14人、森林法犯 18人、兵役法 1人、警察犯處罰 令違犯 190人其他 602人にして女も亦刑法犯大部分を占め、警察 | 1割 6分、女 2割 2分、一年以下は男 3割 8分、女 3割 0分、三年 犯處罰令違犯 2人其他3人である。

刑法犯のみに付其の罪名を見ると男は竊盗 5割 9分、詐欺及恐 喝 1割、强盗 8分、殺人 5分、傷害 4分、放火 4分、精領 3分、 女は竊盗 4割 0分、放火 2割 7分、殺人 1割 6分、詐欺及恐喝の 7分 3厘、傷害 3分、 墮胎 2分等で前年に比し男女共其の割合に 著しき變化を示して居らない。

在監受刑者の刑名は男女共に有期懲役 9割以上を占め、無期懲 役は男 478人、女 11人、有期禁錮は男 44人、女無し、拘留は男 198人、女 2 人である。更に有期懲役を刑期別に見ると三月以下 は男 1分、女 1分 六月以下は男 5分、女 4分 9厘、一年以下は 男 2割 2分、女 1割 9分、三年以下は男 4割 0分、女 4割 0分、 五年以下は男 1割 6分、女 1割 8分、十年以下男 1割 2分、女 1 割 3分、十五年未滿は男 2分、女 2分、十五年以上は男 2分 3厘、 女 2分 5厘である。

【新受刑者】 昭和六年中に於ける新受刑者は男 33,030 人、女 908人で前年に比し男は607人、女は140人を増加した、新受刑 者の男は刑法犯 8割 3分、警察犯處 罰 令 違 反 1割 0分、其の他 れも 50人未滿である。

XIII. B

【一般會計】昭和八年度豫算に依る歳入總 國家財政 額は 2,309,415千圓で內、經常部 1,291,106千

圓(5割 6分) 臨時部 1,018,309千圓(4割 4分) である。歳出總額は 2,309,415千 圓にして內經常部 1,364,977千圓 (5割 9分) 臨時部 944,438千圓 (4割 1分) である。之を前年度豫算に比べると歳入 練額 365,603千圓を増加し、內經常部に於ては 9,131千圓、臨時

7分 女は刑法犯 4割 7分、警察犯處罰令違犯 4割 2分、其の 低 1割 1分で更に刑法犯を罪名別に見ると男は竊盗 5割 7分、詐欺 及恐喝 1割 5分、傷害 5分、賭博及富籤 5分、構領 5分等、女は 竊盗 4割 1分、放火及失火 1割 7分、詐欺及恐喝 1割 4分、殺人 7分等である。

新受刑者の刑法犯の犯人數を年齢別に見ると 18 歳未満の男は 初犯 9割 8分、再犯 2分、女は總て初犯で再犯以上は 1人もな い。前年に比し男初犯の割合僅に増加し女は殆ど變りない。18歳 以上の男は初犯 5割 5分、再犯 1割 9分、3犯以上 5犯 2割 2分 6 犯以上 6分、女は初犯 7割 8分、再犯 1割 0分、3犯以上 5犯 9分、6犯以上3分で前年に比し男は初犯増加せるも再犯減少し、 女は初犯増加し 6犯以上は減少した。

新受刑者の刑名は男有期懲役 8割 2分、拘留 1割 7分で他は無 期懲役37人、有期禁錮 316人、死刑17人、女有期懲役 4割 9分拘 留 5割 1分、他は無期 1人、有期禁錮、死刑は共に無しである。 有期懲役の刑期を見ると三月以下男 6分、女 9分、六月以下は男 以下は男 3割 0分、女 2割 8分、五年以下男 6分、女 6分 9厘、 十年以下は男 2分 7厘、女 3分 0厘、十五年未満は男 2厘、女 5 厘、十五年以上は男女共に2厘である。

入監時の年齡は男は 20歳乃至 30歳最も多く、30歳乃至 40歳、 40歳乃至 50歳之に次ぎ、女は 20歳乃至 30歳最も多く、30 歳乃 至40歳、40歳乃至 50歳之に亞ぎ以上の年齡者で男は新受刑者8割 5分、女は7割3分を占めて居る。飲酒は酒を嗜むもの男6割0 分、女 1割 5分、資産狀態は資産なきもの男 9割 6分、女 9割 7 分である。男の職業は無職業最も多く、工業、商業、農業が之に

昭和六年に於ける少年刑務所の狀況をみるに刑務所9、職員 642 在監者總數 2,852人を算して居る、在監受刑者を刑名別にみ ると懲役無期 6人、有期 2,606人、禁錮 4人、拘留24人で之等の 受刑者は主として竊盗强盗犯にして 2,137人 (8割 2分)に上つて 居る。之に亜いでは詐欺恐喝及横領の 150人、放火の 114人、殺 人の 66人、猥褻姦淫及重婚の 57 人、傷害の 55人が多く他は何

#### 政 (表340-394頁參照)

部に於ては 356,472千圓を各增加した、歳出總額は 365,603千圓 を増加し、內經常部に於て 156,324千圓、臨時部に於て 209,278 干圓を各増加した。

明治十九年內閣制施行後に於ける國家財政の狀況を概觀するに 日清戰後の二十八年度迄は毎年の歳出 80,000 千圓、人口 1に付 2圓內外であつたが翌二十九年度に入り一躍倍加して 169,000平

間となり零々年度は 200,000千圓豪に上り三十七年度迄は一進一 退、同年度 277,000千圓(人口 1 に付 5圓 87錢)となり、日露職後 の三十八年度には頓に増加して 400,000千圓臺(人口 1に付 8圓 88錢) 四十年度には 600,000千圓臺 (人口 1に付 12圓 27錢) と なり、翌四十一年度には尚 636,000千圓に上つたが、四十二年度 には 100,000 千圓を減少して 532,000 千圓に下り、大正三年度 に於て一度 600,000 千圓を出たものあるを除き大正五年度迄は常 に 500,000千圓臺 (人口 1に付 11圓內外)であつた。然るに大正 六年度に至っては 735,000千圓、更に七年度には 1,000,000 千圓 裏(人口 1に付 17圓 51銭) に躍進し爾來逐年増加して大正十年 度には 1,489,856千圓に上り十一年度には 61,390千圓を減少して 1,428,466千圓 (人口 1に付 25圓 15銭) となったが十二年度には 1,521,050 千圓となり 92,584千圓を増加し、更に十三年度に於て 103,974千圓の增加(人口 1に付 27圓 48銭)を示し、十四年度は 100,035千圓を減少したが昭和元年度より再び増加して昭和三年 度には 1,814,855 千圓(人口一人當 29圓 21錢)となり其の翌年度 からは減少に轉じた。然るに同七年度には満洲事變、農村救濟等 に因り 1,950,141千圓 (人口一人當 29圓 42錢) に激増し同八年度 に至りては實に 2,309,415千圓 (人口一人當 34圓 35錢) なる未曾 有の膨脹を來した。

昭和八年度歳入經常部は租稅 5割 4分、官業及官有財産收入 3 割 6分、印紙收入 5分、殘餘の 5分は教育改善及農村振興基金特別 會計より繰入、預金部特別會計より繰入及雜收入である。租税は 酒稅 180,459千圓、所得稅 138,104千圓、關稅 113,668千圓、砂 糖消費稅 74,145千圓、地租 58,255千圓、營業收益稅 36,125千 圓、織物消費稅 30,100 干圓、相續稅 26,017 干圓、資本利子稅 14,961千圓、取引所稅 11,898千圓が主なるもので他は何れも 4,000千圓未滿である。官業及官有財産收入は郵便電信電話 收入 242,439千圓、專賣局益金 173,317千圓、森林收入 31,225千圓、 刑務所收入 5,062千圓、配當金收入 4,615千圓が主なるもので他 は何れる 3,000千圓未満である。

歳入臨時部は公債金の 919,085千圓、雜收入の 19,028千圓、公 共團體工事費分擔金 12,005千圓が主なるものである。

昭和八年度歳出總額中皇室費の 4,500千圓(全歳出の 2厘)を除 き他を所管別に見ると大藏省 2割 1分、陸軍省の 1割 9分、遞信 省の1割5分、海軍省の1割7分、內務省1割、文部省7分、農 林省 5分、司法省 2分、拓務省、外務省の各 1分 商工省 6 厘で 前年度に比し著しき差違はない。

大正九年度に於ては陸、海軍両省で同歳出の4割8分を占めて 居たが昭和二年以降に於ては2割臺に減少し、同八年度には3割 7分を示して居る。

務省 1、內務省 2、大藏省10、陸軍省 2、海軍省 3、文部省 3、 農林省 2、商工省 3、遞信省 2、鐵道省 3、拓務省 8である。特 別會計中には資金又は勘定の如く單に帳簿上の出納に止まるもの あるが、其の額の多少に依て見ると國債整理基金の 1,666,153 千 圓、鐵道の 834,371千圓(歳入)專賣局の 323,756千圓(歳入)朝鮮 總督府の 731,938の千圓等互額のものに屬する。

【純計准算】 前項に掲げた一般會計及特別會計の歳入 歳出金 額の總額を計算した處で、實際の國家の歲入歲出の總額には當ら ない、或る會計で歳田に立ていある金額も他の會計に入るものが あり又或る會計の歳入にして他の會計の歳出に依りて支拂はるよ \*のがあり從て同じ会が二重に歳入又は歳出に計上せられて居 るが爲眞の歳入歳出の總額と云ふものが分らない。故に其の眞の 歳入歳出即ち豫算の統計が調製せられて居るが、之に依ると昭和 八年度に於ける一般會計及特別會計の歳入豫算額は 7,742,708 干 圓、內純計額 5,038,104 干圓、控除額は 2,704,604 干圓である、 更に一般會計及特別會計の歳出豫算總額は 7,404,596 干圓內純計 額 4,913,902千圓、控除額は 2,490,695千圓である。 豫算總額と 純計額との割合を見れば歳入 6割 5分、歳出 6割 6分である。主 要なる控除科目は歳入歳出各三十餘種數十科目に分れる。尚純計 額調製方法の概略は統計表に掲げてある。

【所得稅】 昭和六年度に於ける所得納稅人員は第一種法人 39, 174 第三種 782,814人で前年度に比し前者は 2,392人を増し後者 は 156,111人を減少した。

所得金額は第一種法人 617,499千圓、第二種公債社債銀行定期 預金利子等 561,613千圓、第三種 1,843,004千圓、合計 3,022,115 干圓で前年度に比し 861,330干圓を減少した。

第三種所得は商業の 437,881千圓最も多く、之に亞ぐは俸給々 料歳費の 424,919千圓、貸宅地貸家の 365,708千圓、配當の 240, 147千圓、賞典の 134,416千圓、庶業の 107,581千圓、工業の 67,783千圓、田小作の65,491千圓で、尚50,000千圓以上のもの には貸金預金其他利子、諸給與がある。所得稅納稅額は第一種 33,251千圓、第二種 27,330千圓、第三種 85,525千圓、合計 146, 106千圓、前年度に比し 56,573千圓の減少で大正七年以來の減收 である。之を地方別に見ると東京の 48,881千圓最も多く大阪の 23,301千圓、兵庫の 11,276千圓之に亞ぎ、3,000千圓以上 7,000 千圓は愛知、京都、神奈川、3,000千圓には廣島、新潟、三重、岡 山、靜岡、福岡、北海道にして1,000千圓以上山口、熊本、長 崎、長野、宮城、愛媛、富山、干葉があり、他は 1,000千圓未滿 で内沖繩は 106千圓に過ぎない。

【触租】 昭和七年首に於ける地租納稅人員は 10,100 千人で前 年に比し 726千人を減少し人口 100に付納税者の割合は 15.23前 【特別会計】 昭和八年度に於ける特別會計は39で其の所管は外 | 年に比し 1.57を減少した。而して同年首に於ける地租 65,235千 個中主なるものは田の 31,178千圓、宅地の 24,122千圓、畑の8,023千圓、山林 1,518千圓で他は何れも 170千圓未滿である。 地租納稅額を地方別に見ると東京の 5,998千圓最も多く之に亞ぐは大阪の 4,325千圓、兵庫の 3,124千圓、愛知の 2,758千圓、新潟の 2,414千圓、福岡の 2,219千圓で、少き地方は山梨、奈良、和歌山、鳥取、徳島、高知の各 700千圓未滿で沖繩の如きは 170千圓に過ぎない。

納稅人員 1に付納稅額は全國平均にて6回46錢に當り前年に 比し56錢を減少した、之を地方別に見ると東京の33回、大阪の 23 圓特に多く他は概ね5回乃至7回で其の少いものは高知、大 分、鹿兒島の3回臺、沖繩の2圓臺等である。

【**營業收益稅**】 昭和七年度に於ける法人事業年度數は59,567其 純益額 675,927干圓、內納稅人員 46,152、純益金額 640,231干 圓にして稅額は 19,677干圓である。而して個人營業人員は 672, 940 人其純益額 690,154干圓にして納稅人員は 672,812人純益金 額 689,906干圓稅額は 15,943干圓である。

法人純益額は東京、大阪特に多く兩者の計 140,870 千 圓 に上 り 2割 2分 を占めて居る。個人に於ても東京、大阪の純益總額 165,280千圓に上り 2割 4分を占めて居る。

【國有財産】 昭和七年三月末日現在の國有財産法の支配する國 有財産總額は 8,000,501千圓、內一般會計所屬 4,720,479千圓、特 別會計所屬 3,280,023千圓である。各種財産每の內譯は、公用財 産 6,254,151千圓、替林財産 1,384,436千圓、雜種財産 361,914千 圓で前年に比し總額 311,040千圓を減少した。財産種類の割合は 土地 2割、立木材 1割 4分、建物 1割 1分、工作物及器 具 機械 3割 6分、船舶 1割 5分等である。

更に之を所管別に見ると鐵道省の 2,511,024千圓最も多く之に 亞ぐは海軍省の 1,585,178千圓、農林省の 918,860 千圓、陸軍省 の 808,443千圓、內務省の 618,951千圓、大藏省の 578,576千圓 等で其の最も少いのは拓務省の 316千圓である。

【國富】昭和五年末國富推計額即ち昭和五年末現在內地に於ける物的財貨の總額及對外債權債務差額は 1,102億圓である。之を項目別に見ると土地の 411億圓が最高で建物 228億圓、所藏財貨 188億圓(家具家財 125億、生產品 55億、籌貨及金銀地金 9億圓)之に亞ぎ、樹木は 67億圓、鑛山 65億、鐵道及軌道 36億、船舶 21億、電氣及瓦斯供給設備 19億、工業用機械器具は 18億圓で、他は 7億圓に達しない。國富總額を所有別に見ると私有 8割 4分、官有 1割 2分、公有 4分である。

對外債權債務差額を除く國富額を府縣別に見ると最高は東京の 117億圓で、北海道の 50億、大阪 55億、福岡 51億、兵庫 48億、 愛知 46億、神奈川の 39億圓之に 亞いで多く、一府縣平均 23億 圓に當り沖縄、鳥取、香川、山梨、徳島の諸縣は 10億圓に達し trus

【國債】昭和七年度末に於ける國債總額は 7,911,010 千国で前年に比し 857,841 千圓を増加した、右の中、內國債は 5,663,754 千圓で前年に比し 948,676千圓を増加し外國債は 1,390,442千圓で前年に比し 82,137千圓を滅じた。尚外に借入金 536,450千圓、米穀證券 220,365千圓大藏省證券 100,000千圓あり前年に比し借入金 105,155千圓を大藏省證券 48,280 千圓を滅じ、米穀證券は 144,639 千圓を増加した。人口 1に付國債は內國債 85圓 43錢、外國債 20圓 97錢、合計 106圓 40錢に當り前年に比し 11圓 74錢を増加した。

昭和七年に於ける列國の國債額は英吉利 7,647,950千磅、佛蘭 酉 271,089百萬法 (昭和六年)、伊太利 97,268百萬利、獨逸 11,434,000 干ライヒス麻、北米合衆國 19,487,009干弗で、人口 1に 付割合は英吉利 166磅、佛蘭西 6,480 法、伊太利 2,338 利、獨逸 175ライヒス麻、北米合衆國 157弗である。

地方財政 歳入總額は 491,663千圓で平均 1府縣 10,461 千圓に當り、前年度に比 し總 額 に 於 て 61,148千圓平均に於て 1,301千圓を増加した。歳入の主なるものは租稅で全額の 4割 4 分を占め、內直接國稅附加稅 2割 2分を占め尙國庫補助金及下渡 金、道府縣債等が主な財源である。

同年度道府縣の歳出は土木費に 2割 5分、教育費に 2割 1分、 警察費に 1割 7分、勸業費に 1割 5分等の割合となつて居る。

蔵出總額を地方別に見ると東京の 48,965千圓最も多く之に 理 ぐは大阪の 27,532千圓、兵庫の 21,491千圓、愛知の 21,270千 圓、福岡の 19,567千圓で尚宮城、山形、茨城、群馬、千葉、神 奈川、新潟、長野、岐阜、靜岡、京都、廣島は 10,000千圓を超 え他は 4,000千圓以上 10,000千圓の地方多く、4,000千圓未滿は 高知、奈良、沖縄である。

【市】 昭和七年度豫算に依る全國市の歳入總額は 590,670干圓で、前年度に比し 38,717干圓を減少した、歳入の主なるものは使用料及手数料の 3割 1分、租税の 1割 9分、公債金の 1割 8分 鑑である。

昭和七年度豫算に依る市の歳出總額は 590,576千圓で內公債費 に 2割 5分、電氣瓦斯事業に 2割、教育費に 1割 3分、土木費に 7分といふ割合になつて居る。

【町村】昭和七年度豫算に依る町村議入總額は 452,267千圓で 前年度に比し 14,438 千圓を増加した。歳入の主なるものは租税 で 4割 7分を占め内直接國稅附加税 9分を占め、稅外收入の主たるものは下渡交付及補助金、使用料及手數料、公債金、前年度繰越金、財産より生ずる收入等である。

町村歳出總額は 451,983千圓で教育費に 4割 3分、役場費に 1

割 6分 土木費に 7分等が其の主たる項目を成して居る。

【地方債】 昭和六年度末に於ける地方債の總額は 2,535,086 平 圓で前年度に比し 160,670千圓を増加した、團體別に見ると市債 1,596,468 干圓、道府縣債 580,128 干圓、町村債 312,832 干圓、 水利組合債(土功) 45,657千圓で、其の目的別は普通土木費 2割 8分、電氣及瓦斯事業 2割 2分、衞生費 1割 3分、数育費 7分、災害土木費 7分、社會事業費 7分、勸業費 6分の割合である。

#### XIV. 選擧、官公吏、軍事及恩賞 (表395—429頁參照)

選舉

【多額納稅者議員】 每七年改選に依る貴族 院議員多額納稅者議員の最近昭和七年九月第

七回選舉に於ては議員定数 66 人、互選人定数 6,600人中、選舉 當日の互選養格者は 6,530人で、互選養格者は前回に比し 278人 を増加した。

投票中有效 5,970票、無效票 17 である。互選權を有する者の 直接國稅總納稅額は 14,311千圓で前囘に比し 9,555千圓を減少し た。其の一人當納稅額最高 119,545圓で最低 100圓、前囘に比し 最高 137,763圓、最低に於て 136圓の減少である。

昭和七年九月十日に於ける互選權者納稅額の最高は東京の 111 千圓で之に亞ぐは兵庫の 79千圓、大阪の 46千圓、京都及岡山の 各44千圓、北海道の 41千圓、其の他は 34千圓以下で最低は山梨 の3千圓である。

【衆議院議員】 昭和七年二月議員数は 466人、議員 1人に對する人口は 140,271人で 1府縣の議員は東京府の 31 人を最多とし島取縣の 4人を最少とする。昭和七年二月の總選舉に於て選舉權を有する者の數は 13,095,621人で人口 1,000に對する有權者の割合は 200.34 人に當る、各府縣中の右の割合最も多いのは沖繩の236 人で其の最も少いのは北海道の 175人である、議員 1人に對する有權者は 28,102人に當り、大阪の 34,754人最も多く佐賀の22,716 人最も少い。

有權者中投票したる者と投票せざりし者との割合は前者 8割 2分、後者 1割 8分、投票中有效は 9割 9分、無效は 1分となって居る。

衆議院議員の年齡を見るに 50歳以上 54歳の 113人最も多く、45 歳以上 49歳の 105人、60歳以上の 93人、55歳以上 59歳の80人、40歳以上 44歳の 54人、35歳以上 39歳の 19人、30歳以上34歳の 2人の順位である。職業は無職業 81人、辯護士及會社員各79人、農林業 73人、著述通信 及新聞雑誌記者 52人、官吏 39人等多く倚右以外の職業者の順位は教員、醫師及藥劑師、商業、鑛山業、工業、軍人、銀行員である。

【府縣會議員】 主として昭和六年の選舉に係る議員数は 1,901 人中、市部 403 人、郡部 1,498人である、選舉有権者の 總 数は 12,362,364 人で東京の 877,058人最も多く鳥取の 98,451人 最も 少い。議員 1人に付有権者は 6,503人で前回に比し僅かに増加し た。 選舉有權者に對する投票者の割合は 7割 2分、**棄權者の割合は** 2割で、投票中有效の割合は 9割 9分である。

【市町村會議員】 本項は前各項の如く選擧の結果に非ずして昭和六年末に於ける現在の調査である。

市會は 109、議員 3,886人、選舉有權者 2,935,032人で、議員 1 人に付有權者 755人である。町會は 1,669、議員 29,213人、選舉有權者 2,854,132人で議員 1人に付有權者 98人である。村會は 9,623、議員 124,873人選舉有權者 6,757,212人で議員 1人に付有權者 54 人である。町村組合會は 33、議員 430 人、選舉有權者 20,875 人で議員 1人に付有權者 49人である。町村總會は 1、選舉有權者 13人である。

何北海道一級二級町村制並東京府に於ける島嶼町村制に依るものがある、即ち町會は 44、議員 984人、選舉有權者 117,836人、村會は 242、議員 3,586人選舉有權者 259,103人である。

官公吏

【文官】 昭和七年末に於ける國庫支給の俸 給を受くる文官は勅任 1,466人年俸 7,779千

回、奏任 14,280人年俸 37,166千圓、判任 115,242人 俸給年額 112,743千圓、合計 130,988人、俸給總額 157,689千圓、雇員 354,810人、給料年額 190,820千圓で平均俸給年額は 勅任 5,306 圓、奏任 2,603圓、判任978圓、雇員 538圓である。

勅奏判任を通じて官吏を所屬別に見ると最も多いのは遞信省の27,526人、之に亞ぐは鐡道省26,923人、朝鮮總督府13,293人、大藏省の11,824人で、他は10,000人以下である。即ち司法省は8,331人、文部省は7,826人、臺灣總督府は6,007人、農林省3,835人、內務省は2,427人、關東廳2,059人、陸軍省1,950人、商工省1,714人、海軍省1,256人、外務省1,117人、棒太廳1,047人で其の他は1,000人以下である、地方廳は北海道廳2,017人、營融廳1,282人で、府縣9,354人、1府縣平均199人に當る。

【武官】 昭和七年末に於ける陸軍現役士官以上の人 員 總 數 は 13,901人にして、將官及相當官 233人、佐官及相當官 3,939人、 尉官及相當官 9,729人である。

昭和七年末に於ける海軍現役准士官以上の人員總數は 8,184人 にして、將官 118人、佐官 2,146人、尉官 2,538人、特務士官 1, 347人、候補生 349人、准士官 1,686人である。

尚海軍に於ては下士官 19,224人、兵 56,414人、生徒 553人が 在る。

【鐵道職員及團信職員】 昭和六年末國有鐵道職員は親任 1人、 動奏任及同待過 919人、判任及同待遇 24,762人、雇員の男 75,090 人、女 3,652人、傭の男 90,277人、女 3,977人、合計 198,678人 で前年に比し 5,886人を減少した。

遞信職員は一等局 51,083、二等局 30,517、三等局 85,621 に して其雇員以下の數を見るに雇員に於ては通信事務 55,601人、電 話事務 23,321人其他 120人にして傭人に於ては 遞 送 4,592人、 集配 47,726人其他 7,780人である。

【警察官署及職員】 昭和七年末に於ける警察官署數は、警察署 1,209、警察官派出所 4,421、巡査駐在所及立番所 14,345である、 警察署及派出所は一府縣平均 120、駐在所は一市町村平均 1.2に 當る。

昭和七年末に於ける職員は警視 316人、警部 1,544人、警部補 3,524人、巡査 57,763人、合計 63,147人で前年に比し 995人を増 加した、警官 1人に付入口は 1,148 人で前年に比し 3 人を増加 した、昭和六年末内地以外に於ける狀態をみるに朝鮮は警察署 250派出所 2,666を有し其職員總數 18,756人あり、巡査 1人に付 人口は 1,157である、臺灣に於ては派出所 1,510を有し其職員總 數 7,934人あり、巡査 1人に付人口は 651である、樺太に於ては 警察署 12、派出所 100あり、職員 528 を有し巡査 1 人に付入口 | 最も多く 1米 57.5以上 1米 60.0未満の 1割 6分 8厘、1米 62:5 591 人で、關東州は警察署 22 派出所 386あり職員 2,944人を有 し巡査 1 人に付入口 459 人、南洋廳に於ては警察署 6、派出所 3、立番所 17 を有し、職員 113 人あり巡査 1 人に付入口 730 人である

【司法官署及職員】 昭和七年十月一日に於ける裁判所數は 341 にして前年に比し 1を増した。而して判事 1,315、檢事 619、書 配長 8、司法官試補 156、書記 5,028、延丁 1,225、雇員 4,778、 線数 13.129 人が集はつて居る。裁判所は更に大審院 1、控訴院 7、地方裁判所 51、區裁判所 282に分たれて居る。

昭和六年末に於ける刑務所(內地)は 52 支所 102にして警察留 置場 1,224がある、職員は典獄 42人、典獄補 33人、看守長 454 人、通譯4 人、保健技師技手 112人、教誨師 134人、教師 34人、 作業技師及技手 413人、看守 6,138人、女監守 101人、雇傭 1,196 人、總數 8,671人である。

【在外公館職員】昭和七年末に於ける在外公館の官吏は大使館 公使館 321人、總領事館及領事館 2,300人で前年に比し前者は 33 人、後者は860人を増加した。

【宮内職員】 昭和七年末に於ける宮内官吏(女官を除く)は勅任 109(内無給 59)人、奏任 325(内無給 34)人、判任 2,110(内無給 2,279人で前年に比し 645 人を減少した、取扱犯罪人は軍人 507 36)人、合計 2,536人、他に雇傭 2,213人あり、その 俸給年額計 4,244千圓で前年に比し總人員 36人を増加し、俸給年額計 34千圓 を減少した。

宮内職員の部局別は帝室林野局及大臣官房の各 612人、諸陵寮 257人、內匠寮 166人、李王職 145人、主馬寮 117人、式部職113 人、學習院 82 皇族附 79人、女子學習院 64人、他は 50人に滿 たない。

【公吏】 昭和六年末に於ける府縣名譽職參事會員は 478人吏員 は 13,096人其の俸給年額 7,846千圓で前年に比し參事會員 4 人 を滅じ、吏員 916人を増加し、有給吏員の俸給年額 564千圓を増 加した。

昭和六年末に於ける市名譽職及吏員は 41,390 人其の有給吏員 俸給年額 29,834千圓で前年に比し 745 人増加し、後者は54 千圓 を減少し、町村名譽職及吏員は 340,287 人其の有給吏員俸給年額 28,773 干圓で前年に比し 2,794 干圓を減じ 1,487人を増加した。

【壯丁】昭和七年中に於ける壯丁檢查人員 は618,274人で前年に比し2,801人を増加した。 檢査人員の最も多いのは東京の28,776人で15,000人以上の地方と しては東京の外北海道、愛知、兵庫、大阪、新潟、福岡、廣島、鹿兒島、 静岡、長野、福島、埼玉、茨城あり其の最も少いのは瀧太の851人で 鳥取の5,017人、沖縄の5,239人、宮崎の7,070人等少い部類である。

出丁の身長の割合は 1米60以上 1米 62.5未満の 1割 7分 4 厘 以上1米 65.0未満の 1割 4分 1厘、1米 55以上 1米 57.5未満の 1 割 3分8厘之に亞ぎ、尚是より長身のもの及短身のものの割合順次 相亞ぎ、1米 75.0以上は 5厘、1米 45.0未満は 6厘である。 尚外 に測定不能者 3,570人あり、前年に比して 103人を減少した。而 して平均身長は 1.600米である。

同年に於ける壯丁の教育程度は高等小學校卒業及之と同等者最 も多くて 5割 2分 4厘を占め之に亞ぐは尋常小學校卒業及同上中 途退學者 3割 3分 5厘、中學校卒業及之と同等者 1割 1分 2厘、 高等學校及專門學校卒業及之と同等者2分1厘、大學卒業及之と 同等 6厘、不就學者にして讀書算術を爲し得る者、4厘、讀書算 術を爲し得ざる者 3厘で、高等教育を受けたる者の割合は近年少 しく増加の傾向を示して居る。

【陸軍教育機關】昭和七年末に於て、陸軍部内の教育機關は、 陸軍大學校を始め 20あり、其の教官は 598 人、卒業者は 3,439 人で前年に比し数官数 5人を減じ卒業者 664人を減少した。

【富兵隊】 昭和七年末に於ける憲兵隊人員は 2,883人で准士官 以上 282人、下士官 975人、兵 968人、赐託 102人、雇員 28人、 傭人 528人で前年に比し 168人減少してゐる。其の取扱犯罪人は 人、軍屬 25人、其他の者 1,747人である。

【軍艦】 昭和七年末に於ける軍艦は 75隻、 排水量 661,920噸、驅逐艦は 103隻、排水量 122,493 噺で前年に比し隻敷は軍艦 1隻、驅逐艦 10隻を減少し、 排水量は軍艦 11,590噸驅逐艦 1,302噸を減少した。

【海軍募兵】 昭和七年度に於ける募兵數は 4,668人、內水兵の 2,478人最も多く機關兵の 1,596人之に亞ぎ主計兵 264人、航空兵 157人、看護兵120人、軍樂兵 53 人に分たれ總数を前年に比すれ ば8人の減少である、之を地方別に見ると福岡の298人最も多く 山口の 284人、鹿兒島の 260人、熊本の 211人、廣島の 200人之 に亞ぎ他は凡て 100人內外の地方で其最も少いのは沖繩の 8人、 樺太の 18人等である。

【海軍教育機關】昭和七年度末に於ける海軍の教育機關は海軍 大學校、兵學校、機關、軍醫、經理、砲衛、水雷、潜水、工機、 通信の 10校である。

其の教官は 1,137人、學生、生徒は 1,166人、練習科生は 3,334 人である。

【海軍刑務所】 昭和七年度に於ける海軍刑務所の狀況は未決年 末残留 43 人にして前年より 21 人を増加し、入監 297人、出監 270人で何れも前年より減少して居る。既決に就ては年末殘留 81 人にして前年より 13人を減少して居る。

【海軍下士官及兵の費用】 昭和七年度末人員數 75,767 人に對 する費用總額は 28,613 干圓にして 1人平均 378 圓に當り總額を 費途別に分てば俸給に 5割 8分糧食に 3割残餘の 1割 2分は被服 費に當てられて居る。

昭和七年末に於て政府より恩給を受くる人員 は 246,623人、金額 116,703千圓、扶助料を 受くる人員は 122,041 人、金額 27,464 干圓で前年に比し恩給は 4,985人、扶助料 2,450人を増加した。恩給は文官 64,294人、 40,654 干圓、陸軍々人 111,403人、49,499干圓、海軍々人 70,926 人 26,553千圓となって居る。

扶助料は文官 26,556人、7,681千圓、陸軍々人 79,188人、15,897 千圓、海軍々人 16,297人、3,886千圓である。

昭和七年中新に恩給を受領した者は文官 5,102人、4,122千圓、 陸軍々人 1,963人、1,371干圓、海軍々人 2,774人、1,400干圓、 教育職員 1,113人、1,028干圓、警察刑務所職員 319人、79干圓、 待遇職員 33 人、20千圓である。新に扶助料を受領した者は文官 1,457 人、508 干圓、陸軍々人 5,354人、1,157 干圓、海軍々人 1,322人、298干圓、教育職員 254人、103干圓、警察刑務所職員 231人、24千圓、待遇職員 17人、6千圓、癈兵院入院者 13 人 1 于圓である。

昭和七年中に於て恩給受領權の消滅した者は 6,326人、3,183千 圓、扶助料受領權の消滅した者は 6,198人、1,254千圓である。

昭和七年中に於ける一時金受給者は4,408人、2,593千圓にして 前年に比し 435人を減じたが 112千圓を増加した。

【有爵者】昭和七年末に於ける有爵者は 1,007人で前年に比し4人を増加した。公爵

19人、侯爵 44人、伯爵 112人、子爵 394人、男爵 438 人で前年 に比し侯爵 1人を滅じ、子爵 2人、男爵 3人を増加した。

【有位答】 昭和七年末に於ける有位者は 210,770人で前年に比 し 12,438人を増加した、而して從一位 1人、正二位 30人、從二 位 57人、正三位 362人、從三位 725人、正四位 1,670人、從四 位 3,380人、正五位 7,659人、從五位 10,914人、正六位 13,323 人、從六位 17,697 人等位階の下るに從ひ順次増加して正八位の 70,552人最も多く從八位は 2,023人である。

昭和七年末に於ける勳章佩用箇數は 1,251,25 8 其の人員數1,166,434で前年に比し 5,746簡

を増加した、各等勳章佩用人員は大勳位 16人、勳一等 298人、 勳二等は 1,079人、勳三等 6,277 人、勳四等 9,138 人、勳五等 14,725人、動六等 39,839人、動七等 170,212人、動八等 924,850 人である。

昭和七年末に於ける旭日勳章年金受領者は 3,252人、其の金額 200,150圓で前年に比し 125人 10,365 圓を減少し、同年末に於け る金鵄勳章年金受領者は 59,640人、其の金額 10,640千圓で、前 年に比し 1,164人、233千圓を減少した。

昭和七年に於ける勳章褫奪人員は 285人で前年に比し 64 人を 減少し、內金鵄勳章褫奪人員は 15人で前年に比し 14人を増加し

昭和七年中外國人新敍勳人員は 62人で前年に比し 21人を増加

昭和七年中外國勳章佩用允許人員は85人で前年に比し85人を 減少した。

昭和七年中に於ける褒章受領者は 123人で前 年に比し 65 人を減少した、其の褒章は全部 組綬である。

褒狀、賞杯受領者及金員表彰者は昭和七年中賞勳局より 982人 で、前年に比し1,091人を減少し昭和六年中地方聰よりは18,787 人で前年に比して 6,688人を減少した。

計 表